

283

18

283

18

松山高等學校一覽
第拾四學年度（昭和七年度）

本一覽内卒業生氏名中ニ於
テ族籍氏名等ニ異動又ハ誤
謬アルコトヲ發見セラレ候
節ハ本校庶務課ニ御一報ヲ
煩ハシ度候

松山高等學校一覽

目次

第一 沿革	略	一
第二 學年	曆	二
第三 學則	則	三
第一章 總則	則	三
第二章 學科課程、教授時數	則	四
第三章 學年、學期、休業	則	四
第四章 入學、在學	則	五
第五章 休學、退學、除名	則	七
第六章 成績考查、修了、卒業	則	九
第七章 授業料	則	〇
第八章 寄宿舍	則	二

發行所寄贈本



目次

一

第九章 服制	二二三
第十章 圖書、器具、機械	二二三
第十一章 褒賞、懲戒	二三四
第四 生徒心得	三三一
第五 細則	
一 學期施行細則	三二二
第二章 學科、授業	三二二
第二章 在學、休學、轉科、轉類	三二三
第三章 編制	三三五
第四章 成績考查、試驗	三三六
第五章 授業料、寄宿舍費	三三九
第六章 寄宿舍	三三九
第七章 服制	三四一
第八章 圖書	三四二
二 生徒心得細則	三四四
三 服務及處務細則	三四六
第一章 教官ノ服務	三四六

第二章 事務員ノ服務	四四七
第三章 學校醫ノ服務	四四八
第四章 教育事務	四四九
第五章 分課事務	四五二
第六章 文書處理	五五六
第七章 當直	五五八
四 物品會計規程細則	六六〇
第六 職員	六六六
第七 生徒卒業者	
一 生徒氏名	七四
二 卒業者氏名	八三
三 生徒年齡調	一一五
四 本年度入學者學歷別	一一五
五 生徒、入學志願者、入學者及卒業者科類別	一一六
六 生徒及卒業者原籍地方別	一一七
七 卒業者狀況調	一二一

第八 敷地建物

附錄

- 校友會規則……………一二九
- 校友會役員……………一三二
- 對抗競技ニ關スル全國高等學校長ノ申合事項……………一三四
- 同窓會規約……………一三五
- 舊職員……………一三八

第九 關係法令

- 一 高等學校令……………一
- 二 高等學校規程……………三
- 三 高等學校教授要目……………一六
- 四 文部省直轄諸學校官制(抄)……………八五
- 五 文部省直轄諸學校職員定員令(抄)……………八七
- 六 文部省直轄諸學校長職務規程……………八八
- 七 高等學校教員規程……………八八
- 八 帝國大學官立大學及文部省直轄諸學校雇外國人ニ關スル件……………九一

- 九 高等學校高等科入學資格試驗規程……………九二
- 一〇 文部省直轄學校外國人特別入學規程……………九二
- 附 外國人及殖民地人學生ニ對スル入學取扱方……………九三
- 一一 臺灣、朝鮮人文部省直轄諸學校入學ハ外國人特別入學規程準用……………九四
- 一二 高等師範學校及文部省直轄諸學校生徒ノ學校長ノ許可ヲクシテ受ケタル他ノ高等師範學校及直轄諸學校入學試驗無效ニ關スル件……………九四
- 一三 文部省直轄諸學校ノ二學校以上入學出願者ノ入學スヘキ學校……………九四
- 一四 高等學校高等科學力檢定規程……………九五
- 一五 學生生徒兒童身體檢査規程(抄)……………九五
- 一六 學生生徒兒童身體檢査規程上ノ發育概評決定標準(抄)……………九八
- 一七 學校醫職務規程……………九九
- 一八 兵役ニ關スル法令(抄)……………一〇一
- 一九 陸軍現役將校學校配屬令(抄)……………一〇二
- 二〇 學校教練教授要目(抄)……………一〇三
- 二一 學校及圖書館特別會計法(抄)……………一〇五

本校敷地建物圖

附圖

表

卷末

第一 沿革略

大正八年

四月十四日 勅令第百十二號ニヨリ本校ヲ設置セラレ同日勅令第百十三號ヲ以テ職員ノ員數ヲ校長一人教授十六人書記三人ト定メラル

四月十五日 第三高等學校教授由比賀校長ニ任セラレ

四月十六日 文部省令第十三號ヲ以テ本校ノ位置ヲ愛媛縣松山市ニ定メラル同日文部省内務事務所ヲ置キテ事務ヲ開始ス

六月一日 文部省内務事務所ヲ松山市公會堂本校假校舎内ニ移ス

七月三十一日 生徒百六十八人ノ入學ヲ許可ス

九月一日 文部大臣ノ許可ヲ受ケ本校學則ヲ制定ス

九月十日 松山市宮古町大林寺ニ於テ本校代用寄宿舎ヲ開始ス

九月十一日 松山市公會堂本校假校舎ニテ入學式ヲ行ヒ同十二日ヨリ授業ヲ開始ス

十月十六日 教育勅語ヲ拜受ス

十月二十六日 十月二十六日ヨリ同月二十九日マデ四日間周桑郡小松町新居郡別子銅山四坂島精鍊所及越智郡今治市方面へ修學旅行ヲ舉行ス

沿革略

本校教科用書目表

目次

六

卷末

本校教科用書目表

一、国語

二、算術

三、理科

四、社会科

五、音楽

六、美術

七、体育

八、衛生

九、英語

十、その他

卷末

大正九年

五月三十一日 勅令第八十號ヲ以テ本校職員定員ヲ教授二十人書記四人ニ改メ助教授一人ヲ加ヘラル

七月二十七日 本校敷地ノ引渡シヲ受ク

七月三十一日 生徒百五十七人ノ入學ヲ許可ス

八月二十三日 愛媛縣温泉郡道後村大字持田本校新築校舍ニ移轉シ事務ヲ開始ス

九月一日 入學式及始業式ヲ舉行シ同日ヨリ授業ヲ開始ス在學生徒三百十六人

九月二十一日 文部大臣ノ許可ヲ受ケ學則中第二十條及第二十一條ヲ改正ス

十月十三日 天皇陛下 皇后陛下御眞影並ニ 皇太子殿下御影下賜セララル

十一月廿二日 文部大臣ノ許可ヲ受ケ學則中第三條、第四條、第五條、第二十一條ヲ改正ス

大正十年

二月二十六日 文部大臣ノ許可ヲ受ケ學則中第三條、第四條、第五條、第二十一條ヲ改正ス

三月三十日 勅令第五十號ヲ以テ本校職員定員ヲ教授二十五人、助教授四人、書記五人ニ改メラル

四月五日 生徒百五十人ノ入學ヲ許可ス

四月十一日 入學式及始業式ヲ舉行ス在學生徒四百六十八人

六月六日 文部大臣ノ許可ヲ受ケ學則中第十三條、第十八條、第十九條、第二十七條ヲ改正ス

十一月二十日 本校開校式ヲ舉行ス

大正十一年

一月十二日 文部大臣ノ許可ヲ受ケ學則中第二十二條、第二十三條、第二十七條ヲ改正ス

三月四日 第一回卒業スヘキ生徒ノ送別式ヲ舉行ス

三月二十五日 第一回卒業者百二十一人ニ卒業證書ヲ授與ス

四月十一日 生徒百四十四人ノ入學ヲ許可ス

四月十一日 入學式及始業式ヲ舉行ス在學生徒四百八十八人

五月十二日 寄宿舎食堂炊事場煙突ヨリ出火同建物一棟ヲ焼失ス

七月十日 文部大臣ノ許可ヲ受ケ學則中第二十七條ヲ改正ス

十一月十二日 閑院宮殿下本校ニ台臨遊ハサル

十一月廿四日 皇太子殿下本校ニ行啓遊ハサル

大正十二年

三月三日 第二回卒業スヘキ生徒ノ送別式ヲ舉行ス

三月七日 寄宿舎食堂炊事場火災復舊工事竣成ス

三月二十五日 第二回卒業生百四十六人ニ卒業證書ヲ授與ス
 四月一日 本校所在地名ヲ松山市大字持田ト改稱セララル
 四月十一日 生徒百五十六人ノ入學ヲ許可ス
 四月二十五日 入學式及始業式ヲ舉行ス在學生徒四百九十二人
 四月二十五日 文部大臣ノ許可ヲ受ケ學則中第二十七條ヲ改正ス
 七月三日 文部大臣ノ許可ヲ受ケ學則中第二十二條ヲ改正ス
 七月十二日 同窓會發會式ヲ舉行ス
 十月三十日 十月三十日ヨリ十一月四日マデ六日間京阪(天橋立、伊勢、高野山、大阪附近、京都帝國大學臨海研究所等)九州(阿蘇山、耶馬溪、門司、福岡附近)方面へ修學旅行ヲ舉行ス

大正十三年

三月三日 第三回卒業生ヘキ生徒ノ送別式ヲ舉行ス
 三月二十五日 第三回卒業生百五十二人ニ卒業證書ヲ授與ス
 四月十一日 生徒百五十七人ノ入學ヲ許可ス
 四月十一日 入學式及始業式ヲ舉行ス在學生徒四百八十七人
 六月十一日 文部大臣ノ許可ヲ受ケ學則中第二十三條、第二十四條ヲ改正ス
 七月十三日 第二回同窓會總會ヲ開ク
 十月二十四日 開校第五周年記念式ヲ舉行ス

大正十四年

三月三日 第四回卒業生ヘキ生徒ノ送別式ヲ舉行ス
 三月二十五日 第四回卒業生百三十五人ニ卒業證書ヲ授與ス
 三月三十日 文部大臣ノ許可ヲ受ケ學則中第二十三條乃至第二十七條ヲ改正ス
 四月一日 勅令第八十一號ヲ以テ直轄諸學校職員定員令中改正セラレ本校助教授四人ヲ三人ニ改メラル
 四月七日 校長由比賀第七高等學校造士館長ニ任セラレ橋本捨次郎校長ニ任セララル
 四月十一日 生徒百五十三人ノ入學ヲ許可ス
 四月十一日 入學式及始業式ヲ舉行ス在學生徒四百九十八人
 五月十日 天皇 皇后兩陛下御結婚滿二十五年奉祝式ヲ舉行ス
 六月三日 勅令第二百十六號ヲ以テ直轄諸學校職員定員令中改正セラレ本校書記五人ヲ六人ニ改メラル
 七月十三日 第三回同窓會總會ヲ開ク
 十二月十二日 照宮成子内親王殿下御誕生奉祝式ヲ舉行ス

大正十五年

三月三日 第五回卒業生ヘキ生徒ノ送別式ヲ舉行ス
 三月二十五日 第五回卒業生百六十五人ニ卒業證書ヲ授與ス

四月 七日 文部大臣ノ許可ヲ受ケ學則全部ヲ改正ス
 四月 十一日 細則全部ヲ改正ス
 四月 十二日 始業式ヲ舉行ス
 四月 十九日 生徒百六十二人ノ入學ヲ許可ス
 四月 十九日 入學式ヲ舉行ス在學生徒四百八十七人
 九月 三日 第四回同窓會總會ヲ開ク
 十二月 十七日 天皇陛下ノ御惱御平癒祈願ノ御爲伊勢神宮遙拜式ヲ舉行ス

昭和二年

一月 八日 大行天皇奉悼式ヲ舉行ス
 二月 七日 大正天皇御大喪儀遙拜式ヲ舉行ス
 三月 三日 第六回卒業スヘキ生徒ノ送別式ヲ舉行ス
 三月 二十五日 第六回卒業業者百三十九人ニ卒業證書授與ス
 三月 三十一日 文部大臣ノ許可ヲ受ケ學則中第三十四條、第三十五條、第三十八、第三十九條ヲ改正ス
 四月 十一日 始業式ヲ舉行ス
 四月 十九日 生徒百五十三人ノ入學ヲ許可ス
 四月 十九日 入學式ヲ舉行ス在學生徒四百九十一人
 六月 三十日 文部大臣ノ許可ヲ受ケ學則中第三十一條ヲ改正ス

昭和三年

七月 十二日 第五回同窓會總會ヲ開ク
 八月 二十七日 校長橋本捨次郎依願本官ヲ免セラレ教授金子幹太校長ニ任セラル
 九月 十日 久宮祐子内親王殿下御誕生ニ付祝詞ヲ奉ル
 十二月 廿七日 勅令第三百六十六號ヲ以テ直轄諸學校職員定員令中改正セラレ本校ハ助手ノ欄ニ「一人」ヲ加ヘラル
 三月 三日 第七回卒業スヘキ生徒ノ送別式ヲ舉行ス
 三月 八日 久宮祐子内親王殿下御薨去ニ付 天機並ニ御機嫌伺ヲ奉ル
 三月 十三日 久宮祐子内親王殿下御葬儀ヲ行ハセラル、ニ付遙拜ヲ行フ
 三月 二十五日 第七回卒業業者百五十三人ニ卒業證書ヲ授與ス
 四月 十一日 生徒百五十六人ノ入學ヲ許可ス
 四月 十一日 入學式及始業式ヲ舉行ス在學生徒四百七十五人
 七月 六日 文部大臣ノ許可ヲ受ケ學則中第八條、第十條、第十一條、第十六條、第二十二條ヲ改正ス
 九月 二日 第六回同窓會總會ヲ開ク
 九月 二十八日 秩父宮雅仁親王殿下御結婚ニ付祝詞ヲ奉ル
 十月 九日 天皇陛下 皇后陛下御眞影下賜セララル
 十月 二十九日 勅令第二百五十六號ヲ以テ直轄諸學校官制中改正セラレ第六條中

「生徒監」ヲ「生徒主事」ニ改メ「書記」ノ次ニ「生徒主事補」ヲ加ヘラル同日勅令第二百五十七號ヲ以テ直轄諸學校職員定員令中改正セラレ教授ノ欄ノ下ニ生徒主事ノ欄、書記ノ欄ノ下ニ生徒主事補ノ欄加ハリ本校ハ生徒主事及生徒主事補ノ各欄ニ「一人」ヲ加ヘラル

十一月十日 即位禮當日ニ付祝賀式ヲ舉行シ賀表及言上書ヲ奉呈ス校長ハ京都ニ於テ即位禮諸儀ニ參列ノ光榮ニ浴ス

昭和四年

一月二十七日 久邇宮邦彥王殿下御薨去ニ付 天機並ニ御機嫌伺ヲ奉リ久邇宮家ニ奉悼ノ詞ヲ申上ク

三月二日 第八回卒業スヘキ生徒ノ送別式ヲ舉行ス

三月二十五日 第八回卒業者百四十一人ニ卒業證書ヲ授與ス

四月一日 學則中第三十四條、第三十五條、第三十九條ヲ改正ス

四月十一日 生徒百六十八人ノ入學ヲ許可ス

四月十一日 入學式及始業式ヲ舉行ス在學生徒四百八十九人

六月一日 細則一學則施行細則第六章寄宿舎第五十四條、三服務及處務細則第五章分課事務第四十八條及第四十九條中改正ス

七月十二日 第七回同窓會總會ヲ開ク

九月三十日 孝宮和子内親王殿下御誕生ニ付祝詞ヲ奉ル

十月二日 神宮式年遷宮遙拜式ヲ舉行ス

十月十七日 本校創立十周年記念祝賀式ヲ舉行シ同窓會ノ建設ニ係ル由比創立校長ノ胸像除幕式ヲ行ヒ勳績者ヲ表彰ス

十月十八日 本校職員、生徒ノ物故者祭式ヲ執行ス

昭和五年

二月四日 高松宮宣仁親王殿下御結婚ニ付祝詞ヲ奉ル

二月十七日 文部大臣ノ許可ヲ受ケ學則中第四十條、第四十一條ヲ改正ス

三月十一日 文部大臣ノ許可ヲ受ケ學則中第六十一條ヲ改正ス

三月十三日 第九回卒業スヘキ生徒ノ送別式ヲ舉行ス

三月二十五日 第九回卒業者百四十三人ニ卒業證書ヲ授與ス

三月三十一日 文部大臣ノ許可ヲ受ケ學則中第三十四條、第三十五條、第三十九條ヲ改正ス

四月七日 本校創立校長現第七高等學校造士館長由比質薨去ニ付弔意ヲ表ス

四月十一日 生徒百五十四人ノ入學ヲ許可ス

四月十一日 入學式及始業式ヲ舉行ス在學生徒四百八十六人

四月十六日 故由比本校創立校長ノ十日祭遙拜式ヲ舉行ス

七月十一日 第八回同窓會總會ヲ開ク

十月二日 本校所在地名ヲ松山市湯渡町ト改稱セラル

十月三十日 教育勅語發滿四拾周年祝賀式ヲ舉行ス

昭和六年

二月五日 昭和三月十日九日御下賜ノ 天皇陛下 皇后陛下御眞影ヲ奉還ス

二月五日 天皇陛下 皇后陛下御眞影下賜セララル

二月六日 文部大臣ノ許可ヲ受ケ學則中第九條ヲ改正ス

三月三日 第十回卒業スヘキ生徒ノ送別式ヲ舉行ス

三月七日 順宮厚子内親王殿下御誕生ニ付祝詞ヲ奉ル

三月二十五日 第十回卒業者百四十四人ニ卒業證書ヲ授與ス

四月十一日 生徒百五十四人ノ入學ヲ許可ス

四月十一日 入學式ヲ舉行ス在學生徒四百七十六人

四月十三日 始業式ヲ舉行ス

六月二十五日 文部大臣ノ許可ヲ受ケ學則中第五十條ヲ改正ス

七月十一日 第九回同窓會總會ヲ開ク

昭和七年

二月十三日 昭和六年十月三十日 天皇陛下 東京高等師範學校六十年記念式場

並ニ東京文理科大學及東京高等師範學校ニ行幸ノ際下シ賜ハリタル勅語ノ謹寫ヲ金

庫内ニ奉置ス 松山聯隊某方面ニ出動ニ付職員生徒見送りス

三月三日 第十一回卒業スヘキ生徒ノ送別式ヲ舉行ス

三月二十五日 第十一回卒業者百三十六人ニ卒業證書ヲ授與ス

三月二十九日 松山聯隊凱旋ニ付職員生徒歡迎ス

四月十一日 生徒百四十二人ノ入學ヲ許可ス

四月十一日 入學式ヲ舉行ス在學生徒四百六十八人

四月十二日 始業式ヲ舉行ス

四月二十日 文部大臣ノ許可ヲ受ケ學則中第三十四條、第三十五條、第三十九條

ヲ改正ス

五月一日 本校所在地名ヲ松山市持田町ト改稱セラル

第一學限 (昭和三年)

第二學限 (昭和三年)

昭和八年三月三十一日

第二學年 曆

自昭和七年四月三十一日
至昭和八年三月三十一日

第一學期 (自四月三十一日 至八月三十一日)

- 四月十日 春季休業終ル
- 四月十一日 第一學期授業始ル
- 四月十五日 (創立記念日) 休業
- 四月二十九日 (天長節) 休業
- 七月九日 第一學期授業終ル
- 七月十一日 夏季休業始ル

第二學期 (自九月三十一日 至十二月三十一日)

- 九月五日 夏季休業終ル
- 九月六日 第二學期授業始ル
- 九月二十三日 (秋季皇靈祭) 休業
- 十月十七日 (神嘗祭) 休業
- 十一月三日 (明治節) 休業

十一月廿三日 (新嘗祭) 休業

十二月廿四日 第二學期授業終ル

十二月廿五日 冬期休業始ル

第三學期 (自一月三十一日 至三月三十一日)

- 一月七日 冬期休業終ル
- 一月九日 第三學期授業始ル
- 二月十一日 (紀元節) 休業一日
- 三月十日 第三學期授業終ル
- 三月十一日 春期休業始ル

第三學期 限

第三學則

第一章 總則

第一條 本校ハ高等學校令ニ基キ高等科ヲ置キ修業年限ヲ三箇年トス

第二章 學科課程、教授時數

第二條 本校ノ學科ハ高等科文科及理科トシ其ノ學科課程及教授時數ハ高等學校規程ノ定ムル所ニ據ル

第三條 前條各科ノ學科目中外國語ハ英語及獨語トス

第三章 學年、學期、休業

第四條 學年ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第五條 學年ヲ分チテ左ノ三學期トス

第一學期 自四月一日至八月三十一日

第二學期 自九月一日至十二月三十一日

第三學期 自一月一日至三月三十一日

第六條 定期休業日左ノ如シ

一日 曜日

一 本校創立記念日 四月十五日

一天 長節 四月二十九日

一夏季 休業 自七月十一日至九月五日

一秋季 皇靈祭 秋分日

一神嘗祭 十月十七日

一明治節 十一月三日

一新嘗祭 十一月二十三日

一冬季 休業 自十二月二十五日至一月七日

一紀元節 二月十一日

一春季 休業 自三月十一日至四月十日

臨時休業日ハ其ノ都度之ヲ定ム

第四章 入學、在學

第七條 入學ノ時期ハ學年ノ始メヨリ三十日以内トス

第八條 入學スルコトヲ得ル者ハ中學校第四學年ヲ修了シタル者及高等學校規程第四

十三條ニ該當スル者ニシテ身體檢査ヲ受ケ之ニ合格シタル者ニ限ル

第九條 入學志願者ハ其ノ入學後修業セントスル科、類及選擇學科目ニ依ル種別ヲ指

定スヘシ

指定スヘキ科、類及選擇學科目ニ依ル種別ハ次ノ如シ

文科 甲類 英語ヲ第一外國語トスルモノ
乙類 獨語ヲ第一外國語トスルモノ

理科 甲類 英語ヲ第一外國語トスルモノ
乙類 獨語ヲ第一外國語トスルモノ

選擇學科目ニ依ル種別

イ、第三學年ニ於テ數學每週二時間及圖畫每週二時間ヲ選擇スヘキモノ
ロ、第三學年ニ於テ植物及動物每週四時間ヲ選擇スヘキモノ

入學前在學シタル學校ニ於テ英語ヲ修メタル者ハ志望ノ類ニ簡(同一科内ノ類ニ限ル)ヲ併セ指定スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ志望ノ類ノ順位ヲ定ムヘシ、獨語ヲ修メタル者ノ志望シ得ル類ハ文科乙類又ハ理科乙類ニ限ル、試驗若ハ檢定ノ合格ニ依リ入學資格ヲ有スル者ノ志望シ得ル類ハ之ニ準ス
理科入學志願者ニ就テハ各類ヲ通シテ選擇學科目ノ種別(イ)(ロ)兩者ヲ併セ指定スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ種別ノ志望順位ヲ定ムヘシ
第十條 入學志願者ノ數各科ニ入學セシムヘキ人員ニ超過スルトキハ高等學校規程第四十四條ニ依リ入學者ヲ選抜ス
第十一條 入學考查料ハ金五圓トス
既納ノ入學考查料ハ何等ノ事情アリトモ之ヲ還付セス
第十二條 入學ノ許可ヲ得タル者ハ指定ノ期日マデニ戶籍謄本、履歷書、在學證書

(書式一) 及入學資格證明書ニ入學料金參圓ヲ添ヘ本校ニ差出スヘシ
正當ノ事由ナクシテ指定ノ期日マデニ前項ノ手續ヲ了セサル場合ハ其ノ入學許可ヲ無効トス

保證人ニ關スル規定ハ細則ヲ以テ之ヲ定ム

第十三條 入學シタル者ハ本校所定ノ方式ニ依リ宣誓ヲ爲スヲ要ス、故ナクシテ宣誓ヲ爲サル者ニ對シテハ入學ノ許可ヲ取消ス

第十四條 退學シタル者、退學シタル時ヨリ一年以内ニ於テ再入學ヲ願出ツルトキハ同一學年以下ノ學年ニ限リ詮議ノ上之ヲ許可スルコトアルヘシ

第十五條 入學校ニ於テハ轉科轉類ヲ許サス但シ特別ノ事情アルモノニ對シテハ學則施行細則ノ規定ニ依リ特ニ之ヲ許可スルコトアルヘシ

第十六條 生徒ハ校長ノ許可ヲ經ルニアラサレハ他校ニ入學又ハ轉學ヲ出願スルコトヲ得ス

第五章 休學、退學、除名

第十七條 疾病又ハ已ムヲ得サル事由ニ因リ三ヶ月以上引續キ修學スルコト能ハサル見込ノ者ハ其ノ事由ヲ詳記シ保證人ノ連署ヲ以テ願出許可ヲ得テ其ノ學年間休學スルコトヲ得但シ疾病ニ因ル場合ハ願書ニ醫師ノ診斷書ヲ添付スヘシ
第十八條 前條ニ依リ休學ヲ許可セラレタル者ハ次學年ノ始メヨリ原學年ノ課程ヲ修

マシム

第十九條 陸海軍現役ニ服シ又ハ召集ニ應スル者ハ其ノ服役又ハ召集ノ間休學トス服
役滿期又ハ召集解除後ハ一ヶ月以内ニ原學年ニ復スヘシ

第二十條 休學ハ當該學年間ニ限り同一學年ニ於テハ一回トス但シ前條ニ依ル休學ハ
此ノ限ニ在ラス

第二十一條 退學セントスル者ハ其ノ事由ヲ詳記シ保證人ノ連署ヲ以テ願出テ校長ノ
許可ヲ受クヘシ但シ疾病ニ因ル場合ハ願書ニ醫師ノ診斷書ヲ添付スヘシ

第二十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ之ヲ除名ス

一、性行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者

二、學力劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者

三、引續キ一年以上缺席シタル者

四、正當ノ事由ナク又届出ヲ爲サスシテ引續キ三十日以上缺席シタル者

五、出席常ナラサル者

六、二回引續キ同一學年ニ止マル者但シ兵役其ノ他特別ノ事情アル者ハ此ノ限ニ在
ラス

七、授業料又ハ寄宿舎費ノ滯納三週日ニ及フ者

八、第十六條ノ手續ヲ爲サスシテ他校ニ入學又ハ轉學ヲ出願シタル者

第二十三條 除名ニ關シテハ前條ノ外臨機ノ處置ヲ爲スコトアルヘシ

第六章 成績考查、修了、卒業

第二十四條

生徒ノ學業成績ヲ考查シテ學期成績、學年成績及卒業成績ヲ定ム

學期成績ハ當該學期間ノ勤惰、平常成績及試験成績ヲ考查シテ之ヲ定ム但シ學科目
ノ種類ニ依リテハ試験ヲ行ハサルコトアルヘシ學年成績ハ當該學年ニ於ケル各學期
成績ニ依リテ之ヲ定ム

卒業成績ハ在學中ノ三學年成績ニ依リテ之ヲ定ム

第二十五條 學業成績ヲ表ハスニハ學期成績及學年成績ニ在リテハ科目評點及平均評
點ヲ以テシ卒業成績ニ在リテハ各學年成績ノ總點ノ和ヲ以テス

科目評點及平均評點ハ一百點ヲ以テ滿點トス

第二十六條 試験ハ定期及臨時ニ之ヲ行フ

定期試験ハ各學期末ニ於テ之ヲ行ヒ臨時試験ハ擔任教官ノ見込ニ依リテ之ヲ行フ

第二十七條 休學、停學、缺席等ノ爲試験ヲ受ケサル者ニ對シテハ追試験ヲ行ハス試
驗成績ヲ零トス但シ正當ノ事由ニ因リ試験ニ缺席シタル者ニ對シテハ當該學期ニ於
ケル平常ノ學業成績及他ノ學期ノ學業成績ヲ參酌シテ認定評點ヲ與フ

第二十八條 一學年間ニ二回以上同一科目ノ定期試験ヲ受ケサル者ハ特別ノ詮議ニ依
ル外進級又ハ卒業セシムルコトナシ

第二十九條 學年成績ノ平均評點六十點以上ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ其ノ
學年ノ課程ヲ修了シ又ハ全學科ヲ卒業シタルモノトス

成績考查 修了 卒業 授業料

- 一、各科目ノ評點六十點以上ヲ得タル者
 - 二、科目評點六十點未滿ノモノ一科目アルモ其ノ評點五十點未滿四十點以上ナル者
 - 三、科目評點六十點未滿ノモノ二科目アルモ其ノ評點一ハ五十點以上一ハ四十點以上ナル者
 - 四、科目評點六十點未滿ノモノ四科目以内ニシテ其ノ評點何レモ五十點以上ナル者
- 第三十條 修了又ハ卒業ノ判定ハ前條ニ依ル外平素ノ行狀及學業進步ノ狀況ヲ參酌シテ特別ノ詮議ヲ爲スコトアルヘシ
- 第三十一條 操行不良ノ者又ハ缺席缺課遲刻多キ者ハ第二十九條ノ規定ニ依ラス原級ニ止ムルコトアルヘシ
- 第三十二條 成績考查ノ結果進級又ハ卒業セサル者ハ原級ニ止メ次學年ノ始メヨリ當該學級ノ全學科ヲ再修セシム
- 第三十三條 所定ノ課程ヲ履修シ卒業シタル者ニハ卒業證書ヲ授與ス(書式二)
- 第七章 授 業 料**
- 第三十四條 授業料ハ一學年金八拾圓トス
- 第三十五條 授業料ハ左ノ三期ニ分納セシム

第一學期分納額	金 參 拾 圓
第二學期分納額	金 參 拾 圓

第三學期分納額 金 貳 拾 圓

- 徴收期日ハ細則ヲ以テ之ヲ定ム
- 第三十六條 授業料ハ缺席、停學等ノ爲免除スルコトナシ但シ第十九條ニ依リ休學スル者ニ對シテハ授業料徴收開始期日前ニ在リテハ月割額ニ依リテ次月分ヨリ其ノ後ニ在リテハ次學期以降ノ分納額ヲ免除シ爾餘ノ休學者ニ對シテハ次學期以降ノ分納額ヲ半減ス
- 第三十七條 第十九條ニ依リ休學シタル者、學期ノ中途ニ於テ課業ニ就キタルトキ及學期ノ中途ヨリ再入學ノ許可ヲ受ケタル者ノ當該學期ノ授業料分納額ハ月割額ニ依リ其ノ月分ヨリ之ヲ徴收ス
- 徴收期日ハ細則ヲ以テ之ヲ定ム
- 第三十八條 學期ノ中途ニ於テ退學スル者ニ對シテハ次學期以降ノ授業料分納額ヲ免除ス
- 第三十八條ノ二 授業料未納中除名又ハ退學ヲ命シタル者ニ付テハ未納ニ屬スル分納額及其ノ以降ノ分納額ハ之ヲ徴收セス
- 第三十九條 第三十六條但シ書及第三十七條ノ場合ニ於ケル授業料月割額ハ金八圓トス但シ月割額ニ關シテハ七月及八月ハ算入セス
- 第四十條 生徒ニシテ學費支辨ノ極メテ困難ナル者ニ對シテハ平素ノ操行及學業成績

其ノ他ノ事情ヲ調査シ授業料ヲ减免スルコトアルヘシ
 第四十一條 前條ニ依ル授業料减免ノ事情止ミタリト認メタルトキハ翌月分ヨリ所定ノ授業料ヲ納付セシム
 第四十二條 既納ノ授業料ハ何等ノ事情アリトモ之ヲ還付セス

第八章 寄 宿 舍

第四十三條 寄宿舎ハ生徒ヲ寄宿セシメ本校ノ教育ト相俟チテ生徒ヲ訓育スル所トス
 第四十四條 寄宿舎ハ一學年ヲ以テ一期トシ開閉ノ期日ハ其ノ都度之ヲ定ム
 第四十五條 新ニ入學シタル生徒ハ特別ノ事情ニ依リ通學ノ許可ヲ受ケタル者ノ外ハ總テ寄宿舎ニ入ルヘキモノトス
 寄宿舎ニ入ルヘキ者ノ數、收容人員ニ超過スルトキハ通學ヲ命スルコトアルヘシ
 第四十六條 前條第一項以外ノ生徒ニシテ入舎セント欲スル者ハ願出テ許可ヲ受ケルヘシ
 第四十七條 寄宿生徒ハ其ノ學年中在舎スルモノトス但シ疾病其ノ他已ムヲ得ザル事情アル者ニ對シテハ登議ノ上退舎又ハ外泊セシムルコトアルヘシ
 第四十八條 寄宿舎費ハ一學年金貳拾圓トシ左ノ三期ニ分納セシム
 第一學期分納額 金六圓
 第二學期分納額 金八圓
 第三學期分納額 金六圓

徴收期日ハ細則ヲ以テ之ヲ定ム
 第四十九條 寄宿舎費徴收期後入舎スル者ノ寄宿舎費ハ其ノ月分ヨリ月割額ニヨリテ徴收ス

中途退舎スル者ニ對シテハ次學期以降ノ分納額ヲ免除ス
 第五十條 前條ノ場合ニ於ケル寄宿舎費月割額ハ金貳圓トス但シ月割額ニ關シテハ七月及八月ハ算入セス

第五十一條 既納ノ寄宿舎費ハ何等ノ事情アリトモ之ヲ還付セス
 第五十二條 寄宿生徒ニシテ其ノ本分ニ背ク行爲アリト認ムルトキハ情狀ニ依リ退舎ヲ命スルコトアルヘシ

第九章 服 制

第五十三條 生徒ノ制服ハ別表ノ通り之ヲ定ム
 第五十四條 生徒ハ細則ノ定ムルトコロニ據リ制服ヲ着用スヘシ

第十章 圖書、器具、機械

第五十五條 本校所有ノ圖書ハ凡テ之ヲ書庫ニ藏シ圖書閱覽室ヲ設ケテ職員生徒ヲシテ之ヲ閱覽セシム
 第五十六條 書庫ニハ本校所藏ノモノノ外他ノ委託ニ係ル圖書ヲ保管スルコトアルヘシ
 第五十七條 圖書ヲ閱覽スルコトヲ得ル者ハ本校職員生徒及校長ノ許可ヲ得タル者ニ限ル

第五十八條 教務及事務上特ニ必要ノ圖書ハ校長ノ許可ヲ得テ特別ノ場所ニ備ヘ置クコトヲ得

第五十九條 職員ハ別ニ定ムル所ニ依リ本校所藏ノ圖書ヲ借受クルコトヲ得

第六十條 學術用器具機械ハ所屬教室ニ備ヘ付ク
器具機械ハ之ヲ搬出スルコトヲ得ス但シ授業上研究上必要アル場合ニ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六十一條 生徒ハ擔任教官ノ許可ヲ得テ實習用器具及機械ヲ使用スルコトヲ得

第六十二條 本校所藏ノ圖書器具機械ヲ紛失毀損又ハ汚染シタルトキハ其ノ損害程度ニ依リ同一ノ物品ヲ以テ之ヲ償ハシムルカ又ハ修理セシムルコトアルヘシ

第十一章 褒賞、懲戒

第六十三條 在學中無缺席ノ者又ハ特ニ著シキ善行アル者ハ之ヲ褒賞スルコトアルヘシ

第六十四條 校規風紀ヲ紊リ其ノ他生徒タルノ本分ニ背戾スル者ハ之ヲ懲戒ス

第六十五條 懲戒ハ戒飭、停學及退學トス

戒飭ハ訓誨ヲ加ヘテ將來ヲ戒メ停學ハ登校ヲ停止シテ反省セシメ退學ハ學校ヨリ放逐スルモノトス

附則

本則ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

表 (書式一)

在學證書

參錢收入
印紙貼付
消印ノコ

私儀

今般御校へ入學御許可相成候ニ就テハ在學中御規則等堅ク可相守ハ勿論御校ノ學籍ヲ離レ候後ト雖モ在學中ニ生シタル一切ノ義務ハ必ス履行可致此段證書提出候也

年 月 日

本籍 族稱 戶主 氏名 續柄

科 類 學年

本人 (氏名印)

年 月 日生

松山高等學校長

殿

裏 (書式一)

前文 儀御校へ入學御許可相成候ニ就テハ在學中督勵保護ノ責ニ任ヌルハ
勿論御校ノ學籍ヲ離レ候後ト雖モ同人在學中ニ生シタル義務ハ拙者ニ於テ一切引受
可申仍テ證書如斯候也

年 月 日

本籍
現住所

族稱 職業 本人トノ關係

保本證 人(氏名印)

年 月 日生

松山高等學校長

殿

(書式二)

九寸五分

卒業證書

校印

府縣

名

年月日生

本校所定ノ高等科 科 類ノ學
科ヲ修メ正ニ其業ヲ卒ヘタリ仍
テ之ヲ證ス

年 月 日

松山高等學校長位勳學位氏名印

割印

第 號

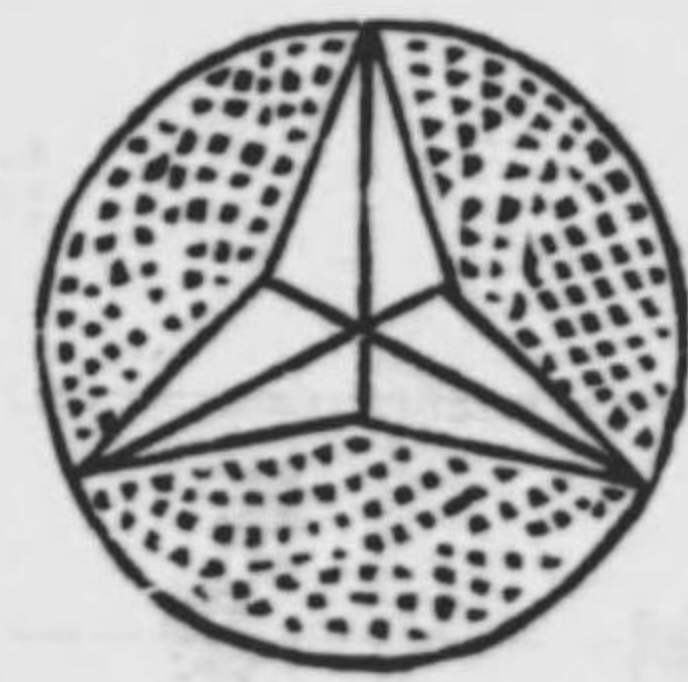
分五寸二尺一

脚 絆	靴	服			
		冬服		夏服	
		袴	衣	袴	制
制地式質	制地式質	制地式質	制卸襟地式章質	制地式質	制卸式
卷脚絆 カーキ色絨又ハ綿布	黒靴又ハ黒「ズック」 編上又ハ短靴	濃紺絨「ヘル」類若ハ濃紺小倉 夏服ニ同シ	濃紺絨「ヘル」類若ハ濃紺小倉 文科ハL 理科ハS(金色) 夏服ニ同シ	霜降小倉 普通	如圖(金色) 背廣形立襟(稜角形) <small>ポケットハ上衣ノ左右 兩脇及左胸部ニ各一個</small>

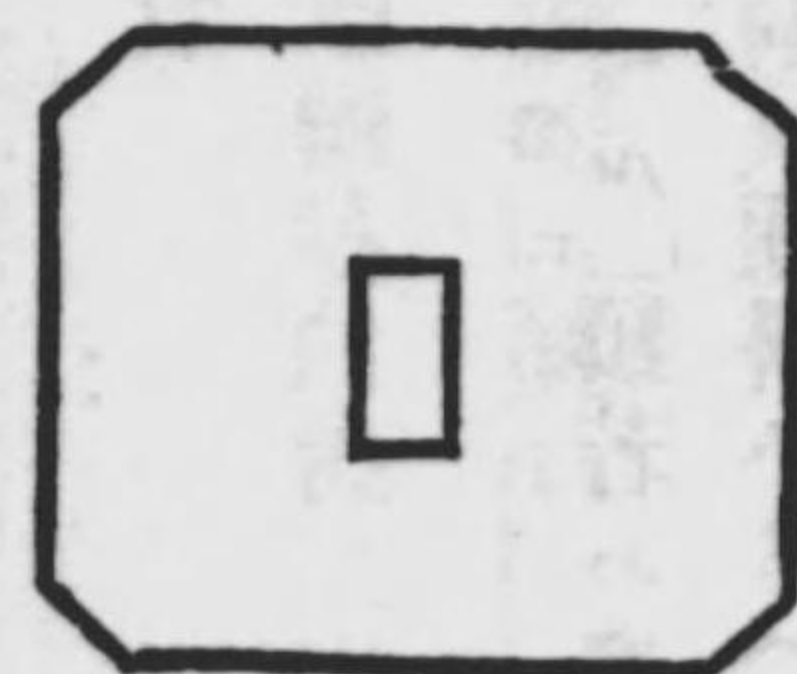
制	帽	
	種二第	種一第
夏衣襟	制地式質	制地式質
文科ハL 理科ハS(金色)	霜降小倉	文科ハL 理科ハS(金色)
	普通形	海老茶地絨込白線二條
		第一種制帽ニ同シ
		麥莖縁幅凡三寸
		佛蘭西形
		白線二條
		黒革 卸(金色)
		黒革
		眞鍮製金色本校徽章 如圖
		黒絨

實物ト等シキ寸法

徽 章



鈕



第四 生徒心得

本校生徒タル者ハ教育ニ關スル

聖旨ヲ奉體シテ人格ノ完成ニ力メ以テ國家有用ノ材タランコトヲ期スヘシ
居常遵守スヘキ要綱左ノ如シ

- 一 校則ヲ嚴守シ師長ヲ尊敬スルコト
- 二 學術ヲ研修シ思想ヲ洗煉スルコト
- 三 志操ヲ高潔ニシ威儀ヲ正シクスルコト
- 四 起居飲食ヲ慎ミ身體ヲ強健ニスルコト
- 五 質實剛健ヲ旨トシ華奢放縱ノ風アルマシキコト
- 六 信義ヲ尊重シ交友ト親和スルコト

第五 細則

一 學則施行細則

第一章 學科、授業

- 第一條 學則第二條ノ學科ハ別ニ定ムル教授要目ニ依リテ之ヲ實施ス
- 第二條 新ニ入學シタル者ニシテ高等學校規程第四條第四項ノ隨意科目ヲ履修セントスル者ハ指定ノ期日マラニ届出ツヘシ但シ隨意科目ハ中途ヨリ其ノ履修ヲ止ムルコトヲ得ス
- 第三條 高等學校規程第二十條ノ選擇科目ノ選定ハ第二學年ノ終ニ於テ之ヲ届出ツヘシ但シ選擇學科目ニ依ル種別ヲ指定シ入學セル者ハ此ノ限ニアラス
- 第四條 選拔試験ノ外國語ニ獨逸語ヲ選ヒタル入學者ニ對シテハ本校ノ都合ニヨリテハ第二外國語ヲ履修セシメサルコトアルヘシ
- 第五條 毎週授業日課ハ學年ノ始メニ於テ之ヲ定ム但シ場合ニ依リ學年ノ中途ニ之ヲ變更シ又ハ臨時ニ日課ヲ變更スルコトアルヘシ
- 第六條 特別ノ事情ニ依リ教官ニ於テ臨時所定ノ日課ヲ變更スル必要アリト認めタルトキハ校長ニ申告シテ指揮ヲ受クヘシ

第七條 一授業時間ヲ五十分トス但シ學科ニ依リ一授業時ヲ延長シ又ハ二時以上連續授業スルコトアルヘシ

第八條 休業日ノ外左ノ場合ニ於テハ日課所定ノ授業ヲ缺ク

- 一 試験、儀式其ノ他ノ行事ヲ以テ授業ニ代ヘタルトキ
- 一 教官ノ出張、賜暇、忌引、缺勤ニ依リ授業セサルトキ

第九條 前條ニ依リ授業ヲ缺キタル結果學業ノ進歩ニ妨ケアリト認めタルトキハ所定ノ日課以外ノ授業ヲ課スルコトアルヘシ

第十條 教科用圖書ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケテ校長之ヲ定ム

第二章 在學、休學、轉科、轉類

第十一條 新ニ入學シタル生徒ニシテ左記ノ一ニ該當スルモノノ外ハ入學後一年間ハ

寄宿舎ニ入ルヘキモノトス

- 一 自宅、職員宅、親戚宅ヨリ通學ノ許可ヲ受ケタルモノ
- 一 特別ノ事情アリテ他ヨリ通學ノ許可ヲ受ケタルモノ

第十二條 生徒ノ保證人ハ父兄トス但シ父兄ナキトキハ保證ノ責ニ任シ得ヘキ近親者ヲ以テ之ニ充ツヘシ

第十三條 保證人住所ヲ變更シ又ハ改印シタルトキハ生徒ヨリ直ニ其ノ旨届出ツヘシ

第十四條 保證人死亡其ノ他ノ事由ニ依リ其ノ義務ヲ盡スコト能ハサルニ至ルトキハ生徒ハ更ニ保證人ヲ定メ在學證書ヲ更新スヘシ

第十五條 生徒戸籍ニ異動ヲ生シタルトキハ戸籍謄本ヲ添ヘ速ニ届出ツヘシ

第十六條 生徒ハ異動ノ有無ニ拘ラス毎年四月二十五日マテニ所定ノ書式ニ依リ宿所ニ關スル届出ヲナスヘシ

第十七條 生徒宿所ヲ變更シタルトキハ三日以内ニ前條ノ手續ヲナスヘシ

第十八條 生徒ノ宿所ヲ不適當ナリト認ムルトキハ轉宿ヲ命スルコトアルヘシ

第十九條 疾病其ノ他已ムヲ得サル事由ニ依リ課業ニ缺席スル者ハ其ノ事由及日時ヲ詳記シ其ノ當日ヨリ三日以内ニ届出ツヘシ但シ病氣缺席七日以上ニ及フ者ハ醫師ノ診斷書ヲ添付スヘシ

第二十條 生徒ハ左ノ事由ニ依リ課業ニ缺席シタルトキハ之ヲ他ノ事故ニ依ル缺席ト區別シ左ノ期間内ニ限リ缺席日數時數ニ算入セス

一 父母ノ喪ニ丁レル場合 七日以内

二 祖父母兄弟姉妹ノ喪ニ丁レル場合 四日以内

三 徵兵検査ヲ受クル場合之ニ要スル住復日數時數

第二十一條 學則第十七條ニ據ル休學ニ關スル取扱ハ第三學期ニ入りテハ之ヲ行ハス

第二十二條 陸海軍現役ニ服シ又ハ召集ニ應シタル者ハ其ノ服役又ハ召集ノ期間及部隊又ハ艦艇名ヲ具シ速ニ届出ツヘシ

第二十三條 生徒ヨリ提出スル凡テノ願届書ハ指導教官ノ承認ヲ經テ關係各課ニ差出スヘシ

指導教官出張、缺勤等ノタメ承認ヲ受ケ難キ場合ハ其ノ旨申出指揮ヲ受クヘシ

第二十四條 學則第十五條ニヨリ轉科轉類ヲ希望スル者ハ三月二十日限リ願出ツヘシ此ノ場合ニ於ケル詮議ノ條件左ノ如シ

一 轉科轉類ハ同學年若ハ其レ以下ノ學年ニ限ル

一 第一學年ニ轉科轉類セントスル者ニハ入學者選抜試験ヲ受ケシム

一 第二學年以上ニ轉科轉類セントスル者ニハ缺員アル場合ニ限リ從來ノ操行及學業成績ヲ參考シタル上檢定試験ヲ行フ檢定試験ハ轉入セントスル科類ニ於ケル前學年以下ノ全學科目ニ就テ之ヲ課スルモノトス但シ轉科轉類セントスル者ノ既修ノ學科目ニシテ其ノ内容程度及每週教授時數ニ於テ同等以上ト認ムヘキ場合ニ限リ試験ヲ課セサルコトアルヘシ

一 轉科、轉類ノ時期ハ學年ノ始メトス

第三章 編 制

第二十五條 學級ハ第一學年ノ始メニ編制シ之ヲ組ト稱シ三學年ヲ通シテ變更セサルヲ常例トス

第二十六條 各學級ニ正副總代各一名ヲ置ク

第二十七條 總代ハ當該學級生徒ヲシテ候補者ヲ互選セシメ校長之ヲ命ス但シ第一學年級ノ始メニ於テハ選舉ニヨラス學級主任ニ於テ假ニ總代ヲ定メ當分ノ間其ノ任ニ當ラシム

第二十八條 總代ノ任期ハ一學年間トス
 第二十九條 總代ハ學級主任ノ指揮ヲ受ケ當該學級ニ於テ校規命令ノ實行ニ力メ其ノ秩序ヲ保持スヘシ

第四章 成績考査、試験

第三十條 學業成績評點科目數左ノ如シ

文科

學科	身年	一學年			二學年			三學年		
		身	年	學	身	年	學	身	年	學
修	身	一			一			一		
國語及漢文			三			三			三	
第一外國語			三			三			三	
第二外國語			〇			〇			〇	
歷史			一			二			一	
地理			一							
哲學概說										
心理及論理						一				
法制及經濟						一				
數學			一							

自然科學	體操	計
一	一	(三)
一	一	(四)
一	一	(三)

理科

學科	身年	一學年			二學年			三學年		
		身	年	學	身	年	學	身	年	學
修	身	一			一			一		
國語及漢文			二			一				
第一外國語			三			三				
第二外國語			〇			〇			〇	
數學			二			二			二	
物理學										
化學										
植物及動物學										
礦物及地質			一			一				
心理										
法制及經濟			一							

成績考査 試験

圖書	—	—	—
體操	—	—	—
計	(四三)	(四三)	(四三)

第三十一條 隨意科ノ科目評點ハ學則第二十九條ノ條件ニ加フ

第三十二條 各教官ハ每學期末ニ於テ其ノ擔任ニ屬スル學科目ニツキ生徒ノ學期成績ヲ考查シテ科目評點ヲ定ム但シ一科目ヲ數人ニテ擔任スルトキハ合議ノ上之ヲ定ム

第三十三條 學年成績ノ科目評點ハ當該科目ノ學期評點ノ和ヲ三除シテ之ヲ定ム

第三十四條 定期試験ハ時間割ヲ定メ當該學期間ニ履修シタル部分ニ就キテ之ヲ行フ但シ學科ノ進度ニヨリ當該學期前ニ履修シタル部分ニ就キテモ之ヲ行フコトアルヘシ

第三十五條 第一學年ノ修身ニ就キテハ前三條ノ規定ニ依ラス第三學期末ニ於テ當該學年ノ成績ヲ考查シ學年成績ニ於ケル科目評點ヲ定ムルコトヲ得

第三十六條 臨時試験ハ平常成績ヲ考查スル必要上擔任教官ノ見込ニヨリ所定ノ授業時間ニ於テ之ヲ行フモノトス

臨時試験ヲ生徒ニ豫告スル場合ハ前以テ學級主任ニ協議シ學級主任ハ之ヲ教務課ニ報告スヘシ

第三十七條 國語漢文中ノ作文、物理化學並ニ植物及動物中ノ實驗及體操ハ試験ヲ行

ハサルコトアルヘシ

第三十八條 生徒ノ席次ハ前學年ノ學年成績ニ據リ卒業席次ハ卒業成績ニ據リ同一學年各科類ニ就キテ之ヲ定ム

第五章 授業料、寄宿舎費

第三十九條 授業料及寄宿舎費ノ徵收期日ハ左ノ如シ

第一學期 自四月十五日 至四月二十一日

第二學期 自九月十五日 至九月二十一日

第三學期 自一月十五日 至一月二十一日

第四十條 授業料及寄宿舎費ハ前條ノ徵收期日內ニ於テ所定ノ納付書用紙ニ所要ノ事項ヲ記入シタルモノヲ添ヘ現金ヲ以テ會計係ニ納付スヘシ但シ病氣其ノ他ノ事由ニヨリ學校所在地以外ニ在ルモノハ郵便爲替ヲ以テ納付スルコトヲ得

第四十一條 第三十九條ノ徵收期日後授業料又ハ寄宿舎費納付ノ義務ヲ生シタル者ハ其ノ義務ノ生シタル日ヨリ七日以内ニ之ヲ納付スヘシ

第四十二條 第三十九條及第四十一條ノ徵收期限滿了ノ翌日ヨリ二週日ヲ經過スルモ授業料又ハ寄宿舎費ヲ納付セザル者ハ登校ヲ停止シ尙ホ一週間ヲ經過スルモ之ヲ納付セザル者ハ學則第二十二條第七號ニ據リ之ヲ除名ス

第六章 寄宿舎

第四十三條 寄宿生徒ハ生徒主事ノ指導ノ下ニ秩序ヲ保チ風紀ヲ維持スヘシ

授業料 寄宿舎費 寄宿舎

第四十四條 各室人員ノ配當ハ生徒主事之ヲ定ム

第四十五條 寄宿舎内ニ於ケル日課時限ハ校長ノ許可ヲ受ケテ生徒主事之ヲ定ム

第四十六條 寄宿生徒ハ規約ヲ定メ校長ノ認可ヲ經テ之ヲ實行スヘシ規約ヲ以テ定ム

ヘキ事項左ノ如シ

- 一 舎内秩序、整理、風儀ニ關スルコト
- 一 舎内ノ清潔、衛生ニ關スルコト
- 一 炊事其ノ他必要ナル事項

第四十七條 各寮ニ委員四名ヲ置キ任期ヲ一學年トス

委員ハ各寮生徒ノ互選ニヨリ選定セル候補者ニ付キ校長之ヲ命ス

第四十八條 寮委員ハ生徒主事ノ指示ニ從ヒ寮内整理ノ責ニ任シ規約ノ實行ヲ督勵スルモノトス

第四十九條 寄宿生徒歸省、旅行又ハ外泊セントスルトキハ豫メ生徒主事ノ許可ヲ受クヘシ

第五十條 各室備付ノ器具及電燈ハ許可ナクシテ他ニ移動又模様替ヲナスヘカラス

第五十一條 備付ノ器具又ハ電燈ヲ毀損シ又ハ紛失シタル者ハ之ヲ辨償セシム但シ毀損者又ハ紛失者不明ノトキハ居室ニ屬スルモノハ其ノ室員、共用物ハ各寮生徒又ハ全寮生徒ニ分擔辨償セシム

第五十二條 炊事献立ハ毎週、炊事收支決算表ハ毎月生徒主事ニ提出スヘシ

第五十三條 生徒主事ハ常ニ會計事務ヲ監察シ年度末ニ於テ帳簿、金櫃ノ検査ヲ行ヒ其ノ結果ヲ校長ニ報告スヘシ

第五十四條 寄宿舎備付ノ電話機ニテ市外ニ通話ヲナサントスル者ハ寄宿舎當直員ノ許可ヲ受ケタル上所定ノ記入ヲナシ且ツ通話料ヲ支拂フヘシ

第五十五條 火災ノ豫防ニ就テハ各自細心ノ注意ヲ拂ヒ煙草吸殻ノ始末並ニ外出就寢等ノ際ハ火鉢ノ取扱ニ注意スヘシ

第五十六條 非常事變ニ際シテハ寄宿舎當直員ノ指示ニ從ヒ臨機ノ處置ヲナスヘシ

第七章 服 制

第五十七條 授業若ハ儀式ノタメ登校スルトキハ必ス第一種制帽、制服ヲ着用シ靴ヲ穿ツヘシ但シ脚絆ハ必要ノ場合指示ニヨリ着用スヘシ

第五十八條 夏服着用期間ハ五月一日ヨリ十月十五日迄トス但シ時宜ニ依リ本文ノ期間ヲ伸縮スルコトアルヘシ

第五十九條 夏服着用期間ニ於テハ儀式ノ場合、體操ノ授業ヲ受クル場合及特ニ指定シタル場合ノ外ハ第二種制帽ヲ着用スルコトヲ得

第六十條 已ムヲ得サル事由ニ因リ制服ヲ着用スルコト能ハサル者ハ其ノ事由ヲ記シ届出ツヘシ

第六十一條 外出ノ際ハ成ルヘキ制服ヲ着用スヘシ若シ和服ヲ着用スルトキハ必ス袴及制帽ヲ著クヘシ

第六十二條 新ニ入學シタル生徒ニ對シテハ其ノ年ノ五月十日マテ制服着用ヲ猶豫ス
第六十三條 生徒ハ防寒用トシテ左記様式ノ「マント」ヲ使用スルコトヲ得

制式 普通

品質

色

羅紗、襟ニ「ビロード」毛皮等ヲ附セサルモノ
黒又ハ濃紺、表裏同色

第八章 圖書

第六十四條 書庫所藏ノ圖書ハ圖書課掛員ノ外出納ヲナスコトヲ得ス

第六十五條 教官ハ掛員ニ通知ノ上書庫ニ入りテ圖書ヲ檢索スルコトヲ得

第六十六條 職員ニシテ圖書ヲ受借ケントスルトキハ自ラ圖書課ニ就キテ所定ノ用紙
ニ所事項ヲ記入シ捺印ノ上掛員ニ差出スヘシ借受ケタル圖書ハ轉貸スヘカラス

第六十七條 貴重圖書類並ニ閱覽室備付ニ缺クヘカラサル圖書及同一ノ圖書二部以上
ハ之ヲ借受ケタルコトヲ得ス

第六十八條 教官ハ一員二十冊其ノ他ノ職員ハ一員六冊ヲ限リ圖書ヲ借受ケタルコトヲ
得但シ和漢裝釘ノ圖書ハ右ノ冊數ヲ倍加スルコトヲ得又完冊ヲナササル雜誌ハ十二

部ヲ以テ一冊ト見做ス

第六十九條 借受ケタル圖書ハ毎年七月一日マテニ全部返納スヘシ但シ時宜ニヨリ臨
時返納セシムルコトアルヘシ

第七十條 借受ケタル圖書ヲ毀損若ハ紛失シタルトキハ修繕ヲ加ヘシメ又ハ同一ノ代

品ヲ以テ之ヲ辨償セシム

第七十一條 學則第五十八條ニヨリ特別ノ場所ニ備付ケタル圖書監守ニツキテハ當該
場所物品監守者其ノ責ニ任スヘキモノトス

第七十二條 生徒圖書閱覽ノ證トシテ閱覽票ヲ設ケ毎學年ノ始メ圖書課ニ於テ之ヲ交
付ス

第七十三條 閱覽票ハ他ニ轉貸スヘカラス若シ之ヲ紛失又ハ汚損シタルトキハ速ニ其
ノ旨圖書課ニ届出ツヘシ

第七十四條 圖書ヲ閱覽セントスル者ハ所定ノ用紙ニ所事項ヲ記入シ閱覽票ヲ添ヘ
テ掛員ニ差出スヘシ

第七十五條 閱覽シ終リタル圖書ハ直ニ返納スヘシ閱覽室以外ニ圖書ヲ携出スヘカラ
ス

第七十六條 生徒ハ一時ニ六冊ヲ限リ圖書ヲ閱覽スルコトヲ得但シ和漢裝釘ノ圖書ハ
其ノ冊數ヲ倍加スルコトヲ得

第七十七條 本校職員生徒ニアラスシテ圖書ヲ閱覽スル者ニ對シテハ圖書特別閱覽票
ヲ交付ス

第七十八條 學則第五十六條ニヨリ圖書ノ保管ヲ委托セントスル者ハ其ノ圖書名、
著、譯、編者名、裝釘別、冊數及見積價格ヲ具シ委托期限ヲ定メテ校長ノ承認ヲ受
クヘシ

圖書 生徒心得細則

- 第七十九條 委託圖書ハ委託者ニ於テ之ヲ本校ニ送致スヘシ
本校ハ之ニ對シテ受領證ヲ交付ス
- 第八十條 委託圖書ハ書庫以外ニ備付クルコトヲ得ス
- 第八十一條 不慮ノ災難ニ因リ委託圖書ノ損亡ヲ來スコトアルモ本校ハ其ノ責ニ任セ
ス
- 第八十二條 他ヨリ委託又ハ借入レタル圖書ハ本校所藏ノ圖書ト同様ノ取扱ヲナス但
シ圖書所有者ノ希望ニヨリ特別ノ取扱ヲナスコトアルヘシ
- 第八十三條 閱覽室ハ學則第六條ノ定期休業日及臨時休業日ニハ之ヲ閉鎖ス
前項ノ外臨時ニ閉室スルコトアルヘシ
- 閱覽室開閉ノ時刻ハ季節ニ依リテ之ヲ定メ其ノ都度之ヲ揭示ス
- 第八十四條 閱覽室ニ入ル者ハ左ノ條項ヲ嚴守スヘシ
 - 一 喫煙、音讀、雜談等他人ノ障礙トナル舉動ヲナスヘカラス
 - 一 圖書文具類ヲ除クノ外物品ヲ携帯スヘカラス
 - 一 制服又ハ袴ヲ着用シ脱帽スヘシ
- 第八十五條 前條ノ規定ニ違反シタル者ハ圖書ノ閱覽ヲ禁スルコトアルヘシ

二 生徒心得細則

- 第一條 生徒ハ本校職員ニ對シテ敬禮ヲ行フヘシ
- 第二條 教室ニ於テハ靜肅ヲ旨トシ授業ノ始終ニハ教官ニ對シテ立禮スヘシ
- 第三條 教室其ノ他室内ニ入ルトキハ帽及「マント」ヲ脱スヘシ
- 第四條 受持教官教授時間ニ至ルモ出勤ナキトキハ教務課ニ就キテ指示ヲ受クヘシ
- 第五條 生徒ハ風儀ヲ紊ス虞アル場所ニ出入スヘカラス
- 第六條 校内ニアリテハ所定ノ場所以外ニ於テ飲食又ハ喫煙スヘカラス
- 第七條 諸揭示ハ其ノ當日ヨリ一般ニ知了セルモノト認ムルニヨリ常ニ之ニ注意スヘ
シ
- 第八條 生徒揭示ヲ爲サントスルトキハ生徒主事ノ許可ヲ受ケ檢印ヲ求メ所定ノ場所
ニ公示スヘシ
但シ校友會ニ關スルモノハ豫メ部長ノ承認ヲ受クルヲ要ス
- 第九條 總テ會ヲ組織セントスルトキハ校長ノ許可ヲ受クヘシ之ヲ解散シタルトキハ
直ニ届出ツヘシ
- 第十條 生徒集會ヲ催サントスルトキハ代表者ヲ定メ三日前マテニ其ノ詳細ヲ生徒主
事ニ申出テ指示ヲ受クヘシ
- 第十一條 集會ニ本校校舍ヲ使用セントスルトキハ教務課長ニ申出テ指示ヲ受クヘ
シ
- 第十二條 火災其ノ他異變ノ際ハ直ニ登校シ職員ノ指揮ヲ受クヘシ

三 服務及處務細則

第一章 教官ノ服務

- 第一條 本細則ニ於テ教官ト稱スルハ教授、生徒主事、助教授、講師及傭外國人教師ヲ包含ス
- 第二條 教官ハ其ノ分擔ノ範圍内ニ於テ校長ニ對シ生徒教育ノ責ニ任ス
- 第三條 生徒ノ教育ニ關スル事務ハ各教官ノ擔任トス
- 第四條 教官ハ校長ノ命ヲ承ケ學科主任、學級主任、指導教官及分課ノ事務ニ従事スヘシ
- 第五條 教官ハ校長ノ命ヲ承ケ入學者選抜試験、高等學校高等科學力檢定試験其ノ他臨時ノ事務ニ従事スヘシ
- 第六條 教官ハ校長ノ命ヲ受ケ物品ノ檢閲、物品ノ監守及監守物品ノ屬スル區域内整理ノ任ニ當ルヘシ
- 第七條 教官ハ教授、訓育其ノ他學校ノ利害ニ關係アル事項ニ就キ意見アルトキハ之ヲ校長ニ具申スヘシ
- 第八條 教官ハ校長ノ許可ヲ受ケタルニアラザレハ報酬ノ有無ヲ問ハス他ノ職務ニ従事スルコトヲ得ス

第九條 第二章第十二條乃至第二十二條ノ規定ハ之ヲ教官ノ服務ニ準用ス

第二章 事務員ノ服務

- 第十條 書記、生徒主事補及雇員ハ校長ノ命ニヨリ所屬課長(又ハ係長)ノ指揮ヲ受ケテ分課事務ニ従事スヘシ
- 第十一條 事務員ハ各課ノ連絡及相互ノ補助ニ留意スヘシ
- 第十二條 疾病其ノ他已ムラ得サル事故ニヨリ出勤スルコト能ハサル時ハ當日執務時限前ニ其ノ事由及日時ヲ記シテ届出ツヘシ但シ病氣缺勤七日以上ニ及フ者ハ醫師ノ診斷書ヲ添付スヘシ
- 第十三條 執務時間中發病等ノタメ退出セントスルトキハ上官ノ承認ヲ受クヘシ
- 第十四條 父母ノ祭日ニ休暇ヲ要スルモノ及内規ニヨリ休暇ヲ受ケントスルモノハ前日中ニ届出ツヘシ
- 第十五條 轉地療養、父母ノ病氣看護又ハ父母ノ墓參ノタメ請暇セントスル者ハ日限及行先地ヲ記シテ願出テ許可ヲ受クヘシ
- 第十六條 親屬ノ喪ニ遇ヒ服忌ヲ受クルトキハ其ノ親屬關係ヲ記シ届出ツヘシ
- 第十七條 賜暇中旅行セントスル者ハ日限及旅行先地ヲ記シ出發前ニ届出ツヘシ

陸軍召集令又ハ海軍召集條例ニヨル召集又ハ簡閱點呼ニ應スル者ハ日限及應召地、部隊、艦艇名等ヲ記シ出發前ニ届出ツヘシ

第十八條 出張ノ命ヲ受ケタル者ハ出發及歸校ノ際其ノ旨届出テ且ツ歸校後五日以内ニ復命書ヲ差出スヘシ

但シ簡單ナル事項ハ口頭ヲ以テ復命スルコトヲ得

第十九條 新任者ハ五日以内ニ住所ヲ届出ツヘシ

原籍氏名住所等ヲ變更シタル場合ハ其ノ都度届出ツヘシ

第二十條 官廳其ノ他ヨリ本校ヲ經由セスシテ辭令書ヲ受ケ其ノ事項ノ履歷ニ關係アルモノハ其ノ都度届出ツヘシ

第二十一條 轉任免官休職等ノ際又ハ分課事務ヲ免セラレタルトキハ取扱事務ニ關スル書類及物品ノ引繼ヲナスヘシ

第二十二條 非常事故アルトキハ速ニ登校シ上官ノ指揮ヲ受クヘシ事急ヲ要スルトキハ當直及登校者ニ於テ臨機ノ處置ヲナスヘシ

第三章 學校醫ノ服務

第二十三條 學校醫ハ校長ノ命ヲ承ケ學校衛生ニ關スル職務ニ従事ス

第二十四條 學校醫ハ毎月二回教授時間内ニ登校シ衛生上ノ事項ヲ視察スヘシ

第二十五條 學校醫ハ校内又ハ其ノ近傍ニ傳染病發生シタルトキハ直ニ必要ナル消毒豫防方法ヲ施行シ尙ホ其ノ情况ニヨリ校舍又ハ寄宿舎ノ全部若ハ一部ノ閉鎖又ハ遮

斷ヲ必要ト認ムルトキハ之ヲ校長ニ申告スヘシ

第二十六條 學校醫ハ生徒ノ請求ニ應ジ學校ニ差出スヘキ診斷書ヲ作製スヘシ

第二十七條 學校醫ハ學生生徒兒童身體檢査規程ニヨリ生徒ノ身體ヲ檢査シ身體檢査表ヲ調製スヘシ

第二十八條 學校醫ハ前各條ノ任務ノ外校長ヨリ請求アリタルトキハ隨時生徒ノ身體ヲ檢査シ病症ヲ診斷シ其ノ他衛生ニ關スル事務ヲ執ルヘシ

第二十九條 學校醫ハ學校衛生上必要ト認メタル事項ニツキテ校長ニ申告スヘシ

第四章 教育事務

第三十條 校長ノ指揮ヲ承ケ教育事務ヲ總理スルタメ教頭ヲ置ク教頭ハ教官中ニ就キ校長之ヲ命ス

第三十一條 各教官ノ擔任スヘキ教育事務概ネ左ノ如シ

- 一 生徒ノ學業成績ヲ考査スルコト
- 一 生徒ノ勤惰ヲ調査スルコト
- 一 生徒ノ操行ヲ調査スルコト
- 一 教室内ノ秩序ヲ保持スルコト
- 一 教育上ニ關シ校務上必要ナル報告ヲナスコト
- 一 生徒ノ研究ヲ指導シ又ハ監督ヲナスコト
- 一 其ノ他生徒ノ教育ニ關係アル一切ノ事項

第三十二條 教授ニ關スル事務ハ學科毎ニ當該教官ノ分擔トシ教務課長ヲシテ之ヲ主掌セシム

教務課長ハ教授上ノ事項ニ就キ關係教官ノ協議會ヲ開クコトヲ得

第三十三條 訓育ニ關スル事項ハ全教官ノ擔任トシ生徒主事ヲシテ之ヲ主掌セシム
生徒主事ハ訓育ニ關スル事項ニ就キ關係教官ノ協議會ヲ開クコトヲ得

第三十四條 學科主任ハ左ノ學科ニ就キ各一人トシ教官中ニ就キ校長之ヲ命ス

第一 文學科 (修身、哲學概説、心理及論理、法制及經濟)

第二 文學科 (國語、漢文)

第三 文學科 (英語、語)

第四 文學科 (獨語)

第五 文學科 (歷史、地理)

第一 理學科 (數學、圖畫)

第二 理學科 (物理)

第三 理學科 (化學)

第四 理學科 (自然科學、植物及動物、鑛物及地質)

體操科

第三十五條 學科主任ノ擔任事項概ネ左ノ如シ

一 當該學科教授上ノ統一及他學科トノ連絡ニ關スルコト

一 教科用圖書豫選ニ關スルコト

一 教授分擔ニ關スルコト

一 教授上必要ナル參考用圖書、器具、機械、標本、藥品等ヲ調査スルコト

一 其ノ他當該學科ニ關スルコト

第三十六條 學科主任ハ校長ノ許可ヲ受ケ前條ニ掲クル事務ノ一部ヲ擔任教官ニ委任スルコトヲ得

第三十七條 學級主任ハ各學級一人トシ教官中ニ就キ校長之ヲ命ス

第三十八條 學級主任ハ生徒主事及指導教官ト連絡シテ當該學級生徒ヲ監督シ之ヲ統率シテ校規命令ヲ實行セシメ風紀ヲ維持シ學德ノ向上發展ニカムルモノトス

第三十九條 學級主任ノ擔任事項概ネ左ノ如シ

一 擔任學級生徒ノ操行ニ關スルコト

一 擔任學級生徒ノ勤惰ニ關スルコト

一 擔任學級生徒ノ學業ニ關スルコト

一 其ノ他擔任學級ニ關スル一切ノ事項

第四十條 學級主任ノ任期ハ一學年間トス

第四十一條 指導教官ハ教官中ニ就キ校長之ヲ命シ全生徒ヲシテ之ニ分屬セシム但シ生徒又ハ父兄ニ於テ特別ノ希望ヲ申出ツルコトヲ得

第四十二條 指導教官ハ生徒主事及學級主任ト連絡シテ擔任生徒ノ品行學業健康其ノ

他一身上ニ關シ在學中絶エス指導監督ヲ加ヘ生徒ヲシテ其ノ本分ヲ完フセシメンコトヲ期スヘシ

第四十三條 指導教官ハ凡テ其ノ擔任生徒ヨリ本校ニ差出ス願届書ヲ審査スヘシ
第四十四條 指導教官ノ任期ハ擔任生徒在學中トス

第五章 分課事務

第四十五條 本校ニ教務課、生徒課、圖書課、庶務課及會計係ヲ置キ事務ヲ分掌セシム

第四十六條 課ニ課長、係ニ係長ヲ置キ所屬職員ヲ率ヒ分掌事務整理ノ責ニ任セシム
課長及係長ハ職員中ニ就キ校長之ヲ命ス

第四十七條 分課所屬ノ職員ハ課長又ハ係長ノ指揮ヲ受ケ事務ニ從事ス但シ生徒課勤務生徒主事ノ勤務ニ關シテハ本條ノ規定ニ拘ハラズ別ニ通達シタル所ニ據ル
第四十八條 教務課主管事務左ノ如シ

- 一 學科課程、教授要目ニ關スルコト
- 一 教官ノ擔任、日課ノ配當ニ關スルコト
- 一 學級編成ニ關スルコト
- 一 學級主任、級總代ニ關スルコト
- 一 教科用圖書ニ關スルコト
- 一 授業、休業ニ關スルコト

- 一 生徒募集入學ニ關スルコト
 - 一 選拔試験ニ關スルコト
 - 一 教授上ノ設備ニ關スルコト
 - 一 成績考査、修了、卒業ニ關スルコト
 - 一 生徒ノ學籍簿、出席簿ニ關スルコト
 - 一 成績表、成績證明ニ關スルコト
 - 一 生徒ノ休學、退學、除名ニ關スルコト
 - 一 在學證明兵役ニ關スルコト
 - 一 野外演習、射擊演習、修學旅行ニ關スルコト
 - 一 教務上ノ統計ニ關スルコト
 - 一 學力檢定及教員無試験檢定願ニ關スルコト
 - 一 卒業生ノ大學入學其ノ他ニ關スル事項
 - 一 教官會議ニ關スルコト
 - 一 參觀人ノ取扱ニ關スルコト
 - 一 其ノ他教務ニ關スル一切ノ事項
- 第四十九條 生徒課ノ主管事務左ノ如シ
- 一 生徒ノ訓育、風紀ニ關スルコト
 - 一 生徒ノ管理、監督ニ關スルコト

- ―― 生徒ノ缺席、缺課、遲到及其ノ統計ニ關スルコト
 - ―― 生徒ノ訓誨、懲戒ニ關スルコト
 - ―― 指導教官ニ關スルコト
 - ―― 學校衛生ニ關スルコト
 - ―― 生徒ノ保健、身体検査ニ關スルコト
 - ―― 生徒ノ体育、運動、競技ニ關スルコト
 - ―― 生徒ノ集會ニ關スルコト
 - ―― 生徒ノ揭示ニ關スルコト
 - ―― 生徒ノ通學、宿所ニ關スルコト
 - ―― 生徒ノ入舍、退舍ニ關スルコト
 - ―― 寮務當直ニ關スルコト
 - ―― 寄宿舍ノ管理、警備ニ關スルコト
 - ―― 其ノ他生徒ノ訓育、管理及寄宿舍ニ關スル一切ノ事項
- 第五十條 圖書課主管事務左ノ如シ
- ―― 圖書ノ保存、整理ニ關スルコト
 - ―― 圖書印ノ管守ニ關スルコト
 - ―― 圖書ノ出納、貸付ニ關スルコト
 - ―― 圖書目錄ニ關スルコト

- ―― 圖書ノ購入修繕ノ計劃ニ關スルコト
 - ―― 其ノ他圖書ニ關スル一切ノ事項
- 第五十一條 庶務課主管事務左ノ如シ
- ―― 御眞影及勅語ノ保管ニ關スルコト
 - ―― 校長ノ官印及校印ノ管守ニ關スルコト
 - ―― 職員ノ進退、身分、服務ニ關スルコト
 - ―― 職員ノ級位、級動並ニ陸等ニ關スルコト
 - ―― 職員ノ願、伺、届ニ關スルコト
 - ―― 規則命令ニ關スルコト
 - ―― 統計及學校一覽ニ關スルコト
 - ―― 官報報告其ノ他ノ報告ニ關スルコト
 - ―― 文書ノ接受、發送ニ關スルコト
 - ―― 文書ノ整理、保存ニ關スルコト
 - ―― 儀式ニ關スルコト
 - ―― 事務當直ニ關スルコト
 - ―― 日誌及重要事項ノ記錄ニ關スルコト
 - ―― 其ノ他他課ニ屬セサル一切ノ事項
- 第五十二條 會計係主管事務左ノ如シ

- 一 歳入歳出豫算決算ニ關スルコト
 - 一 國有財産、資金ニ關スルコト
 - 一 物品ノ買入及不用物品ノ處分ニ關スルコト
 - 一 修繕ニ關スルコト
 - 一 物品ノ出納、保管ニ關スルコト
 - 一 會計検査ニ關スルコト
 - 一 物品検査ニ關スルコト
 - 一 寄附ニ關スルコト
 - 一 電話、電燈、瓦斯、給水及煖房ニ關スルコト
 - 一 校舎内外ノ警備、掃除ニ關スルコト
 - 一 備入ノ進退及取締ニ關スルコト
 - 一 其ノ他會計ニ關スル一切ノ事項
- 第五十三條 各課ノ主管事項ニシテ他課ニ關聯スルモノニ就テハ關係各課合議ノ上之ヲ處理スヘシ
- 第五十四條 各課所屬ノ職員ハ常務ノ外時宜ニヨリ他課ノ事務ヲ補助スヘシ
- 第六章 文書處理
- 第五十五條 公文書ハ第六十二條ニ依ルモノノ外總テ庶務課ニ於テ接受シ受付簿ニ登記シ文書ニ番號及收受月日ヲ記載シ校長宛ノモノハ校長ニ供閱ノ後其ノ他ノモノハ

- 直ニ主掌分課ニ配付シ其ノ證印ヲ徵スヘシ
- 第五十六條 親展書ハ封緘ノ儘宛名ニ配付スヘシ
- 第五十七條 校長ヨリ直接受ケタル到達文書ハ庶務課ニ於テ受付簿ニ登記スヘシ
- 第五十八條 各課ニ關聯スル文書ハ其ノ關係ノ重キニ從ヒ之ヲ配付スヘシ
- 第五十九條 配付ヲ受ケタル文書ハ速ニ之ヲ調査シ處分案ヲ提出スヘシ
- 事件ノ種類ニヨリ直ニ處分案ヲ提出スル能ハス又ハ處分ヲ要セスト認ムルトキハ校長ニ申出テ指揮ヲ受クヘシ
- 第六十條 決裁ヲ受クヘキ文書ニシテ他課ニ關聯スルモノハ該課ニ合議スヘシ
- 第六十一條 決裁済ノ文書ハ主掌分課ニ於テ決裁年月日ヲ記入シ速ニ處理スヘシ
- 第六十二條 左ノ文書ハ庶務課ヲ經由セス主掌分課ニ於テ直ニ接受スヘシ
- 一 教務ニ關シ教官ヨリ提出スル報告書類
 - 一 生徒ヨリ提出スル願届書類
 - 一 入學志願者名票
 - 一 其ノ他校長ノ指定シタル書類
- 第六十三條 發送ヲ要スル文書ハ庶務課ニ廻付スヘシ但シ執務時間以外ニ發送スル文書アルトキハ當直ニ廻付スヘシ
- 第六十四條 庶務課ニ於テ發送スヘキ文書ヲ受ケタルトキハ發送簿ニ件名ヲ登記シ發送文書及原議ニ番號ヲ附シ發送スヘシ

第六十五條 庶務課ニ於テ郵便電信ヲ發送スルトキハ月日、受信先、發信名、種類量目(字數)料金を登記シ取扱主任檢印スヘシ

第六十六條 完結文書ニシテ各分課ニ保存スヘキモノヲ除ク外ハ總テ庶務課ニ廻付スヘシ

前項ニ依リ廻付ヲ受ケタル文書ハ庶務課ニ於テ編纂シ之ヲ保存スヘシ

各分課ニ保存スヘキ文書ハ別ニ之ヲ定ム

第七章 當直

第六十七條 當直勤務ハ事務當直及寮務當直トス

事務當直ハ判任官以下輪番ヲ以テ之ニ服スヘシ

寮務當直ハ生徒課勤務ノ教官輪番ヲ以テ之ニ服スヘシ

第六十八條 本校ニ高等官ノ當直ヲ必要ト認ムル場合ニハ校長特ニ之ヲ命ス

第六十九條 生徒主事ハ必要ニ應シ隨時寄宿舎ニ當直スヘシ此ノ場合ニ於テハ第六十七條第三項ノ當直ヲ除キス

第七十條 當直時間左ノ如シ

一 平日ハ退出時限ヨリ翌日ノ登校時限マテ

二 休日ハ平日ノ登校時限ヨリ翌日ノ登校時限マテ

第七十一條 當直者ハ勤務中學校ヲ離ル、コトヲ得ス

第七十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ當直ヲ免ス

一 出張ヲ命セラレタル者ハ出張中並ニ其前日及翌日

二 病氣ノタメ本務ヲ缺ク者ハ缺勤ノ當日

三 賜暇ノ當日

四 忌引中

五 新任者着任ノ日ヨリ起算シテ七日間

六 以上ノ外校長ニ於テ除番スヘキ必要アリト認メタル者

第七十三條 前條ニ依リ除番スル者アルトキハ所定ノ當直順ハ順次之ヲ繰上ク

第七十四條 當直者自己ノ都合ニ依リ當直スルコト能ハサルトキハ事務當直ニアリテハ庶務課長、寮務當直ニアリテハ生徒課長ノ指示ヲ受クヘシ

第七十五條 事務當直ノ任務概ネ左ノ如シ

一 晝影奉安所及校舎各室ノ鎖鑰ヲ管守スルコト

二 巡視、小使等ノ監督並ニ學校内外一切ノ取締ヲナスコト

三 接受物件ヲ處理スルコト

四 火器及火災ノ虞アル場所ニ對シテ注意スルコト

五 當直日誌ヲ記入シ當直用郵便切手ヲ管守スルコト

第七十六條 寮務當直ハ寄宿舎及寄宿生徒ノ管理及取締ニ任シ寄宿舎内一切ノ事務ヲ執ルヘシ

第七十七條 當直日誌ニ記載スヘキ事項左ノ如シ

- 一 當直年月日並ニ當直者ノ官職氏名捺印
- 二 巡視、小使等ノ當直者氏名
- 三 當直勤務中ノ狀況
- 四 收受、發送文書及物件ハ其ノ宛名、差出人名、使用郵便切手類ノ種類及員數等
- 五 其ノ他當直中處理シタル重要事項
- 第七十八條 當直日誌ハ翌日庶務課長若ハ生徒課長ヲ經テ校長ノ査閱ニ供スヘシ
- 第七十九條 當直中接受シタル文書ハ其ノ儘之ヲ留置キ翌日之ヲ庶務課ニ引繼クヘシ但シ電報其ノ他急速ノ處理ヲ要スル文書、物件ハ直ニ宛人ニ送附又ハ通知其ノ他適當ノ處理ヲナスヘシ
- 第八十條 當直者ハ其ノ任務ニ關シ互ニ助力ヲ求ムルコトヲ得
- 第八十一條 當直中出火、近火、風水、震災、盜難其ノ他非常ノ異變アリタルトキハ校長ニ急報シ且狀況ニ應シ臨機ノ處置ヲナスヘシ
- 第八十二條 當直ノ服務ニ關スル細目ハ事務當直ニアリテハ庶務課長、寮務當直ニアリテハ生徒課長之ヲ定ムヘシ

四 物品會計規程細則

第二條 物品ノ保管及出納ハ物品會計規則並文部省直轄各部物品會計規程ニ基キ本細則ニ依リ之ヲ處理ス

第二條 物品ヲ大別シテ備品、消耗品ノ二種トシ、區別ハ其ノ性質及用法ニ依リ校長之ヲ定ム

第三條 備品中、共用ニ使用スルモノヲ共用備品トシ職員各自ニ專用スルモノヲ專用備品トス

第四條 各課、係又ハ特別教室ニ物品監守者及物品取扱主任ヲ置キ使用物品ノ監守及取扱ノ責ニ任セシム但シ專用物品ニ就テハ專用者其ノ責ニ任スヘシ

第五條 各課、係又ハ特別教室ノ物品監守者又ハ物品取扱主任ノ監守シ又ハ取扱フヘキ物品ノ所屬區域ヲ左記ノ通り定ム

- 一 會計係 校長室、講堂、應接室、會計係、宿直室、巡視詰所、小使室ニ屬スル物品
- 一 庶務課 庶務課ニ屬スル物品
- 一 庶務課 庶務課、教官室、普通教室ニ屬スル物品
- 一 生徒課 寄宿舎及附屬建物、生徒課、生徒集會所、生徒控所ニ屬スル物品
- 一 圖書課 圖書課、書庫及閱覽室ニ屬スル物品
- 一 物理學教室 物理學教室ニ屬スル物品
- 一 化學教室 化學教室ニ屬スル物品
- 一 植物及動物學教室 植物及動物學教室ニ屬スル物品
- 一 礦物及地質學教室 礦物及地質學教室ニ屬スル物品

一 歴史地理教室、歴史地理教室及陳列室ニ屬スル物品
 一 圖書教室、圖書教室ニ屬スル物品
 一 心理數學教室、心理、數學教室ニ屬スル物品
 一 体操教室、銃器室及柔剣道々場ニ屬スル物品並屋外運動場、其ノ他ニアル体操用、運動用器具

第六條 物品出納命令ハ校長之ヲ發シ、其ノ出納ハ物品會計官吏之ヲ執行スヘシ
 第七條 通常所要ノ物品ハ物品會計官吏一ケ年ノ所要高ヲ豫定シ校長ノ許可ヲ受ケテ一回又ハ數回ニ取廻メテ購入シ、之ヲ倉庫ニ藏置シテ保管ノ責ニ任シ臨時所要ノ物品ニ就テハ必要ノ都度校長ノ許可ヲ受ケテ之ヲ購入シ請求ニ應シテ支給ノ手續ヲナスヘシ但シ器具、機械、實驗用材料等特種ノ注意ヲ要スルモノニ付テハ便宜上各部ニ於テ見積書ヲ徴シ、請求書ト共ニ之ヲ物品會計官吏ニ差出スヘシ

第八條 物品會計官吏前條物品ノ交付ヲナキントスルトキハ備品ハ總テ物品監守者ニ消耗品ハ物品取扱主任ニ交付シ領收印ヲ徴スヘシ

第九條 各部ニ於テ使用スル物品ニシテ不用ニ歸シタルモノアルトキハ物品監守者又ハ取扱主任ハ速ニ物品會計官吏ヘ返付ノ手續ヲナスヘシ

第十條 物品會計官吏前條物品ノ返付ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ將來使用ノ見込アルモノハ保管シ使用ノ見込ナキモノハ處分案ヲ具シテ校長ノ裁決ヲ受クヘシ

第十一條 物品ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ物品監守者又ハ物品取扱主任ハ其ノ事實

ヲ詳記シ物品會計官吏ニ報告スヘシ

物品會計官吏ハ之ヲ調査シ學校長ノ裁決ヲ請フヘシ

第十二條 自然破損ノ物品ニシテ修理ノ上使用ノ見込アルモノハ修理ヲ請求シ其ノ見込ナキモノハ返付ノ手續ヲナスヘシ

第十三條 物品監守者又ハ物品取扱主任交代シタルトキハ前任者、後任者立會ノ上引繼ヲナシ備品監守簿又ハ消耗品受拂簿ニ受繼年月日ヲ記入シ双方記名捺印スヘシ

第十四條 物品會計官吏ハ毎年一回以上物品監守者並ニ物品取扱主任ニ就キ帳簿ト現品トヲ對照査閲シ狀況ヲ校長ニ報告スヘシ、前項ノ場合ニ於テ物品ノ亡失、毀損ヲ發見シ又ハ物品ノ監守者又ハ取扱上異狀ヲ認メタル時ハ校長ニ申告シ其ノ處理ヲ求ムヘシ

第十五條 物品會計官吏ハ物品ノ出納保管ヲ明確ナラシムル爲メ左ノ帳簿ヲ設ケ整理スヘシ

一 備品出納簿
 本簿ハ器具、機械、標本、圖書ニ分類シ、品目、數量、價格、納入、渡シ先等ヲ記シ其ノ出納ヲ明瞭ニスルモノトス、但シ機械、標本ハ各學科別ニ圖書ハ部門毎ニ口座ヲ設クヘシ

二 消耗品出納簿
 本簿ハ消耗品ノ品目、數量、價格、納入、渡シ先等ヲ記シ其ノ出納ヲ明瞭ニス

三 備品支給簿

本簿ハ命令文書ニ基キ支給シタル備品ノ品目、數量、番號、受授年月日等ヲ記シ、物品會計官吏ト物品監守者又ハ專用者トノ受授ヲ明カニスルモノトス

四 消耗品支給簿

本簿ハ支給シタル消耗品ノ品目、數量、受授年月日等ヲ登記シ物品會計官吏ト物品取扱主任トノ受授ヲ明確ニスルモノトス

第十六條 物品監守者又ハ物品取扱主任ハ物品ノ出納保管ヲ明カニスルタメ左ノ帳簿ヲ設クヘシ

一 備品監守簿

本簿ハ物品監守者之ヲ所持シ備品ノ品目、數量、價格、番號及受授年月日ヲ記入スルモノトス、但シ圖書、機械、標本ハ原簿ヲ以テ本簿ニ代用スルコトヲ得

一 消耗品受拂簿

本簿ハ物品取扱主任之ヲ所持シ、受領シタル消耗品每品口座ヲ設ケ受拂ヲ明確ニスルモノトス

一 郵便切手類受拂簿

第十七條 本簿ハ文書發送取扱者ニ於テ備付、其ノ受拂ヲ詳記スルモノトス
物品檢閲ヲ分テテ定期及臨時ノ二種トス、定期檢閲ハ毎年一回之ヲ施行シ

臨時檢閲ハ必要ト認メタルトキハ臨時ニ之ヲ施行ス

第十八條 物品檢閲委員ハ委員長一名、委員若干名トシ職員中ヨリ校長之ヲ命ス

第十九條 物品檢閲ノ期日ハ校長之ヲ定メ豫メ各物品監守者及物品取扱主任ニ通告スルモノトス

第二十條 物品檢閲委員ノ檢閲スヘキ要項左ノ如シ

一、物品保管ノ適否

一、物品亡失、毀損ノ有無

一、物品ノ使用並ニ消費ノ適否

一、帳簿ト現品トノ對照

一、其ノ他必要ト認メタル事項

第二十一條 物品檢閲ノ際ハ在庫ノ物品ニ就テハ物品會計官吏、使用中ノ物品ニ就テハ物品監守者又ハ物品取扱主任檢閲委員ノ質問ニ應ジ物品及帳簿ノ点檢ヲ受クヘシ

第二十二條 物品檢閲委員其ノ檢閲ヲ終リタル時ハ檢閲ノ顛末及意見ヲ具シ、委員長ヨリ校長ニ申告スヘシ

第二十三條 本細則ニヨル諸帳簿ノ様式ハ別ニ之ヲ定ム

第六職員

(昭和七年六月現在)

校長	金子幹太	文士
教授	早崎勸	理學士
圖書	菊池清	理學士
物理、數學	森下正信	理學士
礦物及地質、地理、自然科學	北川淳一	理學士
法制及經濟	山藤敬一	理學士
數學	伊藤達夫	理學士
獨語	井手淳二	理學士
國語	木方庸助	理學士
英語	河路甲午	理學士
物理、自然科學	行元豐圓	理學士
修身(兼)	橋本吉郎	理學士
化學、自然科學	大江文城	理學士
國語及漢文		
生徒主事		

哲學概說、修身、獨語	川畑思無	文學士
心理及論理、獨語	川本正良	文學士
數學	安河內泰福	文學士
英語	健谷正男	文學士
英語	矢野萬里	文學士
植物及動物、自然科學	太田耕治	文學士
歷史	大植登志夫	文學士
歷史、漢文	三原是眞	文學士
獨語	植村清二	文學士
化學、自然科學	三好助三	文學士
生徒主事	澄谷泉	文學士
(兼)	行元豐圓	文學士
(兼)	川畑思無	文學士
配屬將校		
步兵第二十二聯隊附		
陸軍步兵中佐		
兼		
久幸一		
愛媛		
備外國人教師		
體操		

獨語	英語	柔道	教務	體操	劍道	體操	劍道	圖書	國語及漢文	獨語	歷史	體操
助	助	(兼)	(兼)	(兼)	(兼)	師	師	記	記	記	記	記
教授	教授	書記	生徒主事補	陸軍歩兵少佐	陸軍歩兵特務曹長	文學士	文學士	文學士	文學士	文學士	文學士	文學士
赤川	近藤	相原	中原	堀家	越智	牧田	林元	吉元	向居	白田	近藤	佐伯
壽太	正一	喜一	喜一	正一	正一	正一	正一	正一	正一	正一	正一	正一
鳥取	愛媛	愛媛	愛媛	愛媛	愛媛	愛媛	愛媛	愛媛	愛媛	愛媛	愛媛	愛媛

物品會計官吏	福井	直木	戸木	木田	中原	中喜	土居	太田	中野	森野	佐伯	渡部	加藤	井手	小川	豊田
卓	一	肇	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
愛媛	愛媛	愛媛	愛媛	愛媛	愛媛	愛媛	愛媛	愛媛	愛媛	愛媛	愛媛	愛媛	愛媛	愛媛	愛媛	愛媛

第七 生徒及卒業者

一、生徒氏名 (四六八人)

◎八總代〇八副總代

〇文科甲類第三學年

三七人

大洲 安部 肇 愛媛	松山 粟井 康也 岡山	松山 伊賀 克彦 愛媛
松山 一色 正道 愛媛	東第四 伊藤 正一 東京	松山 今井 賴夫 愛媛
麻植 遠藤 福雄 德島	今治 岡田 快哉 愛媛	東第六 奥 島 豐彌 愛媛
高松 大西 美中 香川	三登 大矢 安義 香川	金第一 桂 七十七 耶 山口
松山 門屋 勳 愛媛	松山 桑村 二一 愛媛	修道 小林 久夫 廣島
安東 近藤 元正 愛媛	京第二 西村 平治 石川	北條 鈴木 節夫 愛媛
松山 白石 定義 愛媛	龍山 信田 正高 知	丸龜 津山 善市 香川
東第四 關根 勇 東京	芝 田 中 正 愛媛	尼崎 長尾 哲藏 兵庫
松山 德田 悌次郎 愛媛	堺 仲 亨 大阪	丸龜 船橋 銅三郎 香川
今治 長島 康 愛媛	今治 藤本 輝一 愛媛	旅順 矢原 遠二郎 愛媛
松山 森 廣親 愛媛	宇和島 横田 敏夫 愛媛	高津 吉住 敬次郎 大分
松山 山田 廣 愛媛		
倉吉 浦島 潔己 鳥取		

〇文科乙類第三學年

四〇人

大洲 井上 保 愛媛	松山 今井 義一 愛媛	松山 宇都宮 周策 愛媛
松山 大野 尙 愛媛	高松 大野 由之 香川	松山 戒田 亘 愛媛
西條 菅 正夫 鳥取	高津 小山 潔 大阪	松山 近藤 健 愛媛
西條 佐伯 拓一 愛媛	西條 篠塚 元一 愛媛	京第二 鈴鹿 隆芳 京都
三島 瀨戸 丸保一 愛媛	東第五 德增 覺次良 東京	松山 富田 吉郎 愛媛
松山 仲田 包武 愛媛	松山 中村 運明 愛媛	吉田 長山 松比古 愛媛
松山 奈田 喜一 愛媛	高松 濱 垣信 清 香川	大洲 平野 喜十郎 愛媛
松山 平野 嘯兒 岡山	松山 廣橋 泰三 愛媛	松山 廣藤 眞雄 愛媛
今治 藤原 道一 愛媛	西條 星 加照夫 愛媛	米子 松井 伯 鳥取
松山 藤友 孟 愛媛	松山 松本 三郎 愛媛	松山 宮内 正通 愛媛
今治 村上 牧男 愛媛	西條 森 新一 愛媛	松山 宮内 正通 愛媛
竹田 森 雄三 大分	群山 森 田新三 奈良	松山 宮内 正通 愛媛
北野 八十島 太郎 福井	東市 一山 崎 綾 岡山	小濱 丸井 日出雄 福井
今治 渡邊 四郎 愛媛		

〇理科甲類第三學年

四二人

松山 相原 正 愛媛	松山 秋富 一人 山口	三島 安藤 正睦 愛媛
早稻田 稻本 一夫 香川	三田 岩見 忠男 兵庫	松山 植岡 靜雄 愛媛
二鹿兒 太田 實 靜岡	松山 〇小椋 正文 愛媛	松山 越智 重美 愛媛



高松 柏原 尤一 香川
 山口 齋藤 克己 香川
 松山 篠原 藤之助 愛媛
 松山 鈴木 幹生 愛媛
 北條 友岡 滿壽 愛媛
 松山 西岡 重朝 愛媛
 松山 原田 重朝 愛媛
 愛媛 正岡 鹿一 愛媛
 丸龜 宮内 忠良 香川
 三田 吉田 鎮雄 兵庫

理科乙類第三學年

東第八河口 三郎 愛媛
 松山 黒野 忠雄 愛媛
 丸龜 青藤 惠香川
 松山 末松 弘愛媛
 住吉 關根 和雄 大阪
 岸和田 中島 豊雄 大阪
 松山 野本 清一 愛媛
 今治 藤岡 慎吾 愛媛
 三次 松尾 節司 廣島
 今治 村上 國太郎 愛媛
 鳥原 吉田 信良 長崎

四〇人

三島 岸 兼介 愛媛
 米子 後藤 吉郎 兵衛 鳥取
 宮崎 坂本 種夫 宮崎
 今治 末松 幹生 愛媛
 松山 高岡 實 東京
 德島 中村 勇 山口
 鳥取 二林 久義 鳥取
 松山 堀内 博 愛媛
 西條 松尾 利茂 福岡
 東第五 藤田 茂介 兵庫
 松山 横田 正雄 愛媛

福岡 麻生 道雄 愛媛
 二岡 五十嵐 秀雄 福島
 大洲 浦岡 義道 愛媛
 松山 木村 賢三 愛媛
 勝所 上坂 道雄 滋賀
 今治 鈴木 衛吉 愛媛
 府中 田邊 徹吉 廣島
 米子 天満 和人 鳥取

山口 有富 正直 山口
 廣第一 池田 馨 廣島
 松山 奥島 芳夫 愛媛
 松山 栗田 茂 愛媛
 今津 西藤 滋和 滋賀
 吉田 鈴木 萬壽 已 愛媛
 石巻 千葉 卓夫 宮城
 松山 戸梶 一齋 高知

三登 〇安 藤正 典 香川
 高松 浮田 堅太郎 香川
 三島 加藤 恒夫 愛媛
 松山 桑原 慶人 愛媛
 廣高附 新見 忠愛 知
 福山 誠高 橋 篤 那 廣島
 北條 都築 順 廣島
 廣島 一 中島 直樹 廣島

吳 野間 全治 廣島
 一岡 山坂 三郎 岡山
 鳥取 二岡 山文 雄鳥 取
 松山 村上 伍郎 愛媛
 新宮 吉岡 越治 和歌山
 興讓館 渡邊 光雄 新潟

文科甲類第二學年

廣島 藤原 義文 廣島
 京第三 松井 隆夫 京都
 豊中 溝部 文夫 大分
 大郎 公山 本好 明 東京
 今治 渡部 勝 愛媛

三九人

松山 榎塚 隆 愛媛
 松山 松木 泰久 愛媛
 大洲 三ツ野 問治 愛媛
 丸龜 横井 茂雄 香川
 高松 渡邊 和夫 香川

宇和島 赤松 剛夫 愛媛
 北條 石丸 純忠 愛媛
 松山 奥山 野三 重
 德島 門田 耕治 德島
 海南 川端 六郎 和歌山
 大洲 栗田 文夫 愛媛
 千葉 小西 彌千 葉
 三島 〇進 藤嶋 之助 愛媛
 京第一 多田 英憲 京都
 千葉 永淵 無人 佐賀
 松山 松田 史郎 愛媛
 東第五 増野 正衛 山口
 福後 守部 直次 福岡

松山 伊賀 章 愛媛
 宇和島 稻井 茂昌 愛媛
 中津 加來 正己 大分
 松山 門田 正 大分
 豊津 龜田 覺 福岡
 松山 栗原 正 愛媛
 北條 重松 朔 愛媛
 千葉 高橋 亨 愛媛
 松山 田中 藤一 愛媛
 市岡 濱田 芳信 大阪
 松山 松本 新八 耶 愛媛
 松山 宮内 健正 愛媛
 松山 横山 襄 福岡

松山 池川 良正 愛媛
 北野 奥西 弘 大阪
 宇和島 片山 治 岡山
 松山 川口 健二 愛媛
 若松 金小 仁 朝鮮
 宇和島 小島 和男 愛媛
 松山 清水 裕二 愛媛
 三神 戸竹 林幸 雄 兵庫
 松山 〇得能 丘 香川
 丸龜 平野 安人 香川
 宇和島 松本 隆 愛媛
 德島 森本 美夫 德島
 明倫 渡邊 勤 三重

○文科乙類第二學年

三九人

松山 相田 肇 愛媛	大分 赤嶺 正夫 大分	德島 秋山 好久 德島
一神戶 麻野 隆平 兵庫	三登 安藤 光雄 香川	丸龜 〇今里 孝章 香川
大洲 井上 正孝 愛媛	宮崎 白井 不二男 鹿兒島	今治 馬越 憲一 愛媛
松山 越智 一嘉 愛媛	松山 越智 通武 愛媛	松山 大森 忠壽 愛媛
大分 小野 勝喜 大分	京第一 押本 正二 京都	德島 片山 馨 德島
廣第一 川地 文太郎 廣島	松山 川又 時久 愛媛	白杵 吉良 與一 耶 大分
宇和島 熊本 秀雄 愛媛	大洲 栗田 恒三 耶 愛媛	松山 〇柴田 芳一 愛媛
宇和島 清水 美高 愛媛	今治 白石 修 愛媛	吉田 清家 芳樹 愛媛
松山 曾我 進 愛媛	廣第一 高木 一 耶 廣島	松山 橋 虎雄 愛媛
開成 俵 宏 愛媛	福山 誠 克己 廣島	東市 久松 茂 茨城
松山 福井 正夫 愛媛	吳第二 別府 幸男 廣島	今治 北郷 道雄 鹿兒島
高津 前田 好郎 大阪	天城 前野 謙一 岡山	中津 宮永 武雄 大分
松山 宮脇 正虎 愛媛	下關 山崎 泰樹 東京	三登 渡邊 武德 香川

○理科甲類第二學年

四二人

松山 加藤 賢吾 愛媛	松山 〇饗瀬 富三 耶 愛媛	三島 小玉 數信 愛媛
市岡 佐藤 文三 大阪	今治 重松 敦雄 愛媛	松山 〇鹽 出正 愛媛
松山 白形 進平 愛媛	松山 高橋 克己 大分	豊橋 田中 省 愛媛
北野 豊島 正一 耶 大阪	松山 豊島 正忠 愛媛	松山 長井 明正 愛媛
松山 野本 清愛 愛媛	松山 伴 政康 愛媛	吉田 林 一 耶 大阪
阿波 林 哲香 德島	西條 藤田 圓南 夫 愛媛	市岡 松本 一 耶 大阪
高松 松本 俊英 香川	松山 松本 勝 愛媛	廣島 附 宮野 弘 透 愛媛
尾鷲 森本 伊佐夫 福岡	松山 矢野 正二 耶 愛媛	松山 矢野 弘 透 愛媛
松山 山崎 育哉 愛媛	德島 山田 倫二 耶 德島	廣第一 横山 俣夫 廣島
京第二 吉川 元造 京都	三島 渡邊 寅雄 靜岡	松山 和田 昶 愛媛

○理科乙類第二學年

四一人

松山 淺井 建佑 愛媛	松山 阿部 信之 愛媛	廣師 附 安藤 正 要 岡山
今宮 飯島 弘治 栃木	宇和島 石丸 清 愛媛	廣第一 伊藤 正二 廣島
松山 伊藤 隆夫 廣島	戸二 〇井上 勤 兵庫	一岡 山 大 齋 高 明 岡山
吳第一 大下 隆夫 廣島	東第七 尾崎 進 香川	三登 〇片山 貞志 福岡
關西 川原 國夫 福岡	松山 河曲 正莊 愛媛	廣師 附 木村 貞 志 福岡
三池 國崎 量夫 福岡	西條 酒淵 清 愛媛	神戶 一小山 克己 愛媛
松山 近藤 俊三 福岡	松山 白井 泰輔 愛媛	竹田 志賀 克己 愛媛
宇和島 芝 丈夫 愛媛	松山 白石 普之 愛媛	三島 鈴木 暢夫 大分
三登 高田 義夫 香川	宇和島 高月 陽一 愛媛	松山 高橋 吉雄 愛媛

高松 壺井清彦 香川
 松山 長井一郎 愛媛
 廣島 三島三太郎 廣島
 三島 三木匡一 愛媛
 今治 望月仁三 廣島

○文科甲類第一學年

三七人

福山 誠青 景良 久廣島
 德島 秋山二郎 德島
 松山 井上四郎 新編
 京第一 太田義一 京都
 松山 門田圭三 愛媛
 松山 小島五郎 宮城
 松山 篠崎達夫 愛媛
 伊丹 長尾宜藏 兵庫
 高松 西本修吉 香川
 京第一 藤井源二 京都
 高水 村田豊三 山口
 松山 山之内俊一 愛媛

福山 誠中 江忠 廣島
 三島 西島和義 香川
 松山 福島秀雄 愛媛
 北野 水口秀夫 京都
 三田 矢野尾三郎 兵庫

瀧松 一中 安清 周靜岡
 魚津 野島親康 富山
 松山 藤野基康 愛媛
 松山 宮崎菊雄 愛媛

早稻田 秋山五郎 山梨
 池田 石川 深 愛媛
 松山 大龜 進 愛媛
 松山 梶原英太郎 愛媛
 生野 黒川 武 大阪
 宇和島 矢野清泰 愛媛
 下關 高林正明 山口
 三島 田原明夫 鳥根
 岩本 奈良本辰也 山口
 德島 福良忠雄 德島
 北野 政家英作 大阪
 今治 矢野博敬 愛媛

○文科乙類第一學年

三七人

群山 芥川龍式 愛媛
 廣島 二石津積廣島
 二神戶 岡田隆治 兵庫
 松山 栗本弘 愛媛
 松山 澤田正典 愛媛
 安房 瀧口左内 千葉
 京第二 田中五郎 京都
 高松 中村正二 香川
 今宮 日置文雄 岡山
 松山 船田嘉博 愛媛
 松山 宮内通吉 愛媛
 北條 八島孝一 愛媛
 松山 米谷正美 愛媛

今治 淺海典男 愛媛
 三島 浮田延治 香川
 延岡 小笠原一 愛媛
 撫養 黒田眞一 德島
 松山 篠原勤 愛媛
 松山 武智功 愛媛
 二岡山 津川侃治 岡山
 京第一 原田寛 岡山
 佐伯 平田里己 大分
 松山 松樹長翁 愛媛
 多度津 吉岡一 香川
 今治 八塚大郎 愛媛

北條 伊賀上周夫 愛媛
 今治 扇山忠男 愛媛
 津山 久山康 岡山
 三次 〇佐久間陽之助 廣島
 吳第二 城憲太郎 廣島
 北野 田中章 奈良
 今治 中川房夫 愛媛
 廣第一 檜田誠二 廣島
 小倉 廣木清治 福岡
 京第二 松本誠治 京都
 宇和島 藥師神志 愛媛
 松山 山内敷三 愛媛

○理科甲類第一學年

三七人

山口 淺川文一 山口
 住吉 大野和彦 愛媛
 松山 木藤長雄 愛媛
 福山 誠小林良輔 廣島

大分 穴瀬章臣 大分
 廣第一 河地正雄 山口
 長野 〇桑原宏 熊本
 松山 〇近藤藤一 愛媛

三豐 梅津正雄 山形
 奉天 城戸仁 鹿兒島
 松山 小玉洪平 愛媛
 松山 坂本公行 愛媛

松山末松直愛媛
 廣第一西龜萬夫廣島
 尼崎中馬英二兵庫
 高鍋飛田一夫宮崎
 松山林喜世茂愛媛
 橫第一本間榮一神奈川
 松山村上光之助山口
 松山吉田正愛媛
 松山渡邊謙太郎愛媛

理科乙類第一學年

三七人

三田大歲清次兵庫
 沼津金子藤剛靜岡
 廣第一源田良香廣島
 修道佐藤正三廣島
 小野高瀬亨兵庫
 松山玉貫眞幸愛媛
 松山二宮道正愛媛
 麻植平野和雄德島
 松山本田和雄德島
 今治水尾晴文愛媛

芝關二宮道勝福岡
 大洲七角田資則秋田
 東第七橋本敏秀兵庫
 三神戶橋本敏秀兵庫
 松山丸尾正照愛媛
 松山丸尾則文愛媛
 今治山本龍雄愛媛
 萩吉村貫一山口

宇和島調崎茂愛媛
 京和○久保弘一愛媛
 島○近藤厚愛媛
 松山○高田英夫大阪
 北野高田附三男滋賀
 虎姫中山惠夫愛媛
 松山中山惠夫愛媛
 松山林章正愛媛
 高松細川清一香川
 廣第一松村壽仁廣島
 北野村上正己和歌山

三疊矢野光夫香川
 堺山本公夫滋賀
 今治渡部俊耶愛媛

二東京山下耶東京
 和歌山吉村武香川

宇和島山本勇愛媛
 阿波吉本三郎德島

二、卒業生氏名

(自大正十一年三月至昭和七年三月)

通計千五百七十五人

文科甲類卒業 四一人
 文科乙類卒業 三九一人
 理科甲類卒業 三九七人
 理科乙類卒業 三七六人

◎第一回 (大正十一年三月)

◎文科甲類卒業生

一一一人
三三二人

青野龍平愛媛
 石丸友二耶愛媛
 大西清愛媛
 越智圭一愛媛
 加藤雄一愛媛
 島崎昌實高知
 岡野藤原富士雄愛媛

有吉義彌東京
 鳥賀陽恒正京都
 岡本直人廣島
 岡本早義廣島
 熊本武彦東京
 末永衛廣島
 中山虎雄高知

池田忠康愛媛
 宇都宮(豊田)三郎愛媛
 小國豊兵庫
 香西俊久廣島
 高見巨明朝鮮
 高田芳夫愛媛

文 野崎東夫 愛媛
 法 丸井元治 三重
 法 屋井次郎 岡山
 法 良田興三郎 大阪

經 原 環城 香川
 經 宮原虎之 岡山
 法 山本隆夫 和歌山
 法 渡邊隆治 大分

法 井上氏男 愛媛
 法 岡(佐伯)碩平 愛媛
 京醫(死)川端友徳 愛媛
 法 栗山(中村)國定 和歌山
 文 竹村 沖 愛媛
 法 野口 豊茂 愛媛
 東文(退)藤田實道 愛媛
 經 眞 鍋善雄 香川
 法 森 明廣 大分

○文科乙類卒業者 二九人

法 東 邦彦 兵庫
 法 上田一雄 香川
 法 岡井淵三郎 愛媛
 法 鴨川廣正 愛媛
 法 下川四郎 岡山
 文 田村三四郎 高知
 文 濱田良一 高知
 法 星野 通 愛媛
 法 光藤時太郎 愛媛
 法 八並達雄 大分

經 石川英雄 愛媛
 經 海野欣也 静岡
 法 奥田英三 京都
 經 工藤(佐々木)良次 徳島
 文 角 信雄 京都
 文 中山次郎 新潟
 法 榑田和泰 愛媛
 法 松井(荒木)律二 兵庫
 法 宮内保雄 愛媛
 法 山口 立 石川

○理科甲類卒業者 三四人

工 相原賀十郎 愛媛
 工 大野唯糊 愛媛
 工 總智利夫 愛媛

工 石崎隣之助 愛媛
 工 大前玉男 鳥根
 工 藤藤吉 廣島

工 瓜生六郎 神奈川
 工 大森義文 愛媛
 工 加藤太志 福岡

工 康田 茂 愛媛
 工 喜安貞雄 愛媛
 工 清水道一 愛媛
 工 田阪益一 愛媛
 工 中矢隆雄 愛媛
 工 藤 岩根 徳島
 工 森田利次 大阪
 工 山本利夫 大阪
 工 和田周平 神奈川

理 金光隆一 大阪
 工 里見一 山梨
 工 新原武雄 廣島
 工 田邊稜二 山口
 工 長谷川良吉 大分
 理(死)三並虎一 愛媛
 工 矢野 稔 愛媛
 理 山本利道 高知

工 川村南海男 高知
 工 史 允 中 支那
 工 末松 榮 愛媛
 工 富永和 郎 愛媛
 工 二神哲五郎 愛媛
 工 村上義一 福岡
 工 山崎安介 栃木
 工 山本幸夫 大阪

○理科乙類卒業者 二六人

醫 井手正堂 愛媛
 醫 兒玉(金崎)啓俊 愛媛
 醫 高島良輝 香川
 醫 鶴見俊二 愛媛
 醫 西山義雄 愛媛
 東文(退)高 中 香 大阪
 醫 松尾 昇 愛媛
 醫 山下寛三 兵庫
 醫 吉田寅二郎 岐阜

工 大野 博 愛媛
 工 日下宗基 徳島
 工 立川律三 徳島
 工 富山太郎 長野
 工 野口 雅彦 京都
 工 堀 保弘 香川
 工 三好 弘 香川
 工 山縣 欽 廣島
 藥 割石 憲一 徳島

工(死)小谷周一 兵庫
 工 多田太朗 廣島
 理 淡中益郎 愛媛
 農 島居三朗 山梨
 醫 野本 只 勝 愛媛
 醫 益田 學 大分
 醫 八木 勇 兵庫
 醫 吉岡準一郎 香川

◎第二回 (大正十二年三月)

一四六人

○文科甲類卒業者

三五八

天野元之助	大阪	石崎金四郎	愛媛	井上文夫	神奈川
岩崎英恭	高知	潮田秀	千葉	宇高弘三	廣島
大崎紀麿	大分	加藤榮	愛媛	川口昇	愛媛
河野正通	徳島	北風武次	和歌山	黒石昇	高知
小松(山根)辰郎	大阪	東文(退)佐伯俊一	愛媛	清水次夫	愛媛
莊司(四郎)奈良		末次晋	島根	伊達良一	愛媛
高原富藏	徳島	多木(大谷)万三	兵庫	千家活磨	島根
土屋義夫	廣島	坪内虎三郎	愛媛	東文(死)野田藤彦	岩手
永井三郎	愛媛	中村利夫	滋賀	乃万文次郎	愛媛
萩原敏一	岡山	橋本亮治郎	岡山	濱田忠世	高知
日野英一	愛媛	本田(田村)實昌	東京	木田昇	愛媛
村上幸夫	愛媛	渡部肆郎	愛媛		
青井滋	愛媛	上田藤十郎	高知	天野義光	愛媛
石原十郎	廣島	東文(死)伊藤三四三	愛媛	岩島肇	廣島
京經(退)若田義道	愛媛	東文(死)伊藤三四三	愛媛	大橋積	廣島

○文科乙類卒業者

三三人

○理科甲類卒業者

四三人

岡田(禰)音吉	愛媛	岡田茂二	廣島	岡野正武	大阪
岡部二郎	愛媛	寛(澤井)忠雄	兵庫	加藤三郎	東京
韓弼	朝鮮	木村駒男	東京	久山淳一	岡山
黒田直三	兵庫	島尾孝雄	香川	杉原斐夫	廣島
仙波直心	愛媛	中平(山崎)義興	愛媛	中村利孝	和歌山
仲田包寛	愛媛	那波光正	岐阜	知川清之助	京都
廣直武夫	香川	水沼洲一	愛媛	山口節郎	和歌山
山本千里	廣島	山本幹夫	廣島	吉田清三	東京
相原方吉	愛媛	相原要之進	愛媛	秋洲敏次郎	愛媛
井上省三	徳島	内田洋一	東京	大野敏雄	愛媛
小川新太郎	愛媛	越智男一	愛媛	影山光一	高知
金崎顯彦	愛媛	金井重雄	兵庫	影浦稔治	高知
木村一男	廣島	桑野稔	福岡	久保田猛	大阪
黒田(浮穴)稱夫	愛媛	栗本周六	和歌山	近藤精一	大阪
澤邊武文	東京	清水定次郎	愛媛	杉本培吉	高知
宗勇行	福岡	武田義明	愛媛	太宰(芝)不器男	愛媛
田所要	福岡	田中金治	山口	中島正	支那
丁貞吉	支那	友近晋	愛媛	服部梅治	三重
長嶋謙	愛媛	中村道雄	愛媛		

工	福田秀實	島根	工	藤田亮	愛媛	工	藤原宣之	廣島
工	松本重太郎	愛媛	工	藤田口	愛媛	工	山本狷吉	石川
文	由比直一	高知	農	和田義登	愛媛	農	山本	久香川
文	渡部昌	愛媛	農	渡瀬	久香川	農	渡瀬	久香川

理科乙類卒業生 三五人

工	秋月光一	和歌山	醫	石原(下島)經德	鹿兒島	醫	上島俊雄	大阪
理	岡現二	愛媛	農	岡本秀三	和歌山	醫	音田德太郎	大阪
九工(死)	戒能英一	愛媛	醫(死)	影浦治	愛媛	醫	河野清吾	愛媛
醫	榎原好忠	愛媛	醫	日下隆一	徳島	醫	久保昇準	廣島
醫	黒木政治	宮崎	醫	近藤東一郎	兵庫	工	沓藤藤田文次郎	愛媛
醫	佐野(宮崎)梅太郎	兵庫	東醫(死)	澤田好澄	兵庫	工	末光忠一	愛媛
醫	住田恒幸	愛媛	醫(死)	高市俊雄	愛媛	醫	高市道一	愛媛
醫	田村昇	東京	醫	友田正信	奈良	醫	永井健	愛媛
醫	中井善一郎	大阪	醫	中安周平	静岡	醫	仁木秀臣	徳島
工	廣田直憲	兵庫	醫	朴永植	朝鮮	醫(死)	又森治	徳島
工	水口(武智)三政	愛媛	醫	宮嶋淑夫	愛媛	醫	村田明	兵庫
醫	山内奏明	愛媛	醫	山下秀雄	愛媛	醫	村田明	兵庫

第三回 (大正十三年三月) 一五二人

文科甲類卒業生 三九人

法	青井英夫	和歌山	文	天野高信	徳島	文	石川眞澄	愛媛
法	石川淑夫	香川	文	乾輝夫	徳島	文	上島統一	三重
法(死)	大竹貢	岐阜	文	笠原旭	岡山	文	河合庄司	奈良
文	川又清忠	愛媛	文	木下正雄	愛媛	文	楠本健三	大阪
文	黒瀬忠夫	愛媛	文	後藤治基	愛媛	文	崎山富士太郎	和歌山
文	佐々木和廣	奈良	文	島田道夫	福岡	文	高垣嘉夫	廣島
文	田中一三	廣島	文	玉木俊夫	兵庫	文	土屋利夫	廣島
文	中谷隆道	和歌山	文	中村正作	愛媛	文	西山辰男	兵庫
法(死)	則光貫二	兵庫	文	林(佐々木)四郎	山口	文	久尾啓一	高知
文	福田及之助	大阪	文	藤田友次郎	愛媛	文	二神傳三郎	愛媛
文	松尾進	愛媛	文	宮武秀夫	香川	文	村元尙一	山口
文	森武比	福井	文	山内義雄	愛媛	文	山縣一誠	高知
文	由比光彦	高知	文	吉松康親	宮崎	文	米田正次	愛媛

文科乙類卒業生 四二人

法	青山美乘	廣島	法	淺岡一雄	滋賀	法	池田誠	愛媛
法	浦本庄之助	福岡	法	岡部隆吉	香川	法	岡本重彦	高知
法	小原克己	愛媛	法	景山誠一	廣島	法	加藤謙二	愛媛
法	河原俊信	岡山	法	九法文小西健次郎	廣島	法	佐伯延次郎	愛媛

文	家久	南	愛媛	文	石川	直次	兵庫	經	岩本	亮一	神奈川	
經	遠藤	源太郎	宮城	文	大西	輝光	愛媛	法	菅	太郎	愛媛	
法	窪田	篤慶	愛媛	經	幸治	烈男	三重	法	小島	政俊	兵庫	
文	佐藤	謙	北海道	文	島崎	乾太郎	愛媛	法	須之内	德晴	愛媛	
文	高島	(石本) 權一	高知	法	高田	辰雄	山口	法	瀧本	良介	三重	
法	田中	成彦	岐阜	法	玉井	恒榮	愛媛	文	中村	清一郎	愛媛	
文	永山	光生	愛媛	法	新田	義人	山口	文	野村	於菟	愛媛	
東(死)	白樂	朝鮮		法	原田	四郎	愛媛	法	平木	山之	京都	
經	平手	光雄	大分	法	福井	桂一	兵庫	法	藤井	弘	愛媛	
文	藤直	幹德	島	法	宮内	彌	愛媛	法	藤本	幸造	兵庫	
法	守谷	美苗	愛媛	法	八十嶋	(渡部) 滿晴	愛媛	文	山内	千万	太郎	愛媛
文	赤木	美善	岡山	東	阿部	菊一	愛媛	文	石橋	達一	愛媛	
經	今村	勤一	奈良	文	岡田	貫一	香川	法	岡田	正次	和歌山	
文	岡宮	自猛	愛媛	文	大内	(野口) 優德	愛媛	法	尾形	正夫	愛媛	
文	越智	通一	愛媛	文	金子	久親	愛媛	法	河村	(猪野) 俊世	高知	
文	木村	秀夫	愛媛	法	金子	永吉	朝鮮	文	兒玉	金吾	廣島	
法	清水	省三	愛媛	法	清水	藤弘	愛媛	法	田岡	正明	高知	
法	因宮	豊治	兵庫	東	高本	謙一	愛媛	法	武智	一巖	愛媛	
法	塚原	(井出) 滿忠	愛媛	東	德永	友衛	愛媛	法	西本	義男	高知	

文科乙類卒業者

三六八

理科甲類卒業者

三三三

法	二神	三郎	愛媛	文	二神	輝一	愛媛	文	星加	宗一	愛媛
東(死)	堀内	進	愛媛	法	眞室	亞夫	香川	文	水谷	卯吉	廣島
文	村上	長義	愛媛	法	米村	一郎	兵庫	文	八尋	悟郎	福岡
文	行元	自忍(徹)	愛媛	法	米村	一郎	兵庫	經	渡部	七郎	愛媛
理	秋田	健次	京都	工	明智	重一	愛媛	農	上原	(小林) 秀雄	香川
理	織田	三郎	愛媛	農	成能	英四郎	愛媛	工	河内	日出雄	愛媛
工	菅野	源一	愛媛	工	桐本	楠邪	大阪	工	金聖	浩	朝鮮
東(死)	金裕	朝鮮		文	栗谷	嘉一	大阪	農	小林	正熊	愛媛
醫	小室	靜司	德島	工	藤田	太郎	愛媛	東	蔡源	明	支那
農	齋藤	清	愛媛	工	澤山	史	徳島	工	武智	幸文	愛媛
農	鄭文	基朝	朝鮮	工	富山	與太郎	愛媛	九(死)	中田	爲男	大阪
工	南波	辰夫	大阪	工	西原	清藤	福岡	東(死)	濱崎	久義	廣島
醫	水口	俊明	東京	工	村上	吉作	愛媛	工	森	徹	大阪
理	山崎	喜重郎	愛媛	工	山田	矩男	東京	工	山本	見	岡山
九法	文楊	祖論	支那	法	劉	廉	支那	經	渡部	新八	愛媛

理科乙類卒業者

三三三

文 吉田賢次 石川 渡邊萬壽太郎 新潟

○理科甲類卒業者 四一人

農	阿部雅雄 愛媛	農	戒能(山川)一 神奈川	農	加藤正青 愛媛	農	河本勝海 山口	工(死)	菊池朝次郎 愛媛	工	關谷紀 愛媛	農	橋本利一 兵庫	農	本田卯一 大阪	東北理	松田糾 愛媛	京工	松村憲作 愛媛	農	三好政壽 愛媛	農	山仲幸夫 愛媛	農	吉見亨 廣島	醫	江崎幸明 香川	醫	淺野純吉 東京	醫	江崎幸明 香川						
農	池内泉 愛媛	農	香川貫一 愛媛	農	金井彰 愛媛	農	香坂桂吾 愛媛	農	小西政徳 大阪	農	仙波國彦 愛媛	農	中川辰己 兵庫	農	羽田良禾 廣島	農	正岡幸孝 愛媛	農	松田道雄 愛媛	農	前田正壽 廣島	農	森野孝 愛媛	農	好野雄 愛媛	農	和田正弘 廣島	農	石川金六 香川	農	越智正一 愛媛	農	宇都宮利雄 愛媛	農	喜多島慎一 岡山		
農	稻荷紀 愛媛	農	加藤太郎 福岡	農	金光敬叔 岡山	農	菊池(宮)武範 愛媛	農	城輝之 和歌山	農	添田貫一 愛媛	農	橋本義光 愛媛	農	弘中哲二 山口	農	眞野誠一 福岡	農	松永紀夫 愛媛	農	宮田壽直 愛媛	農	山縣千樹 山口	農	早稲田吉川(鈴木)道雄 岐阜	農	早稲田吉川(鈴木)道雄 岐阜	農	早稲田吉川(鈴木)道雄 岐阜	農	早稲田吉川(鈴木)道雄 岐阜	農	早稲田吉川(鈴木)道雄 岐阜	農	早稲田吉川(鈴木)道雄 岐阜	農	早稲田吉川(鈴木)道雄 岐阜

○理科乙類卒業者 四三人

醫	黑田秀隆 岡山	醫	近藤幸一 廣島	醫	佐藤若松 廣島	醫	高田弘 岡山	醫	高本安 愛媛	醫	榎上順三 廣島	醫	土門謙 北海道	醫	西川治良兵衛 奈良	醫	野口武夫 愛媛	農	吹野卓郎 島根	農	宮本一雄 大阪	農	渡邊政三郎 三重	農	渡邊武 香川	農	千野 廣島	農	藤山和久 廣島	農	吉崎梧樓 廣島	農	近藤英太郎 富山	農	佐々木義孝 廣島	農	末澤慶久 香川	農	高松茂實 高知	農	玉井元三 愛媛	農	壺井忠彦 香川	農	中村茂 愛媛	農	西村(大川)健治 奈良	農	平野四郎 大阪	農	本田徳一 愛媛	農	山田時一 愛媛	農	吉崎梧樓 廣島
農	小森誠一 愛媛	農	櫻林郁四郎 山梨	農	杉野佐助 高知	農	高野勇 愛媛	農	立川吳郎 廣島	農	網島長年 岡山	農	仲田史郎 愛媛	農	西村敏而 廣島	農	平井邦次 香川	農	藤卷一 新潟	農	森安正 大阪	農	千野 廣島	農	藤山和久 廣島	農	吉崎梧樓 廣島	農	近藤英太郎 富山	農	佐々木義孝 廣島	農	末澤慶久 香川	農	高松茂實 高知	農	玉井元三 愛媛	農	壺井忠彦 香川	農	中村茂 愛媛	農	西村(大川)健治 奈良	農	平野四郎 大阪	農	本田徳一 愛媛	農	山田時一 愛媛	農	吉崎梧樓 廣島				
農	小森誠一 愛媛	農	櫻林郁四郎 山梨	農	杉野佐助 高知	農	高野勇 愛媛	農	立川吳郎 廣島	農	網島長年 岡山	農	仲田史郎 愛媛	農	西村敏而 廣島	農	平井邦次 香川	農	藤卷一 新潟	農	森安正 大阪	農	千野 廣島	農	藤山和久 廣島	農	吉崎梧樓 廣島	農	近藤英太郎 富山	農	佐々木義孝 廣島	農	末澤慶久 香川	農	高松茂實 高知	農	玉井元三 愛媛	農	壺井忠彦 香川	農	中村茂 愛媛	農	西村(大川)健治 奈良	農	平野四郎 大阪	農	本田徳一 愛媛	農	山田時一 愛媛	農	吉崎梧樓 廣島				

◎第六回 (昭和二年三月)

一三九人

○文科甲類卒業者

三六人

法	阿部順山 山口	法	奥平昌信 東京	法	京文(元)木間瀨三 千葉	法	五領田武夫 廣島	文	糸川成辰 廣島	文	小關伊太郎 静岡	文	木村城 香川	文	佐久間常夫 和歌山	文	梅田正 愛媛	文	越智卓二 愛媛	文	小林悟一 兵庫	文	佐々木史朗 廣島
---	---------	---	---------	---	--------------	---	----------	---	---------	---	----------	---	--------	---	-----------	---	--------	---	---------	---	---------	---	----------

法	鳥川	巽	愛媛	法	鳥本	謙二	郎	廣島	法	清永	哲	愛媛	
法	曾我部	田村	角平	愛媛	法	高岡	喜一	郎	兵庫	法	高橋	宗	山口
文	谷野	芳輝	大阪	法	中村	博	愛媛	法	中島	光	愛媛		
文	中原	榮太郎	愛媛	法	廣瀬	龜之祐	大阪	文	藤田	清	愛媛		
文	細谷	雄平	香川	法	松岡	元	愛媛	法	藤田	清	愛媛		
文	三好	武夫	愛媛	法	八木	元	愛媛	法	藤田	清	愛媛		
文	山口	久	京都	法	吉川	壽	兵庫	法	藤田	清	愛媛		
文	林	松本	朝鮮	文	和田	英四	郎	大阪	法	藤田	清	愛媛	

文科乙類卒業者

三六人

文	相原	經男	愛媛	文	秋田	稔	香川	文	淺岡	吉	滋賀
文	麻生	種衛	廣島	文	阿部	次郎	愛媛	文	石崎	梧	愛媛
文	岩崎	重太郎	愛媛	文	岡村	實	山口	文	河本	定幸	愛媛
文	河本	末廣	愛媛	文	鎌田	家光	兵庫	文	岸川	大	岡山
法	清洲	正	愛媛	文	窪田	嘉計	愛媛	法	佐伯	隆	愛媛
法	神保	茂勝	愛媛	法	角谷	五兵衛	大分	法	高橋	吉	愛媛
法	武内	義雄	愛媛	法	田中	嘉夫	鳥取	法	銅金	一	愛媛
法	戸高	博	大分	法	富田	嘉郎	東京	法	長野	虎之助	愛媛
法	名須川	浩	岩手	法	成瀬	岩夫	岐阜	法	原井	青爾	廣島
法	東	功	大分	法	日野	春重	岐阜	文	藤田	至	三重
法	松本	忠	愛媛	文	向原	淳	愛媛	文	武藤	誠	東京

理科甲類卒業者

三四人

農	芹澤	(松原)	忠二	香川	農	足立	忠清	廣島	醫	井川	秀	愛媛
農	生田	助太郎	鳥取	農	石田	勝利	京都	醫	今井	環	大分	
農	印	植	朝鮮	農	尾田	左司馬	愛媛	工	小川	部	大分	
法	越智	誠一	愛媛	農	門田	協之助	愛媛	工	門	常	愛媛	
東	河口	義人	岡山	農	木村	弘太郎	岐阜	工	工	常	愛媛	
理	近藤	信義	愛媛	農	小玉	龍雄	愛媛	農	近藤	常	愛媛	
工	薄田	重敏	愛媛	工	佐藤	新	大分	農	柴田	勝	京都	
理	高橋	達敏	愛媛	工	清家	新	大分	農	仙波	香介	愛媛	
工	珠川	慶一	愛媛	工	竹内	虎夫	香川	工	竹中	秀夫	愛媛	
工	村上	二郎	愛媛	工	平野	見	京都	工	平野	大	愛媛	
工	渡部	直政	愛媛	工	山田	(内藤)	龍夫	大分	農	渡邊	孝	愛媛

理科乙類卒業者

三三人

醫	池内	眞澄	愛媛	理	猪野	俊平	愛媛
農	上田	治	大阪	醫	大谷	佐平	徳島
農	成田	澄之助	愛媛	醫	梶山	盛夫	廣島
醫	木間	彌三	千葉	醫	重松	忍	愛媛

醫	高橋亮平	愛媛
醫	堤井(赤木)武士	廣島
九農	中尾一男	愛媛
醫	二宮(尾崎)茂綱	愛媛
新醫	藤卷茂夫	新潟
農	宮川浩平	新潟
理	森田眞一	大分
醫	武智哲夫	愛媛
醫	寺島富彦	京都
醫	長瀨重雄	愛媛
文	長谷川嘉信	廣島
醫	前田喜八郎	和歌山
醫	三好義夫	愛媛
醫	三宅(森)哲三	愛媛
同醫	橋(竹政)英基	愛媛
農	内藤進	新潟
醫	西依九五	佐賀
醫	富士川次郎	廣島
醫	增本鷹生	愛媛
理	村橋俊介	京都
醫	山本英雄	愛媛

◎第七回(昭和三年三月)

一五三人

○文科甲類卒業者

四〇人

法	赤松忠兵衛	愛媛
法	伊藤完三郎	愛媛
文	馬野健一	山口
東文	小川太郎	愛媛
京文	小野攝	大阪
經	近藤良敏	愛媛
經	趙正斗	朝鮮
經	外村耕一	滋賀
經	西村清	兵庫
經	平野五郎	大阪
法	藤井源八郎	大分
法	宮本顯治	山口
法	芳野要	愛媛
東文	和田陽平	神奈川
法	藤本彰	愛媛
經	宮脇英次郎	香川
東經	若林竹雄	兵庫
東文	有田二郎	大阪
法	尹相求	朝鮮
法	大隈滂	大分
法	小田滋	愛媛
法	河村威夫	廣島
法	田中直吉	兵庫
法	津守信太郎	愛媛
法	中村新一	鳥根
法	林徹朗	香川
法	平野昇	愛媛
東法	石川孝一	香川
法	上春喜儀	香川
京法	大野盛直	愛媛
法	越智實	福岡
文	金丸二郎	廣島
文	玉井幸三	愛媛
東法	寺川敏明	愛媛
法	中山逸美	愛媛
法	日野開三郎	愛媛
法	廣瀬正男	香川

○文科乙類卒業者

三九人

經	足立米輔	大阪
經	宇佐美藤壽	大阪
經	奥野幸治	大阪
經	金谷祐一	大阪
法	小林時二	山口
文	志田原忠雄	廣島
法	鈴木幸康	愛媛
法	田島健	京都
東法	夏井正男	愛媛
法	深澤忠	岩手
經	松山茂二	大阪
文	安河内龍	福岡
東經	李敏求	朝鮮
文	市村春雄	香川
文	内田吟風	東京
文	小倉政博	東京
法	桂珠	朝鮮
經	坂本眞一	兵庫
經	白銀一	愛媛
京經	高岡英夫	北海道
文	東山松男	愛媛
文	中矢信男	愛媛
法	福田保	愛媛
法	前谷重夫	愛媛
法	山本幸二	愛媛
文	渡邊敏雄	愛媛
文	稻葉秀三	京都
文	小川彰	岡山
法	景山	岡山
法	吳景	岡山
法	重田數雄	大阪
京農(死)	藤原重光	愛媛
文	武智雅一	愛媛
東經	永田勳	愛媛
文	西村稔	京都
文	松田安一	愛媛
經	宮崎要	愛媛
法	吉村辰夫	福井
京法(死)	渡邊義雄	愛媛

○理科甲類卒業者

四〇人

京經 前田 紀興 大分
大醫 三宅 貞夫 愛媛
京醫 元木 貫一 耶 大阪
東農 吉崎 千秋 廣島

金醫 三好 爲一 香川
京醫 本原 貫一 耶 愛媛

九醫 宮川 通之 愛媛
京醫 村上 修 愛媛
滿醫 矢野 四郎 京都

◎第九回 (昭和五年三月)

一四三人

○文科甲類卒業者

四二人

東文 伊賀上 謙 愛媛
九法文 越智 國郷 愛媛
東法 桐田 實 愛媛
東法 兒玉 恒雄 愛媛
東法 志田 昌哉 佐賀
東法 竹内 修 富山
東法 露口 達 愛媛
東法 内藤 健三 兵庫
東經 西松 岩一 愛媛
東文 廣中 益次郎 山口
京法 松田 八郎 富山
京經 宮内 安綱 愛媛
九法文 森本 盛三 廣島

東北 猪野 謙吾 神奈川
法文 上月 龍三 兵庫
京法 金相 潤 朝鮮
九法文 佐伯 信隆 香川
京法 死鈴 木元一 福島
京文 川邊 見 愛媛
東法 寺畑 春雄 東京
東經 中島 敏夫 岡山
東法 阪東 壯八郎 兵庫
東法 北郷 爲雄 鹿兒島
神商 三浦 武揚 大分
京文 森 一生 愛媛
東文 横野 佐太郎 愛媛

東法 宇都宮 照二 東京
九法文 柏正 男 宮城
京法 金鐘 述 朝鮮
東文 酒井 金次郎 東京
東文 武井 凱之助 愛媛
東經 近藤 秀人 廣島
東法 富室 三郎 和歌山
京法 中田 政太郎 兵庫
東法 廣瀬 藤介 愛媛
京經 松島 純治 廣島
京經 水越 輝雄 廣島
東法 森田 勲 愛媛
神商 吉田 氏成 愛媛

○文科乙類卒業者

三一人

東文 吉田 博 愛媛
京法 大谷 章 愛媛
京經 神澤 丈夫 東京
京法 北澤 丈夫 東京
京法 佐伯 德一 廣島
京法 住井 保太郎 大阪
京法 筒井 滔 高知
京法 白鷗 濟 朝鮮
京法 松崎 宗光 愛媛
京經 南 景樹 東京
京文 渡邊 義晴 愛媛

東法 大内 久衛 兵庫
東北 大原 信行 東京
法文 大村 虎夫 岩手
東經 栗原 保雄 群馬
京文 高川 眞澄 愛媛
京法 高田 久三郎 大阪
東經 中谷 了 大阪
東文 藤野 彪 愛媛
京法 松本 貞一 耶 愛媛
京文 森松 茂 愛媛

京經 渡部 順平 愛媛
東經 太田 修 香川
東法 大森 高壽 愛媛
京法 龜田 彬 廣島
京法 久留島 理香 香川
神商 鹽崎 治男 愛媛
京法 武智 文男 愛媛
京法 野村 見 愛媛
東文 牧野 仁 香川
京法 光藤 介 大阪
東法 渡邊 專二 愛媛

○理科甲類卒業者

三三人

東工 相原 一郎 愛媛
長醫 秋本 徹 廣島
東北理 泉 虎一 愛媛
東農 齊藤 忠兵衛 兵庫
東工 大龜 實 愛媛

東工大 赤星 光 愛媛
東工大 淺井 滿長 愛媛
九法文 海老原 美武 東京
神醫 佐々木 英雄 鳥取
東工 高橋 修一 愛媛

京農 秋光 伯次 廣島
京工 阿部 圭 愛媛
東工 金圭 代 朝鮮
東工 仙波 勉 岐阜
九工 竹山 和達 靜岡

京工	玉井正彰	愛媛	東工	佐藤隆治	島根	東農	長井英照	愛媛
九工	中尾毅	福岡	東工	長野保	愛媛	東農	野下海治	東京
東工	野村英一	東京	東工	大橋口松之助	大阪	東農	福田富六	徳島
京工	堀内博	愛媛	東工	松野縁	千葉	東工	村上惠一	愛媛
東工大	元山久雄	鹿兒島	東工	森隆弘	東京	東工	安井健一	愛媛
東北工	吉村三郎	静岡	東工	李海翼	朝鮮	東北工		

理科乙類卒業生

三十八人

神商	伊藤儀一郎	東京	東北	宇野裕	愛媛	九醫	岡井武	愛媛
九醫	加藤勲	愛媛	神商	河内憲一	愛媛	九醫	酒井重明	福岡
東工大	柴田富喜夫	大分	東北	清水進	長野	京農	申映	朝鮮
長醫	菅井正憲	愛媛	東北	高橋貫吉	愛媛	金醫	武本繁太郎	愛媛
千醫	田邊治雄	千葉	長醫	玉井九郎右衛門	愛媛	東醫	塚本長太郎	兵庫
京農	辻志良	石川	九醫	都重忠	愛媛	千醫	津端武	東京
九法文	中村忠雄	岡山	京農	中野忠夫	京都	東北	永野爲	愛媛
四醫	長野曠	岡山	京農	根本光	茨城	新醫	乃木博	京都
金醫	平位順一郎	兵庫	長醫	三好義太郎	愛媛	九醫	平岡六郎	埼玉
大醫	本田直博	愛媛	東工大	矢野忠次郎	山口	京農	八木光雄	愛媛
岡醫	安井正俊	愛媛	東農	吉野(徳丸)尊	山口	新醫	山内峻	三重
京農	山田耕	香川	京醫	吉野(徳丸)尊	山口	千醫	吉野正文	千葉
東農	津田茂男	京都	渡部	長徳	愛媛			

第十回 (昭和六年三月)

一四四人

文科甲類卒業生

三十六人

東法	井上時近	愛媛	京文	入江春男	京都	東法	宇野純三	愛媛
東法	榮本貞夫	山口	東法	奥智道	愛媛	京文	奥田尊	愛媛
京法	越智忠文	愛媛	京法	大西二郎	愛媛	京經	越智實	愛媛
東文	大谷幸雄	愛媛	東文	木村哲郎	愛媛	東法	加地常次	愛媛
京法	川島進兵衛	兵庫	東文	鹽見正	愛媛	東法	兒玉義忠	愛媛
京法	小林富郎	兵庫	東文	高岡正	愛媛	東法	白石通夫	愛媛
東法	須賀賢二	愛媛	京法	土屋正	愛媛	東法	田栗由喜藏	鳥取
東法	玉井和夫	愛媛	東法	丸木重行	北海道	東法	田栗由喜藏	鳥取
京法	中西克寛	岡山	東法	丸毛重行	北海道	東法	田栗由喜藏	鳥取
京文	松本信雄	岡山	東法	毛利静一	北海道	東法	田栗由喜藏	鳥取
京法	村上香	岡山	東法	渡部伍良	愛媛	東法	田栗由喜藏	鳥取
京法	渡邊喜一郎	愛媛	東法	渡部伍良	愛媛	東法	田栗由喜藏	鳥取
東文	安東巖	山口	東法	五百木敏夫	愛媛	東法	田栗由喜藏	鳥取
京文	今井孝	愛媛	東法	奥村小七郎	京都	東法	田栗由喜藏	鳥取
京法	河内明一	愛媛	東法	河野定治	宮崎	東法	田栗由喜藏	鳥取

文科乙類卒業生

三二人

京文	安藤正瑛	香川	京文	井口圓四郎	愛媛	京文	市村啓一	大阪
京文	浦上恒右衛門	岡山	京文	江口泰助	東京	京文	大西樂三	愛媛
京法	大野行雄	愛媛	京法	岡田進	香川	京法	小川哲郎	和歌山
京法	戒能甲太	愛媛	京法	加藤進	香川	京法	茅田彰兄	愛媛
京法	成能英太	兵庫	京法	金大	朝鮮	京法	小崎喜太郎	愛媛
京法	近藤公夫	愛媛	京法	新藤真治	廣島	京法	高野日出男	富山
京法	長沼徹	京都	京法	西本成香	香川	京法	廣島通三	三重
京法	福岡清文	香川	京法	三好大郎	香川	京法	森安美	福岡
京法	宮内守三郎	愛媛	京法	門田喜久	愛媛	京法	柳元	愛媛
京法	森松英男	愛媛	京法	山本美久	東京	京法	高市保廣	愛媛
京法	和田秀男	山口	京法	渡邊行久	愛媛	京法	清水健一	香川
京法	和田茂樹	愛媛	京法	仙波辰馬	愛媛	京法	小林正男	山口
京法	和山茂樹	愛媛	京法	重見雄	愛媛	京法	加島正男	山口
京法	相原經之	愛媛	京法	小野豐明	京都	京法	位野木益雄	香川
京法	宇和川一正	愛媛	京法	大槻修平	愛媛	京法	大本俊平	愛媛
京法	網武志	愛媛	京法	河野唯雄	愛媛	京法	加島正男	山口
京法	織江智	愛媛	京法	重見雄	愛媛	京法	小林正男	山口
京法	蔡恒錫	朝鮮	京法	仙波辰馬	愛媛	京法	清水健一	香川
京法	關谷正憲	朝鮮	京法	仙波辰馬	愛媛	京法	清水健一	香川

○文科乙類卒業生

三六八

京法	高辻房吉	愛媛	京法	田口篤麻呂	徳島	京法	武知和夫	愛媛
京法	田中達次	兵庫	京法	田村深	愛媛	京法	築山弘	愛媛
京法	辻三奈良	愛媛	京法	津守健二	愛媛	京法	中川繁次郎	三重
京法	丹羽淺太郎	大阪	京法	廣藤保孝	愛媛	京法	九法文	香川
京法	松平達事	愛媛	京法	米田美鬼	廣島	京法	松本幸雄	愛媛
京法	宮内修	愛媛	京法	米田美鬼	廣島	京法	渡邊萬	千葉
京法	岩崎正	愛媛	京法	井上英夫	大阪	京法	今津忠幸	愛媛
京法	岡吉一	愛媛	京法	大賀弘毅	大阪	京法	大村繁三	愛媛
京法	河合稔	福岡	京法	河東正二	愛媛	京法	恩地恒	愛媛
京法	神山幸俊	愛媛	京法	潮見清正	愛媛	京法	信田景	朝鮮
京法	白石真久	愛媛	京法	須賀榮二	愛媛	京法	鶴本景	高知
京法	土居幸文	高知	京法	福野末雄	愛媛	京法	古川林三	愛媛
京法	堀内勇作	兵庫	京法	牧野茂	愛媛	京法	松原三	愛媛
京法	水尾安彦	兵庫	京法	八野宗信	愛媛	京法	山下三	香川
京法	楊文雄	朝鮮	京法	吉田宗信	愛媛	京法	吉村英喜	大阪
京法	渡邊文雄	朝鮮	京法	吉田宗信	愛媛	京法	吉村英喜	大阪

○理科甲類卒業生

三二八

○理科乙類卒業生

三二八

國 四	區 國 中	區 畿 近	區 海 東
香 德 川 島	山 廣 岡 島 島 口 島 山 根 取	和 奈 兵 大 京 滋 歌 良 庫 阪 都 賀 山 良 庫 阪 都 賀	三 愛 靜 重 知 岡
六 二	一 一 三 三	一 一 二 一	
八 一	三 七 一 一 三	一 三 一 一 二	二 一
三 三	一 四 二 一	一 二 三 三	二
六 二	一 八 二 二	二 四 二	一 三
五 二	四 六 四 一 一	一 三 二 四 一	一
五 三	四 六 一 一 一	二 一 四 三 二	一 一
三 一 三 三	一 三 一 三 三 六 四 二 三 三 六	四 二 五 五 一 五	二 四 五
七 三 九 〇	三 一 四 九 一 四 三 八 四 九 一 四	二 五 七 七 三 三 七 五 五 四 七 三 三 七	一 六 五 九

區 山 東	區 陸 北	區 東 關	區
岐 長 山 阜 野 梨	福 石 富 新 井 川 山 鴻	神 東 千 埼 群 栃 茨 奈 京 葉 玉 馬 木 城	關 山 島 形
三 三	一 一	三	
四 二	八 三	二	一
四 三	八 二	一	
二 二	二 三 六	一	
四 一	三 〇	一 一	一
二 一 二 三	一 一 二 二	一 八 三 一 一 一	一 一
二 二 二 三	五 四 四 六	一 四 六 一 三 二 一 三 一	二 一

計	中 華 民 國	韓 國	合 併	關 東	關 東 州	沖 繩	九州					愛 媛		
							鹿 島	宮 崎	大 分	熊 本	長 崎		佐 賀	福 岡
七七									二				一	四六
八二										一	一		一	三七
七八									二	五		一	三	三八
八三										二			三	四三
七四													一	三四
七四													一	二九
四六八									四	二	二	一	三	一〇
一、五七五	九	三	三	五	一				五	七	三	四	六	二四
														二二
														二二七
														六九〇

七、卒業生状況調

卒業人員 自第一回(大正十一年三月)至第十一回(昭和七年三月) 一、五七五人

種別	東京帝國大學 二入學	京都帝國大學 二入學	東北帝國大學 二入學	九州帝國大學 二入學	北海道帝國大學 二入學	大阪帝國大學 二入學	計
法學部	△一五六	△一八六	△(六〇)				△(六〇)
文學部	△(九八)	△(五五)	△(八二)				△(一三五)
經濟學部	△(一一四)	△(五二)	△(一一七)				△(一八三)
法學部				△(九)	△(二七)		△(三六)
醫學部	△(三五)	△(二七)	△(二九)	△(六)	△(四三)	△(五)	△(一三〇)
工學部	△(八四)	△(四八)	△(三二)	△(八)	△(二四)		△(一七六)
理學部	△(二四)	△(二七)	△(一一)	△(四)			△(六六)
農學部	△(二七)	△(三〇)	△(四)				△(六一)
商學部							
文理科							
理工學部							
其他							
計	△(一五六)	△(一八六)	△(一八二)	△(九)	△(二七)	△(五)	△(五七五)

卒業生状況調

種別	法文	經濟	法文	醫	工	理	農	商	文理科	其他	計
新瀉醫科大學 =入學											七
岡山醫科大學 =入學											三三
千葉醫科大學 =入學											二〇〇
金澤醫科大學 =入學											一〇〇
長崎醫科大學 =入學											二八
愛知醫科大學 =入學											三
京都府立醫科大學 =入學											一
慶應義塾大學 =入學											二
滿洲醫科大學 =入學											二
東京工業大學 =入學											一〇
大阪工業大學 =入學											二
計											七三三

種別	法文	經濟	法文	醫	工	理	農	商	文理科	其他	計
早稲田大學 =入學											二
廣島文理科大學 =入學											二
神戸商業大學 =入學											九
中央大學 =入學											九
其他											一三六
計											一三六

第十一回卒業者

(昭和七年三月)

一三六人

備考 括弧内數字ハ大學卒業 △印ハ死亡 ◎印ハ小學教員 ×印ハ實業従事者トス
凡テ内數ナリ

會務一切ヲ綜理ス
 一 副會長 特別會員中ニ就キ會長之ヲ委囑ス
 會長ヲ補佐シ兼テ總會ヲ整理ス
 一 部長 若干名 特別會員中ニ就キ會長之ヲ委囑シ部務ヲ監理ス
 一 委員 通常會員中ヨリ部長之ヲ指名シ事務ヲ分掌ス
 委員ノ數左ノ如シ
 總務部
 劍道部 柔道部 弓道部 陸上部 野球部 庭球部 蹴球部 籠球部 二名
 山岳部 水泳部 端艇部 文藝部 辯論部 各四名
 一 理事 總務部ニ限リ通常會員中ヨリ部長之ヲ指名シ事務ヲ分掌セシム
 理事ノ數ハ四名トス
 一 評議員 特別會員中ヨリ三名、通常會員中ヨリ各組一名互選ニヨリ、總會ニ出
 席シ會務ノ審議ニ參與ス
 但シ評議員ハ部長及委員ヲ兼ヌルヲ得ス
 一 事務員 若干名 特別會員中ニ就キ會長之ヲ委囑ス
 第六條 役員ノ任期ハ一箇年トシ毎年四月ニ更任スルモノトス
 第七條 通常會員ハ入會金及會費ヲ左ノ通り授業料ト同時ニ會計係ヘ分納スヘシ但シ
 學則第三十六條及第四十條ニ依リ授業料ヲ減免セラレタル者ニ對シテハ會費ヲ減免

ス既納ノ會費ハ何等ノ事情アルモ之ヲ還付セス
 一、入會金貳圓及會費金貳拾圓 第一學年自四月十五日至同月廿一日
 一、會費金拾參圓 第二、第三學年及ヒ原級生自四月十五日至同月廿
 一日金八圓、自九月十五日至同月廿一日金五圓
 特別會員ハ會費トシテ毎月俸給月額高等官及同待遇ハ千分ノ十、判任官及同待
 遇ハ千分ノ五ヲ出金スルモノトス
 入會金貳圓ハ事業基金トシテ積立ツルモノトス但シ基金ノ使途ハ總會ノ決議ヲ
 要スルモノトス
 第八條 總會ハ左ノ事項ヲ議スルモノトス
 一 本會豫算及決算ニ關スル事項
 一 本會規則ノ改正
 一 其ノ他會長若ハ各部ニ於テ重要ト認メタル事項
 總會ニ出席スヘキ者左ノ如シ
 會長 副會長 部長 委員及理事 評議員
 但シ採決ハ各評議員一票及各部一票トス
 總會ノ決議ハ會長ノ認可ヲ經テ効力ヲ生スルモノトス
 第九條 總會ハ票決權ヲ有スルモノ三分ノ二以上出席スルニ非サレハ之ヲ開クコトヲ
 得ス

第十條 豫算査定会ニ出席スヘキ者左ノ如シ
 總務部長、各部委員、評議員、理事
 第十一條 毎年度ノ收支決算ハ本會雜誌ニ掲載ス
 第十二條 會計検査ハ評議員中ヨリ互選セル特別會員二名及互選セル通常會員四名ヲ以テ之ヲ行フ

○校友會役員

會長 金子校長
 副會長 菊池教授

部長委員及理事

劍道部	安河内教授	理	川行元	文乙三	宇都宮	周策	理甲三	正岡	鹿一
總務部	安河内教授	理	川行元	文乙三	宇都宮	周策	理甲三	正岡	鹿一
部別	安河内教授	理	川行元	文乙三	宇都宮	周策	理甲三	正岡	鹿一
部	安河内教授	理	川行元	文乙三	宇都宮	周策	理甲三	正岡	鹿一
長	安河内教授	理	川行元	文乙三	宇都宮	周策	理甲三	正岡	鹿一
員	安河内教授	理	川行元	文乙三	宇都宮	周策	理甲三	正岡	鹿一

柔道部	橋本教授	文甲三	門野屋	文乙三	鈴鹿	和隆	文乙三	人芳
弓道部	澄谷教授	文甲二	前松	文乙二	天能	秀和	文乙二	志雄
陸上部	相原助教授	文甲三	大浦	文乙二	坂別	山府	文乙二	幸男
野球部	井手教授	文甲三	高木	文乙二	渡白	石定	文乙二	寅義
庭球部	木方教授	理甲三	青野	理乙二	水尾	森忠	理乙二	晴文
蹴球部	山村教授	文甲三	宮野	理乙三	飯島	吉弘	理乙三	越治
籠球部	矢野教授	文甲三	安住	文乙二	菅田	岡正	文乙二	耕之助
山岳部	北川教授	理甲三	越智	理甲二	伊賀	太田	理甲二	實助
水泳部	河路教授	文乙三	柴田	文甲二	關新	見賀	文甲二	章實
端艇部	伊藤教授	文甲三	赤嶺	理甲一	穴石	白章	理甲一	修修
文藝部	大江教授	文甲三	森田	文乙二	福見	智一	文乙二	嘉嘉
辯論部	三原教授	文乙三	今井	同	瀬戸	丸保	文甲二	一保

- 評議員 早崎 教授 森下 教授 川本 教授
- | | | |
|-----------|-----------|------------|
| 文甲三 田中 正 | 文乙三 長山松比古 | 理甲三 宮内 忠良 |
| 理乙三 有富 正直 | 文甲二 門田 耕治 | 文乙二 栗田 恒三郎 |
| 理甲二 相原 邦明 | 理乙二 白石 善之 | 文甲一 門田 圭三 |
| 文乙一 芥川 龍弑 | 理甲一 桑原 宏 | 理乙一 近藤 厚 |
- 事務員 近藤書記兼助教 福井書記

○對抗競技ニ關スル全國高等學校長ノ申合事項

- 第一條 此ノ申合ニ對抗競技ト稱スルハ他ノ學校若ハ團體ヲ相手トシテ行フ總テノ競技ヲ包含ス
- 練習試合ハ之ヲ對抗競技ト看做ス
- 第二條 對抗競技ノ相手ハ高等教育ヲ施ス諸學校ニ限ル
但シ特別ノ事由アル場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 第三條 原級ニ止マリタル生徒ハ當該學年間之ヲ對抗競技ニ參加セシムルコトヲ得ス
- 第四條 對抗競技ヲ行フ時期ハ定期休業中トス但シ學校所在地又ハ授業(學式ヲ含ム)ニ影響ナク往復シ得ヘキ土地ニ於テ行フ場合ハ此ノ限ニアラス
- 第五條 對抗競技ノ回数ハ前條但シ書ノ場合ヲ除キ同一種類ノ運動ニ就キテハ一學年

一回ヲ超ユルコトヲ得ス但シ休業中ニ於テ競技地並其ノ沿道ニ於テ行フ競技ハ本文ノ回数ニ算入セス

第六條 對抗競技ノ爲授業ヲ休止スルコトヲ得ス

第七條 對抗競技ヲ行フ際入場料ヲ徴收スルコトヲ得ス入場料ヲ徴收スル對抗競技ニハ參加セザルモノトス

第八條 對抗競技ヲ行フ場合ニハ成ルヘク教官ヲ同行セシムルモノトス

第九條 高等學校間ニ於テ對抗競技ヲ行ハムトスルトキハ關係學校長ハ其ノ時期、場所及方法等ニ就キ豫メ打合ヲ爲スモノトス

○松山高等學校同窓會規約

- 第一條 本會ハ會員相互ノ交誼ヲ厚クシ且母校トノ親密ナル連絡ヲ圖ルヲ以テ目的トス
- 第二條 本會ヲ松山高等學校同窓會ト稱ス
- 第二條 本會會員ヲ左ノ二種ニ分ツ
- 一 正會員 母校卒業者
- 一 特別會員 母校職員及舊職員
- 但シ會長ノ推薦ニ依リ本校出身者ヲ正會員、本校縁故者ヲ特別會員トナスコトア

ルヘシ

第四條 本會ハ本部ヲ母校ニ、支部ヲ總會ノ承認セル會員在住ノ各地ニ置ク

第五條 本會ノ目的ヲ達成スル爲左ノ諸件ヲ實行ス
一會員ノ動靜母校ノ近況ヲ報スルカ爲毎年十二月會員名簿ヲ兼ネタル會報ヲ頒布ス
一毎年一回總會ヲ母校所在地ニ開ク
一其ノ他臨機適當ナル事業

第六條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク
會長 一名 校長ヲ推戴ス

理事 若干名 支部會員ノ互選ニヨリ會長之ヲ囑託シ任期ヲ一ケ年トス
但シ二名ハ特別會員中ヨリ會長之ヲ囑託ス

事務取扱 二名 特別會員中ヨリ會長之ヲ囑託ス
第七條 會長ハ本會ヲ總裁シ理事ハ本會ノ重要事務ヲ處理シ事務取扱ハ會長、理事ノ旨ヲ承ケテ庶務會計ノ事ニ從フ

第八條 各支部ハ役員其ノ他其ノ部ニ關スル一切ノ事項ヲ議定シ之ヲ本部ニ報告スヘシ

第九條 本會理事任期中ニ缺員ヲ生シタルトキハ會長之ヲ補充ス

第十條 正會員ハ入會ノ際會費トシテ一時金五圓ヲ納付スルモノトス
特別會員ハ毎年總會前月ニ於テ應分ノ寄附ヲ爲スモノトス

但シ舊職員ハ此ノ限ニアラス

第十一條 會費ハ常分之ヲ基金トシテ積立テ其ノ利子ハ主トシテ通信、編纂及印刷費等ニ使用シ若シ剩餘ヲ生シタル場合ニハ之ヲ積立金ニ繰入ルルモノトス

收支決算ハ毎年本會會報ニ掲載ス
基金ノ使途ニ關シテハ役員會ノ決議ヲ經ヘキモノトス

第十二條 正會員ハ其ノ職業住所等ニ異動ヲ生シタル場合ハ其ノ都度之ヲ本部ニ通告スヘシ

第十三條 本會會則ノ變更ハ總會ニ諮ルヘキモノトス

會長	大正十一年六月	理事	大正十一年六月
事務取扱	大正十一年六月	庶務	大正十一年六月
會計	大正十一年六月	編輯	大正十一年六月
印刷	大正十一年六月	通信	大正十一年六月
基金	大正十一年六月	積立金	大正十一年六月
會費	大正十一年六月	特別會員	大正十一年六月
正會員	大正十一年六月	入會費	大正十一年六月
特別會員	大正十一年六月	寄附	大正十一年六月
役員	大正十一年六月	決議	大正十一年六月
會則	大正十一年六月	變更	大正十一年六月
總會	大正十一年六月	諮問	大正十一年六月
本部	大正十一年六月	報告	大正十一年六月
支部	大正十一年六月	承認	大正十一年六月
會員	大正十一年六月	名簿	大正十一年六月
會報	大正十一年六月	頒布	大正十一年六月
總會	大正十一年六月	開會	大正十一年六月
臨機	大正十一年六月	適當	大正十一年六月
事業	大正十一年六月		大正十一年六月
役員	大正十一年六月		大正十一年六月
會長	大正十一年六月		大正十一年六月
校長	大正十一年六月		大正十一年六月
推戴	大正十一年六月		大正十一年六月
理事	大正十一年六月		大正十一年六月
若干名	大正十一年六月		大正十一年六月
支部	大正十一年六月		大正十一年六月
會員	大正十一年六月		大正十一年六月
互選	大正十一年六月		大正十一年六月
會長	大正十一年六月		大正十一年六月
之ヲ	大正十一年六月		大正十一年六月
囑託	大正十一年六月		大正十一年六月
シ	大正十一年六月		大正十一年六月
任期	大正十一年六月		大正十一年六月
ヲ	大正十一年六月		大正十一年六月
一ケ	大正十一年六月		大正十一年六月
年	大正十一年六月		大正十一年六月
ト	大正十一年六月		大正十一年六月
ス	大正十一年六月		大正十一年六月
但シ	大正十一年六月		大正十一年六月
二名	大正十一年六月		大正十一年六月
ハ	大正十一年六月		大正十一年六月
特別	大正十一年六月		大正十一年六月
會員	大正十一年六月		大正十一年六月
中	大正十一年六月		大正十一年六月
ヨリ	大正十一年六月		大正十一年六月
會長	大正十一年六月		大正十一年六月
之ヲ	大正十一年六月		大正十一年六月
囑託	大正十一年六月		大正十一年六月
ス	大正十一年六月		大正十一年六月
事務	大正十一年六月		大正十一年六月
取扱	大正十一年六月		大正十一年六月
二名	大正十一年六月		大正十一年六月
特別	大正十一年六月		大正十一年六月
會員	大正十一年六月		大正十一年六月
中	大正十一年六月		大正十一年六月
ヨリ	大正十一年六月		大正十一年六月
會長	大正十一年六月		大正十一年六月
之ヲ	大正十一年六月		大正十一年六月
囑託	大正十一年六月		大正十一年六月
ス	大正十一年六月		大正十一年六月
會長	大正十一年六月		大正十一年六月
ハ	大正十一年六月		大正十一年六月
本會	大正十一年六月		大正十一年六月
ヲ	大正十一年六月		大正十一年六月
總裁	大正十一年六月		大正十一年六月
シ	大正十一年六月		大正十一年六月
理事	大正十一年六月		大正十一年六月
ハ	大正十一年六月		大正十一年六月
本會	大正十一年六月		大正十一年六月
ノ	大正十一年六月		大正十一年六月
重要	大正十一年六月		大正十一年六月
事務	大正十一年六月		大正十一年六月
ヲ	大正十一年六月		大正十一年六月
處理	大正十一年六月		大正十一年六月
シ	大正十一年六月		大正十一年六月
事務	大正十一年六月		大正十一年六月
取扱	大正十一年六月		大正十一年六月
ハ	大正十一年六月		大正十一年六月
會長	大正十一年六月		大正十一年六月
、	大正十一年六月		大正十一年六月
理事	大正十一年六月		大正十一年六月
ノ	大正十一年六月		大正十一年六月
旨	大正十一年六月		大正十一年六月
ヲ	大正十一年六月		大正十一年六月
承	大正十一年六月		大正十一年六月
ケ	大正十一年六月		大正十一年六月
テ	大正十一年六月		大正十一年六月
庶	大正十一年六月		大正十一年六月
務	大正十一年六月		大正十一年六月
會	大正十一年六月		大正十一年六月
計	大正十一年六月		大正十一年六月
ノ	大正十一年六月		大正十一年六月
事	大正十一年六月		大正十一年六月
ニ	大正十一年六月		大正十一年六月
從	大正十一年六月		大正十一年六月
フ	大正十一年六月		大正十一年六月
各	大正十一年六月		大正十一年六月
支	大正十一年六月		大正十一年六月
部	大正十一年六月		大正十一年六月
ハ	大正十一年六月		大正十一年六月
條	大正十一年六月		大正十一年六月
員	大正十一年六月		大正十一年六月
其	大正十一年六月		大正十一年六月
ノ	大正十一年六月		大正十一年六月
他	大正十一年六月		大正十一年六月
其	大正十一年六月		大正十一年六月
ノ	大正十一年六月		大正十一年六月
部	大正十一年六月		大正十一年六月
ニ	大正十一年六月		大正十一年六月
關	大正十一年六月		大正十一年六月
ス	大正十一年六月		大正十一年六月
ル	大正十一年六月		大正十一年六月
一	大正十一年六月		大正十一年六月
切	大正十一年六月		大正十一年六月
ノ	大正十一年六月		大正十一年六月
事	大正十一年六月		大正十一年六月
項	大正十一年六月		大正十一年六月
ヲ	大正十一年六月		大正十一年六月
議	大正十一年六月		大正十一年六月
定	大正十一年六月		大正十一年六月
シ	大正十一年六月		大正十一年六月
之	大正十一年六月		大正十一年六月
ヲ	大正十一年六月		大正十一年六月
本	大正十一年六月		大正十一年六月
部	大正十一年六月		大正十一年六月
ニ	大正十一年六月		大正十一年六月
報	大正十一年六月		大正十一年六月
告	大正十一年六月		大正十一年六月
ス	大正十一年六月		大正十一年六月
ヘ	大正十一年六月		大正十一年六月
シ	大正十一年六月		大正十一年六月
本	大正十一年六月		大正十一年六月
會	大正十一年六月		大正十一年六月
理	大正十一年六月		大正十一年六月
事	大正十一年六月		大正十一年六月
任	大正十一年六月		大正十一年六月
期	大正十一年六月		大正十一年六月
中	大正十一年六月		大正十一年六月
ニ	大正十一年六月		大正十一年六月
缺	大正十一年六月		大正十一年六月
員	大正十一年六月		大正十一年六月
ヲ	大正十一年六月		大正十一年六月
生	大正十一年六月		大正十一年六月
シ	大正十一年六月		大正十一年六月
タル	大正十一年六月		大正十一年六月
ト	大正十一年六月		大正十一年六月
キ	大正十一年六月		大正十一年六月
ハ	大正十一年六月		大正十一年六月
會	大正十一年六月		大正十一年六月
長	大正十一年六月		大正十一年六月
之	大正十一年六月		大正十一年六月
ヲ	大正十一年六月		大正十一年六月
補	大正十一年六月		大正十一年六月
充	大正十一年六月		大正十一年六月
ス	大正十一年六月		大正十一年六月
正	大正十一年六月		大正十一年六月
會	大正十一年六月		大正十一年六月
員	大正十一年六月		大正十一年六月
ハ	大正十一年六月		大正十一年六月
入	大正十一年六月		大正十一年六月
會	大正十一年六月		大正十一年六月
ノ	大正十一年六月		大正十一年六月
際	大正十一年六月		大正十一年六月
會	大正十一年六月		大正十一年六月
費	大正十一年六月		大正十一年六月
ト	大正十一年六月		大正十一年六月
シ	大正十一年六月		大正十一年六月
テ	大正十一年六月		大正十一年六月
一	大正十一年六月		大正十一年六月
時	大正十一年六月		大正十一年六月
金	大正十一年六月		大正十一年六月
五	大正十一年六月		大正十一年六月
圓	大正十一年六月		大正十一年六月
ヲ	大正十一年六月		大正十一年六月
納	大正十一年六月		大正十一年六月
付	大正十一年六月		大正十一年六月
ス	大正十一年六月		大正十一年六月
ル	大正十一年六月		大正十一年六月
モ	大正十一年六月		大正十一年六月
ノ	大正十一年六月		大正十一年六月
ト	大正十一年六月		大正十一年六月
ス	大正十一年六月		大正十一年六月
特	大正十一年六月		大正十一年六月
別	大正十一年六月		大正十一年六月
會	大正十一年六月		大正十一年六月
員	大正十一年六月		大正十一年六月
ハ	大正十一年六月		大正十一年六月
每	大正十一年六月		大正十一年六月
年	大正十一年六月		大正十一年六月
總	大正十一年六月		大正十一年六月
會	大正十一年六月		大正十一年六月
前	大正十一年六月		大正十一年六月
月	大正十一年六月		大正十一年六月
ニ	大正十一年六月		大正十一年六月
於	大正十一年六月		大正十一年六月
テ	大正十一年六月		大正十一年六月
應	大正十一年六月		大正十一年六月
分	大正十一年六月		大正十一年六月
ノ	大正十一年六月		大正十一年六月
寄	大正十一年六月		大正十一年六月
附	大正十一年六月		大正十一年六月
ヲ	大正十一年六月		大正十一年六月
爲	大正十一年六月		大正十一年六月
ス	大正十一年六月		大正十一年六月
モ	大正十一年六月		大正十一年六月
ノ	大正十一年六月		大正十一年六月
ト	大正十一年六月		大正十一年六月
ス	大正十一年六月		大正十一年六月

○舊職員

前官職	就職年月日	轉退年月日	摘要	氏名
校 醫	大正八、六、三〇	大正九、五、一一	解職	中井 茂樹
講 師	大正九、四、六	大正九、六、三〇	同	リチャド、ジョン、ダスカ
校 醫	大正九、五、二二	大正一〇、二、二八	同	植田 不二三
講 師	大正九、二、一七	大正一〇、三、一〇	同	塩月 善吉
講 師	大正八、六、二八	大正一〇、三、一五	退官	大野 武之助
講 師	大正一〇、四、二六	大正一〇、六、一〇	解職	湯田 重太郎
講 師	大正九、九、一	大正一〇、六、三〇	解職	荒川 重理
教 授	大正一〇、四、二六	大正一〇、七、三一	同	辻 卓爾
書 記	大正八、六、二一	大正一〇、二、一〇	轉任	中 目 覺
書 記	大正九、五、二四	大正一〇、二、一五	同	白 方 肇
備 人	大正九、一〇、一	大正一〇、二、一九	解備	オスカ、カール、フ
備 人	大正八、五、三〇	大正一〇、二、一九	轉任	オ、ウエグマン
講 師	大正一一、一、一〇	大正一一、三、一〇	同	田中 鶴之助
講 師	大正一〇、三、一五	大正一一、三、三一	解職	高木 敏雄
講 師			同	井上 清英

前官職	就職年月日	轉退年月日	摘要	氏名
校 醫	大正一〇、二、二八	大正一一、四、三〇	同	後藤 義貞
教 授	大正九、七、一〇	大正一一、四、一二	休職	中島 惟中
講 師	大正九、三、三一	大正一一、六、三〇	轉任	鈴木 清太
講 師	大正八、六、三〇	大正一一、七、二〇	解職	木 村 泰吉
助 教	大正八、六、二八	大正一一、八、一〇	轉任	十 龜 泰一
講 師	大正一一、七、三一	大正一一、一〇、一〇	解職	倉 田 太一
同 講	大正八、一一、一五	大正一一、一〇、三一	同	衛 藤 勝三郎
同 講	大正八、一一、一五	大正一一、一〇、三一	同	河 東 淳太郎
同 講	大正九、六、二五	大正一一、一〇、三一	同	岡 野 留次郎
教 授	大正一〇、四、五	大正一一、三、一〇	同	坂 崎 元侃
書 記	大正九、八、一六	大正一一、三、三一	退官	玉 井 元三
教 授	大正一一、三、一五	大正一一、三、一二	轉任	榎 澤 幹三
講 師	大正一一、三、二九	大正一一、三、三一	解職	酒 井 清良
教 授	大正八、六、三〇	大正一一、三、三一	退官	三 井 正武
備 人	大正八、六、三〇	大正一一、三、三一	轉任	高 木 三武
備 人	大正一〇、七、一	大正一一、三、六、三〇	解備	アーサー、フランシス、オー
備 人	大正九、七、六	大正一一、三、七、一四	退官	ネル、アレグザンダー
助 教	大正一一、一〇、二七	大正一一、三、七、三一	轉任	中 原 庄五郎
助 教			轉任	大 森 惠吉

關
係
法
令

第九 關係法令

一 高等學校令

(大正七年勅令第三百八十九號)

- 第一條 高等學校ハ男子ノ高等普通教育ヲ完成スルヲ以テ目的トシ特ニ國民道德ノ充實ニ力ムヘキモノトス
- 第二條 高等學校ハ官立、公立又ハ私立トス
- 第三條 高等學校ヲ設立スルコトヲ得ル公共團體ハ北海道及府縣トス
- 第四條 私立高等學校ハ財團法人タルコトヲ要ス但シ特別ノ必要ニ因リ學校經營ノミヲ目的トスル財團法人カ其事業トシテ之ヲ設立スル場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 第五條 前條ノ財團法人ハ高等學校ニ必要ナル設備又ハ之ニ要スル資金及少クトモ高等學校ヲ維持スルニ足ルヘキ收入ヲ生スル基本財産ヲ有スルコトヲ要ス但シ其ノ基本財産ノ額ハ五拾萬圓ヲ下ルコトヲ得ス
- 第六條 基本財産中前項ニ該當スルモノハ現金又ハ國債證券其ノ他文部大臣ノ定ムル有價證券トシ之ヲ供託スヘシ
- 第六條 公立及私立ノ高等學校ノ設立廢止ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ
- 第七條 高等學校ノ修業年限ハ七年トシ高等科三年等常科四年トス高等學校ハ高等科ノミヲ置クコトヲ得
- 第八條 高等學校高等科ヲ分チテ文科及理科トス
- 第九條 高等學校ニハ高等科ヲ卒リタル者ノ爲ニ專攻科ヲ置クコトヲ得其ノ修業年限ハ一年トス
- 專攻科ヲ卒リタルモノハ得業士ト稱スルコトヲ得
- 專攻科ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム
- 第十條 高等學校ニハ特別ノ必要アル場合ニ於テ理科ヲ置クコトヲ得但シ第七條第二項ノ高等學校ニ付テハ此ノ

限ニ在ラス高等學校豫科ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第十一條 高等學校尋常科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ當該學校豫科ヲ修了シタル者、尋常小學校ヲ卒業シタル者又ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ト同等以上ノ學力アリト認メラレタル者トス

第十二條 高等學校高等科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ當該學校尋常科ヲ修了シタル者、中學校第四學年ヲ修了シタル者又ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ト同等以上ノ學力アリト認メラレタル者トス

第十三條 高等學校ノ生徒定數ハ高等科四百八十人以上ノ尋常科三百二十人以上トシ第七條第二項ノ高等學校ニ在リテハ專攻科ヲ除キ六百人以上トス

第十四條 高等學校ニ於テハ同科同學年ノ生徒ヲ以テ學級ヲ編制スヘシ一學級ノ生徒定數ハ四十人以上トス

第十五條 高等學校ニ於テハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ學科目ノ種類ニ從ヒ學級ノ異ナル生徒ヲ合シテ同時ニ之ヲ教授スルコトヲ得

第十六條 高等學校ノ教員ハ文部大臣ノ授與シタル高等學校教員免許狀ヲ有スル者タルコトヲ要ス但シ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ免許狀ヲ有セザル者ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

高等學校教員免許狀ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第十七條 高等學校ノ設備、編制、學科目及其ノ程度、教科書並生徒ノ入學退學及懲戒、授業料、入學料等ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第十八條 公立及私立ノ高等學校ハ文部大臣ノ監督ニ屬ス

第十九條 文部大臣ハ公立及私立ノ高等學校ニ對シ報告ヲ徵シ檢閲ヲ行ヒ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第二十條 本令ニ依ラザル學校ハ勅定規程ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外高等學校ト稱シ又ハ其ノ名稱ニ高等學校タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用フルコトヲ得

附 則

本令ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治二十七年勅令第七十五號高等學校令及高等中學校令ハ之ヲ廢止ス

舊令ニ係ル高等學校ハ之ヲ本令ニ依リ高等學校トス

前項ノ高等學校ニハ當分ノ内第十三條ノ規定ヲ適用セス

高等學校大學豫科ハ大正十年八月三十一日マテ之ヲ存置ス

二 高等學校規程

(大正八年文部省令第八號)

第一章 學科課程及教科書

第一節 尋常科

第一條 尋常科ノ學科目ハ修身、公民科、國語漢文、外國語、歴史、地理、數學、理科、圖畫、音樂、作業科、體操トス

外國語ハ英語、獨語又ハ佛語トス

第二條 各學年ニ於ケル各學科目ノ每週教授時數ハ左表ニ依ルヘシ

學科目	學年	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年
修身		一	一	一	一
公民科				一	
國語漢文		七	七	六	六
外國語		六	七	六	六

計	體操	作業科	音樂	圖畫	理科	數學	地理	歷史
三一	五	一	一	一	二	四		三
三二	五	一	一	一	二	四		三
三二	五	一		一	四	四		三
三三	五	一		一	五	四		三

作業科、圖畫、音樂等ノ實習及體操ハ前表ノ教授時數ヲ適宜増加シテ之ヲ課スル事ヲ得

第三條 中學校ノ學科目ノ程度ニ關スル中學校令施行規則ノ規定ハ尋常科ニ關シ之ヲ準用ス

第二節 高等科

第四條 高等科文科ノ學科目ハ修身、國語及漢文、第一外國語、第二外國語、歷史、地理、哲學概説、心理及論理、法制及經濟、數學、自然科學、體操トス

高等科理科ノ學科目ハ修身、國語及漢文、第一外國語、第二外國語、數學、物理、化學、植物及動物、礦物及地質、心理、法制及經濟、圖畫、體操トス

外國語ハ英語、獨語又ハ佛語トス

第二外國語ハ隨意科目トス

第五條 修身ハ教育ニ關スル勸諭ノ趣旨ニ基キ道德上ノ思想及情操ヲ養成シ實踐躬行ヲ勸奨スルヲ以テ要旨トス

修身ハ道德ノ要領ヲ授ケ國家、社會、家族ニ對スル義務並人格修養ニ關シ必要ナル事項ヲ知ラシメ特ニ我國民道徳ヲ會得シ其ノ實行ニ努メシムヘシ

第六條 國語及漢文ハ言語文章ヲ了解シ正確且自由ニ思想ヲ表ハスノ能力ヲ得シメ智徳ヲ啓發シ文學上ノ趣味ヲ養フヲ以テ要旨トス

國語及漢文ハ文科ニ在リテハ近世、近古及中古ノ國文ヲ授ケ進ミテ上古文ノ一般ニ及ホシ又普通ノ漢文ヲ講讀セシメ國語文法及國文學史ノ大要ヲ授ケ作文ニ習熟セシムヘシ

理科ニ在リテハ近世及近古ノ國文並普通ノ漢文ヲ授ケ作文ニ習熟セシムヘシ

第七條 外國語ハ英語、獨語又ハ佛語ヲ了解シ且之ニ依リテ思想ヲ表スノ能力ヲ得シメ兼テ智徳ノ増進ニ實スルヲ以テ要旨トス

外國語ハ發音、綴字、讀方、譯解、話方、作文、書取及文法ヲ授ケヘシ

第八條 歷史ハ重要ナル古今ノ事蹟ヲ知ラシメ邦家ノ盛衰、文化ノ發達ヲ理會セシメ特ニ我國運發展ノ由來、國體ノ特異ナル所以ヲ明シ國民性格ノ養成ニ資スルヲ以テ要旨トス

歷史ハ日本歷史、東洋歷史及西洋歷史ヲ授ケヘシ

第九條 地理ハ我國及重ナル世界各國ノ現狀ヲ知ラシムルヲ以テ要旨トス

地理ハ我國及諸外國ノ政治、經濟等ニ關スル地理上ノ智識ヲ授ケヘシ

第十條 哲學概説ハ思想界ニ關スル智識ヲ與ヘ哲學ノ概念ヲ會得セシムルヲ以テ要旨トス

哲學概説ハ東洋及西洋ノ哲學、宗教等ニ就キテ其ノ大要ヲ授ケヘシ

第十一條 心理及論理ハ心意ニ關スル智識ヲ得シメ思考ヲ鍛練セシムルヲ以テ要旨トス

心理及論理ハ各種ノ精神作用、思考ノ原則及其ノ方法ノ概要ヲ授ケヘシ

第十二條 數學ハ數理ヲ會得セシメ計算應用ニ熟セシメ思考ヲ精確ナラシムルヲ以テ要旨トス

數學ハ數理ヲ會得セシメ計算應用ニ熟セシメ思考ヲ精確ナラシムルヲ以テ要旨トス

數學ハ文科ニ在リテハ數學緒論ノ大要ヲ授ケ理科ニ在テハ代數、立體幾何、三角法、初等解析幾何、初等微分積分及初等力學ヲ授クヘシ

第十三條 自然科學ハ天然物及自然ノ現象ニ關スル智識ヲ與ヘ其ノ法則ヲ理會セシムルヲ以テ要旨トス

第十四條 物理、化學ハ自然ノ現象ニ關スル智識ヲ與ヘ其ノ法則ヲ理會セシメ之カ應用ヲ示シ兼テ觀察工夫ノ力ヲ養フヲ以テ要旨トス

物理ハ力學、物性、音聲、熱、光、磁氣、電氣ヲ授ケ又主要ナル實驗ヲ課スヘシ

化學ハ無機化學、有機化學ヲ授ケ又主要ナル實驗ヲ課スヘシ

第十五條 植物及動物、礦物及地質ハ天然物ニ關スル智識ヲ與ヘ之カ應用ヲ示シ兼テ觀察ヲ精確ナラシムルヲ以テ要旨トス

植物及動物ハ生物ノ形態、生理、分類、進化ニ關スル智識ヲ授ケ又主要ナル實驗ヲ課スヘシ

礦物及地質ハ礦物ノ產狀、性質、用途、地球ノ構成及其ノ變遷ニ關スル智識ヲ授ケ又便宜上主要ナル實驗ヲ課スヘシ

第十六條 法制及經濟ハ法制及經濟ニ關スル事項ニ就キ國民生活ニ必要ナル智識ヲ得シムルヲ以テ要旨トス

法制及經濟ハ帝國憲法ノ大要及日常ノ生活ニ適切ナル法制上及經濟財政上ノ事項ヲ授クヘシ

第十七條 圖畫ハ形體ヲ正確且自由ニ畫クノ能力ヲ得シメ意匠ヲ練リ思考ヲ精確ナラシムルヲ以テ要旨トス

圖畫ハ自在畫、平面幾何畫、立體幾何畫ヲ授クヘシ

第十八條 體操ハ身體ヲ健全ニシ動作ヲ敏活ナラシメ剛健ノ精神ト規律ヲ守リ協同ヲ尙フノ習慣トヲ養フヲ以テ要旨トス

體操ハ教練及體操ヲ授クヘシ又劍道、柔道及弓道ヲ加フルコトヲ得

第十九條 文科ノ各學年ニ於ケル各學科目ノ每週教授時數ハ左表ニ依ルヘシ

學科目	學年	第一學年	第二學年	第三學年
修身		一	一	一
國語及漢文		六	五	五
第一外國語		九	八	八
第二外國語		(四)	(四)	(四)
歷史		三	五	四
地理		二		
哲學概說				三
心理及論理			二	二
法制及經濟			二	二
數學		三		
自然科學		二	三	
體操		三	三	三
計		(三九)	(三九)	(三二)

第一外國語ハ尋常科又ハ中學校ニ於テ生徒ノ履修シタル外國語トス但シ生徒ノ志望ニ依リ第一外國語ノ種類ヲ轉換スルコトヲ得シム此ノ場合ニ於テハ各學年ニ於ケル第一外國語及第二外國語ノ每週教授時數ハ左表ニ依ル

ハシ

學科目	第一學年	第二學年	第三學年
第一外國語	一一	一〇	一〇
第二外國語	(三)	(三)	(三)
計	(三三)	(三三)	(三〇)

第二外國語ヲ修メサル者ニ對シテハ其ノ教授時數ヲ便宜他ノ學科目ニ配當スルコトヲ得
 第二十條 理科ノ各學年ニ於ケル各學科目ノ每週教授時數ハ左表ニ依ルヘシ

學科目	第一學年	第二學年	第三學年
修身	一	一	一
國語及漢文	四	二	一
第一外國語	八	六	六
第二外國語	(四)	(四)	(四)
數學	四	四	四
物理學		三	三
化學		三	三
植物及動物	二	二	二
講義二		二	二
實驗二		二	二
講義三		三	三
實驗三		三	三
講義四		四	四
實驗四		四	四
講義五		五	五
實驗五		五	五
講義六		六	六
實驗六		六	六
計	二八	二八	二八

學科目	第一學年	第二學年	第三學年
礦物及地質	二		
心理		二	
法制及經濟	二		
國語	二	二	(二)
體操	三	三	三
計	二八	二八	二八

第三學年ノ數學(一)及圖畫(一)ト第三學年ノ植物及動物(講義二實驗二)トハ生徒ヲシテ其ノ一ヲ選擇セシムルモノトス
 第一外國語ハ尋常科又ハ中學校ニ於テ生徒ノ履修シタル外國語トス但シ生徒ノ志望ニ依リ第一外國語ノ種類ヲ轉換スルコトヲ得シム此ノ場合ニ於テハ各學年ニ於ケル第一外國語及第二外國語ノ每週教授時數ハ左表ニ依ルヘシ

學科目	第一學年	第二學年	第三學年
第一外國語	一〇	九	九
第二外國語	(三)	(三)	(三)
計	(一三)	(一二)	(一二)

第二外國語ヲ修メサル者ニ對シテハ其ノ教授時數ヲ便宜他ノ學科目ニ配當スルコトヲ得

第三節 專攻科

第二十一條 專攻科ノ學科日ハ左ノ學科日中ヨリ便宜選擇シテ之ヲ定ムヘシ
國語、漢文、支那時文、外國語、史學、哲學、倫理學、社會學、法律學、政治學、經濟學、數學、物理學、化學、植物學、動物學、礦物學、地質學、天文學、氣象學、應用化學、機械工學、實業ニ關スル科目等

第四節 教授上ノ注意

第二十二條 高等學校ニ於テハ高等學校令第一條ノ趣旨ニ依リ生徒ヲ教育シ殊ニ國民道德ノ充實ニ關聯セル事項ハ何レノ學科日ニ於テモ常ニ留意シテ教授センコトヲ要ス
各學科日ノ教授ハ其ノ目的及方法ヲ誤ルコトナク互ニ相聯絡シテ補益センコトヲ要ス

第五節 教科書

第二十三條 高等學校ノ教科書ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ學校長之ヲ定ムヘシ
但シ文部大臣ノ檢定ヲ經タル中學校教科書ヲ尋常科ノ教科書トシテ使用スル場合ニ於テハ認可ヲ要セス

第二章 學年、教授日數及式日

第二十四條 學年ハ四月一日ヨリ翌年三月三十一日マテトス但シ九月一日ヨリ翌年八月三十一日マテト爲スコトヲ得

第二十五條 教授日數ハ尋常科ニ在リテハ每學年二百二十日以上、高等科ニ在リテハ每學年二百日以上、專攻科ニ在リテハ百九十日以上トス但シ次條ノ場合ニ於テハ此ノ限ニアラス
試驗及修學旅行ニ充ツル日數ハ前項ノ日數ニ算入セス

第二十六條 傳染病預防ノ爲必要ナルトキ其ノ他非常變災アルトキハ臨時休業ヲナスコトヲ得

第二十七條 紀元節、天長節、明治節及一月一日ニハ職員及生徒學校ニ參集シテ祝賀ノ式ヲ行フヘシ

第三章 編制

第二十八條 尋常科ニ於テ學級ノ異ナル生徒ヲ合シテ同時ニ之ヲ教授スルコトヲ得ル場合ニ關シテハ中學校ニ關スル規定ヲ準用ス

高等科ニ於テハ國語及漢文、外國語、數學ヲ教授スル場合ヲ除ク外學級ノ異ナル生徒ヲ合シテ同時ニ之ヲ教授スルコトヲ得

第二十九條 公立又ハ私立ノ高等學校ノ教員數ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ定ムヘシ但シ兼任教員ハ教員數ノ半數ヲ超ユルコトヲ得ス

第三十條 公立又ハ私立ノ高等學校高等科ニ於テ劍道、柔道又ハ弓道ノ教授ヲ擔任スル教員ハ前條ノ定數外トス

第四章 設備

第三十一條 高等學校ニ於テハ校地、校舍、體操場及校具ヲ備フヘシ

第三十二條 校地ハ學校ノ規模ニ適應セル面積ヲ有シ且道德上及衛生上害ナキ所タルヘシ

第三十三條 校舍ニハ教室、事務室其ノ他必要ナル實驗室、圖書室、器械室、標本室等ヲ備フヘシ
校舍ハ教授上及管理上及衛生上適當ニシテ堅牢ナルコトヲ要ス

第三十四條 校具ハ教授上必要ナル圖書、機械、器具、標本、模型等トス

第三十五條 高等學校ニ於テハ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外左ノ表ヲ備フヘシ

- 一 學則、日課表及教科用圖書配當表
 - 二 職員ノ名簿及履歷書並擔任學科目及時間表
 - 三 生徒學籍簿、出席簿、身體檢查ニ關スル表簿及入營延期又ハ徵兵猶豫ニ關スル書類
 - 四 試驗ノ問題、答案及成績表
 - 五 資產原簿、出納簿、經費ノ豫算決算ニ關スル帳簿及圖書、機械、器具、標本、模型ノ目錄
- 生徒學籍簿ニハ生徒ノ姓名、族籍、住所、生年月日、入學前ノ學歷、入學、轉學、退學ノ年月日及其ノ學年、卒業ノ年月日、入學試驗ノ有無、轉學退學ノ事由、徵兵事故、保證人ノ姓名及居所等ヲ記載スヘシ

第五章 設立及廢止

第三十六條 公立又ハ私立ノ高等學校ノ設立ニ付認可ヲ受ケントスルトキハ左ノ事項ヲ具シ文部大臣ニ申請スヘシ

- 一 名稱
 - 二 高等學校令第七條ノ事項
 - 三 學則
 - 四 各科ノ生徒定數
 - 五 位置及校地
 - 六 校舍ノ圖面及建設ノ設計
 - 七 開校ノ期日
 - 八 經費及維持ノ方法
- 前項第五號ニ關シテハ校地ノ地質及面積並附近ノ情況ヲ記載シタル圖面及飲用水ノ定性分析表ヲ添附スヘシ
- 第一項各號ノ變更ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ
- 第三十七條 公立又ハ私立ノ高等學校ノ廢止ニ付認可ヲ受ケントスルトキハ其事由及生徒ノ處分方法ヲ具シ文部大臣ニ申請スヘシ

第六章 入學、在學、休學、退學及懲戒

- 第三十八條 生徒ヲ入學セシムヘキ時期ハ學年ノ始ヨリ三十日以内トス
- 第三十九條 當該高等學校ノ豫科ヲ修了シタル者ハ其ノ他ノ志願者ニ先チ之ヲ尋常科ニ入學セシムヘシ
- 第四十條 他ノ高等學校又ハ中學校ノ豫科ヲ修了シタル者及高等學校ニ於テ國語、算術、國史、地理、理科ニ就キ尋常小學校卒業ノ程度ニ依リ行フ檢定ニ合格シタル者ハ尋常科ノ入學ニ關シ尋常小學校卒業シタル者ト同等以上ノ學力アリト認ム
- 第四十一條 尋常科第二學年以上ニ入學ヲ許スヘキ者ハ第一學年ニ入學スル資格ヲ有シ且前各學年ノ課程ヲ修了シタル者ト同等以上ノ學力ヲ有スル者タルヘシ

- シタル者ト同等以上ノ學力ヲ有スル者タルヘシ
- 前項入學者ノ學力ハ當該學年ノ程度ニ於テ之ヲ檢定スヘシ
- 第四十二條 當該高等學校尋常科ヲ修了シタル者ハ其ノ他ノ志願者ニ先チ之ヲ高等科ニ入學セシムヘシ
- 第四十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ高等科ノ入學ニ關シ中學校第四學年ヲ修了シタル者ト同等以上ノ學力アリト認ム
 - 一 他ノ高等學校尋常科ヲ修了シタル者
 - 二 高等學校高等科入學資格檢定ニ合格シタル者
 - 三 專門學校入學者檢定規程ニ依リ試驗檢定ニ合格シタル者
 - 四 文部大臣ニ於テ高等學校高等科ノ入學ニ關シ指定シタル者
 - 五 文部大臣ニ於テ一般ノ專門學校ノ入學ニ關シ中學校卒業者ト同等以上ノ學力アリト指定シタル者
- 前項ノ資格試驗ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム
- 第四十四條 當該高等學校尋常科ヲ修了シタル者以外ノ入學志願者ノ數高等科各科ニ入學セシムヘキ人員ニ超過スルトキハ入學前ニ於ケル學業成績ト中學校第四學年ヲ修了ノ程度ニ依リ行フ試驗ノ成績トヲ併セ考査シテ入學者ヲ選拔スヘシ但シ試驗ハ之ヲ行ハサルコトヲ得
- 前項ノ考査ノ外必要アリト認ムルトキハ入學志願者ニ對シテ人物考査ヲ行フコトヲ得
- 第四十五條 高等學校ニ於テハ入學志願者ニ對シテ身體檢査ヲ行ヒ之ニ合格シタル者ニ限リ入學セシムヘシ但シ當該學校ニ於テ豫科ヨリ尋常科ニ進入シ又ハ尋常科ヨリ高等科ニ進入スル者ニ關シテハ此ノ限ニ在ラス
- 第四十六條 高等科第二學年以上ニ入學ヲ許スヘキ者ハ第一學年ニ入學スル資格ヲ有シ且前各學年ノ課程ヲ修了シタル者ト同等以上ノ學力ヲ有スル者タルヘシ
- 前項入學者ノ學力ハ當該學年ノ程度ニ於テ之ヲ檢定スヘシ
- 第四十七條 高等學校生徒ニシテ退學シタル者退學シタル時ヨリ一年以内ニ於テ高等學校ニ入學ヲ志願シタル者

同一學年以下ノ學年ニ限リ入學ヲ許可スルコトヲ得

第四十八條 高等學校生徒ニシテ他ノ高等學校ニ轉學ヲ志望スル者アルトキハ關係學校長ノ協議ニ依リ之ヲ許可スル事ヲ得

第四十九條 高等學校尋常科ト中學校トノ相當學年相互ノ間ニ於テハ前條ノ規定ニ準シ轉學ヲ許可スルコトヲ得

第五十條 高等學校尋常科各學年ノ課程又ハ全學科ノ修了ヲ認ムルニハ平素ノ學業成績ヲ考查シテ之ヲ定ムヘシ

高等學校高等科各學年ノ課程ノ修了又ハ全學科ノ卒業ヲ認ムルニハ平素ノ學業及試驗ノ成績ヲ考查シテ之ヲ定ムヘシ但シ正當ノ事由アリテ試驗ニ缺席シタル者ニ對シテハ平素ノ學業成績ノミヲ考查シテ之ヲ定ムルコトヲ得

試驗ハ學校長ノ見込ニ依リ之ヲ行ハサルコトヲ得

第五十一條 學校長ハ一學年ノ課程ヲ修了セサル生徒ノ學年ヲ進ムルコトヲ得ス

第五十二條 學校長ハ高等學校高等科ヲ卒業シタル者ニハ卒業證書、專攻科ヲ卒リタル者ニハ得業證書ヲ、尋常科ヲ修了シタル者ニハ修了證書ヲ授與スヘシ

第五十三條 學校長ハ正當ノ事由アリト認メタルトキハ生徒ノ休學ヲ許可スヘシ

第五十四條 學校長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ退學ヲ命スヘシ

- 一 品行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者
- 二 學力劣等ニシテ卒業ノ見込ナシト認メタル者
- 三 引續キ一年以上缺席シタル者
- 四 正當ノ事由ナクシテ引續キ一ヶ月以上缺席シタル者
- 五 出席常ナラサル者

第五十五條 生徒退學セントスルトキハ學校長ノ許可ヲ受クヘシ

第五十六條 學校長ハ教育上必要ト認メタルトキハ生徒ニ懲戒ヲ加フルコトヲ得

第七章 豫科

第五十七條 高等學校ノ豫科ニ關シテハ中學校ノ豫科ニ關スル中學校令施行規則ノ規定ヲ準用ス

第八章 雜則

第五十八條 高等學校ノ學則中ニ規定スヘキ事項凡左ノ如シ

- 一 學年、學期及休業日ニ關スル事項
- 二 學科課程、教授時數ニ關スル事項
- 三 課程ノ修了及卒業ノ認定ニ關スル事項
- 四 生徒ノ入學、退學、懲戒ニ關スル事項
- 五 授業料、入學料等ニ關スル事項

第五十九條 私立ノ高等學校ニ關シ文部大臣ニ提出スヘキ文書ハ地方長官ヲ經由スヘシ

附則

本令ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ高等學校大學豫科ニ在學スル生徒ニシテ大正十年八月三十一日マテニ卒業セサルヘキモノハ之ヲ高等學校高等科ノ相當學年ニ編入ス

高等中學校規程、明治四十一年文部省令第九號、高等學校大學豫科入學者無試験檢定規程及高等學校大學豫科入學者選拔試験規程ハ之ヲ廢止ス

附則 (昭和二年文部省令第二十八號)

本令ハ昭和三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第四十條第二項及第四十四條ノ規定改正ハ本令公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

三 高等學校教授要目

自然科學教授要目

(大正十一年文部省訓令第一號)

第一學年 (生物及地質) (約六十時間)

- 一 自然科學ノ意義
- 二 生物ト無生物、動物ト植物
- 三 生物ノ起原
- 四 生物體ノ構造 (細胞、組織、器官、器官系) 生物ノ高等下等
- 五 生物分類學ノ概念
- 六 生理作用一般 (營養、呼吸、排泄、酵素、毒素、反毒素、免疫、內分泌、刺戟、趨向性等)
- 七 生殖作用 (生殖細胞、無性生殖、有性生殖、性ノ決定) 雌雄ノ分化
- 八 生物ノ個體發生及成熟期
- 九 生物ノ壽命ト死
- 一〇 變異及遺傳 (遺傳現象、純系及雜系、實驗遺傳學、遺傳法則、遺傳物質ト細胞)
- 一一 品種改良、優生學
- 一二 生物ト環境 (生物相互ノ關係、生物ノ生態的及地理的分布)
- 一三 生物ノ進化及進化説

- 一四 動物ノ智能ノ發達
- 一五 人類ノ起原及發達
- 一六 人類ト他ノ生物トノ關係
- 一七 太陽系及其ノ一員トシテノ地球、太陽系生成ニ關スル學説
- 一八 地球ノ現今ノ狀態 (氣圈、水圈、岩石圈、重圈) 重圈ニ關スル學説
- 一九 地殼ノ構造 (水成岩、火成岩、變成岩) 成因、特性及現出狀態、主ナル岩石ノ實例、岩漿分化ノ現象
- 二〇 地殼ノ變動 (內因的又外因的の地質作用)
- 二一 地史學概論 (前かむふりあ時代附あるころなきあ時代ノ生物、古生代、中生代及新生代ト各時代ノ生物)
- 二二 人類ト續物界トノ關係
- 二三 概括

備考

本要目ハ自然科學ノ教授上主トシテ準據スヘキ生物及地質ニ關スル主ナル教材ヲ舉ケタルモノナリ但シ教材ノ選擇及排列ハ必スシモ之ニ據ルヲ要セス殊ニ本要目ニハ生物ニ關スル事項ト地質ニ關スル事項トハ其ノ授業擔任者ヲ異ニスル場合ヲ考慮シ地質ニ關スル教材ヲ終リニ雜メテ配置シタレトモ同一教員ニテ全部ヲ受持ツ場合ニハ地質ニ關スル教材ヲ其ノ生物ニ關スル教材トノ關係ヲ參酌シテ適當分配シ教材排列順ノ統一ヲ圖ルモ可ナリ

第二學年 (物理及化學) (約九十時間)

物理

- 一 自然科學ニ於ケル物理學ノ位置
- 二 物理學ノ分類ト其ノ概要
- 三 定律ト假説

自然科學教授要目

- 四 ニュートンノ運動ノ定律及其ノ論據
- 五 萬有引力ノ定律及其ノ論據
- 六 時間及時刻
- 七 天體現象
- 八 えれるき
- 九 熱力學ノ大要
- 一〇 分子運動說
- 一一 波動
- 一二 光學ノ大要(反射、屈折、光ノ速度、干涉、偏光、すべくさる、輻射、吸收、廻折等)
- 一三 磁氣及靜電氣
- 一四 電流(抵抗、熱作用、磁氣作用、機械的作用、電磁感應、直流並交流等)
- 一五 電氣振動、電磁波
- 一六 光ノ理論ノ變遷
- 一七 氣體ノ電氣傳導、真空放電(陰極線、X線等)
- 一八 電子論
- 一九 放射能
- 二〇 量子論
- 二一 自然ノ連續性及不連續性
- 二二 自然界ニ於ケル週期性
- 二三 自然現象ノ可逆及不可逆
- 二四 相對論

化學

- 一 自然科學ニ於ケル化學ノ位置
- 二 物質ノ純非
- 三 元素ト化合物、化學量論ノ諸定律
- 四 分子說、原子說、其ノ論據
- 五 化學記號、化學方程式、原子價、構造式
- 六 炭素ノ化學
- 七 熱化學(反應熱、發熱反應、吸熱反應等)
- 八 可逆反應ト不可逆反應、化學平衡
- 九 活動量ノ定律、フアントフ及ルシャトリエノ原理
- 一〇 反應速度論、觸媒
- 一一 主ナル金屬ノ化學
- 一二 合金
- 一三 溶液、滲透壓
- 一四 電氣化學(電解傳導、電池等)
- 一五 分析化學ノ大要
- 一六 膠質化學
- 一七 大氣
- 一八 燃燒、燃料
- 一九 化學工業ノ原料ト製品
- 二〇 油脂、炭水化合物、醱酵

- 一一 蛋白質、營養品、嗜好品
- 一二 飲料水、用水
- 一三 呼吸及消化ノ化學

備考

- 一 此要目ハ自然科學ノ教授上主トシテ準據スヘキ物理及化學ニ關スル主ナル教材ヲ舉ケタルモノナリ但シ教材ノ選擇及排列ハ必スシモ之ニ據ルヲ要セス
- 二 物理ト化學トノ授業時數ハ略同一トシ適宜増減スルヲ得ルモノトス
- 三 此ノ要目ハ現行中學校教授要目ニ據リ第四學年ヲ修了シタル者ヲ標準トシテ作成セリ

文科數學教授要目

(大正十二年文部省訓令第二號)

第一學年 (約九十時間)

- 一 幾何及代數ノ補充
- 二 平面及直線 多面體 錐 球
- 三 指數及對數 順列及組合 二項定理 確率
- 四 三角法
- 五 角ノ測リ方三角函數 三角形ノ性質 逆三角函數
- 六 平面解析幾何
- 七 坐標 軌跡ノ方程式 直線、圓、楕圓、雙曲線、拋物線ノ主ナル性質
- 八 微分積分
- 九 函數ト其ノぐらふ 極限值 連續 微分法 積分法

- 一〇 微分法ノ應用(函數ノ値ノ増減及極大極小、曲線ノ切線及凸凹等)
- 一一 積分法ノ應用(面積、曲線ノ長サ、體積等)

備考

- 一 此ノ要目ハ教授上主トシテ準據スヘキ教材ヲ舉ケタルモノナリ但シ其ノ選擇排列ニ就キテハ多少ノ斟酌ヲ爲スヲ妨ケス
- 二 必要ニシテ充分ナル條件、歸納法等ハ適宜ノ場所ニ於テ之ヲ教授スルモノトス
- 三 講義ノ進行ニ從ヒ時々練習問題ヲ課スルコトヲ要ス

哲學概說教授要目

(大正十二年文部省訓令第二號)

第三學年 (約九十時間)

教授方針

主要ナル哲學問題發生ノ理路ヲ説明シ之ニ關スル顯著ナル諸說ヲ舉示且批評シ哲學上重要ナル基礎概念ヲ與ヘ學語ノ明確ナル意味ヲ知ラシムルヲ主トスルコト但シ現代ノ哲學及一般學術並文化ニ關係アル點ニ重キヲ置ク

教授要目

- 一 哲學ノ概念
- 二 哲學ト科學
- 三 哲學ト宗教
- 四 哲學ト藝術
- 五 研究法一般ノ問題

哲學概說教授要目

- 六 辨證的方法
- 七 直觀的方法
- 八 先驗的方法
- 九 獨斷論、懷疑論、批判論等
- 一〇 實在ノ問題(形而上學一般)
- 一一 一元論、二元論、多元論等
- 一二 唯物論、唯心論等
- 一三 機械觀、目的觀等
- 一四 知識ノ問題(認識論一般)
- 一五 唯理論、經驗論、實踐論等
- 一六 實在論、觀念論等
- 一七 絕對論、相對論等
- 一八 論理主義、心理主義等
- 一九 主知說、主意說等
- 二〇 人生ノ問題(文化哲學一般)
- 二一 人生觀(樂天觀、歷世觀等)
- 二二 自由論、必然論等
- 二三 道德ニ關スル諸哲學說
- 二四 宗教ニ關スル諸哲學說
- 二五 藝術ニ關スル諸哲學說
- 二六 歴史、法律等ニ關スル諸哲學說

- 二七 孔子及先秦諸子ノ學
- 二八 漢唐宋明ノ學
- 二九 日本ノ儒教
- 三〇 印度古代ノ哲學及宗教
- 三一 印度ノ佛教
- 三二 支那ノ佛教
- 三三 日本ノ佛教
- 三四 希臘哲學
- 三五 基督教及中世哲學
- 三六 カント以前ノ近世哲學
- 三七 カント哲學
- 三八 カント以後ノ獨逸哲學
- 三九 十九世紀ノ英佛哲學
- 四〇 現代ノ哲學

備考

- 一 本要目ハ哲學概說ノ教授上主トシテ準據スヘキ教材ヲ擧ケタルモノニシテ其ノ選擇及排列ハ必スシ
モ之ニ據ルヲ要セス
- 二 要目中他ノ學科ト重複スルモノ(例ヘハ道德ニ關スル諸哲學說ノ如キ)ハ之ヲ省略スルコトヲ得
- 三 歴史の叙述ハ成ルヘク簡單ナルヲ要ス且必スシモ體系的論述ト分離シテ之ヲ説クヲ要セス
- 四 要目中ニ掲ケサル學說及學語ニシテ重要ナルモノハ適當ナル場所ニ於テ之ヲ説明スルヲ要ス

國語

文科

國語及漢文教授要目

(大正十三年文部省訓令第二號)

國語教授ヲ左ノ四部ニ分ツ

講讀 文法 作文 文學史

講讀

講讀ニ於テハ解釋、鑑賞、批評ノ三態度ヲ取ルヘシ

解釋

語句文章ノ意義思想ヲ正確ニ理解セシメ感情氣分ノ把握ニ注意セシムヘシ
國民性及國民精神ヲ理解セシムルト其ニ人性ノ眞ヲ會得セシムヘシ

鑑賞

文章創作ノ心理ニ透入スルコトニ注意セシメ文章樣式ノ時代的特色ト共ニ作家ノ個人的特徴ヲモ正確ニ
理解セシメテ各作家各文章ノ有スル特殊ナル美ヲ識別玩味スル美感ノ養成ニ力メシムヘシ

批評

批評ハ美學的修辭學的文法的ナルヲ主トスヘシト雖兼テ諸般ノ思想、知識、感情ニ就キテ穩健ナル指
導ヲ爲スヘシ

第一學年ニ於テハ主トシテ近古文(例ヘハ保元物語、平治物語、平家物語、太平記、增鏡、徒然草、新古今和
歌集、山家集、金槐集、讀曲、狂言等)第二學年ニ於テハ主トシテ中古文(例ヘハ源氏物語、枕草子、大鏡、
落窪物語、古今和歌集等)第三學年ニ於テハ主トシテ上古文(例ヘハ古事記、祝詞、宣命、紀記ノ歌、萬葉集

等)ヲ課シ近世文(例ヘハ奥ノ細道、鶉衣、雨月物語、春雨物語、西鶴、馬琴等ノ文、俳句、淨瑠璃、擬古文
等)ハ難易ニ從ヒテ適當ナル學年ニ之ヲ課ス又隨時現代文(代表作家ノ文)ヲ課シテ作文力ノ養成ニ資スルコト
アルヘシ

教科書ハ全本ヲ用フルヲ可ナリトスレトモ便宜抄本又ハ編纂物ヲ用フルヲ妨ケス

文法

既得ノ文法ノ知識ヲ整理シ國語學一般及各時代ノ語法ノ特徵ヲ授ケ現代文語法並ニ口語法ノ應用ニ習熟セシム
ヘシ

作文

口語體並ニ文語體ニ習熟セシムヘシ
少クトモ一箇月一回之ヲ課シ適當ナル時期ニ於テ作文ニ必要ナル修辭學上ノ知識ヲ授クヘシ

語句ノ推敲構想ノ整齊修辭ノ妥當ニ注意セシメ又内容ニ應ジテ文ノ姿致ヲ變化セシム工夫ヲ積マシムヘシ
添削ヨリモ批評ヲ重シシ常ニ個性ノ發揮ヲ誘導シ好シテ文章ヲ綴ルノ習慣ヲ得シムヘシ

文學史

文學書ノ解題文學者ノ傳記文例等ハ之ヲ適當ナル參考書ニ依リテ授ケ講義ハ文學ノ史的展開及文學ニ現レタル
國民思想ノ主流ヲ説述シ作品及作家ノ評論ヲ爲スヘシ

時間數及其ノ配當ハ左ノ如シ

第一學年 每週三時間 講讀二時間 文法一時間

第二學年 每週三時間 講讀二時間 文學史一時間

第三學年 每週三時間 講讀二時間 文學史一時間

作文ノ時間ハ適宜ニ之ヲ定ムヘシ

理科

國語及漢文教授要目

國語教授ヲ左ノ二部ニ分ツ

講 讀 作文

講 讀

教科書ハ文科ニ準シ講讀ト併セテ國民思想ノ發達文學ノ史的展開ヲ說述スヘシ
解釋ハ略文科ニ準スト雖語句ノ解釋ニ偏セス全文ノ理解ヲ重ンスヘシ
鑑賞批評ノ指導ハ適宜ニ之ヲ爲スヘシ

作 文

文科ニ準ス但シ適當ナル時期ニ於テ作文ニ必要ナル文法ノ知識ヲ授クヘシ
時間數ハ左ノ如シ

第一學年 每週二時間 講讀二時間

第二學年 每週二時間 講讀二時間

作文ノ時間ハ適宜ニ之ヲ定ムヘシ

漢 文

教授方針

高等學校規程第六條ノ要旨ニ基ツキ特ニ道義的觀念文學的趣味ヲ涵養スルニ足ルヘキ教材ニ依リ生徒ヲシテ讀
書作文力ヲ養ヒ兼テ東洋道徳思想ノ淵源ヲ知ラシメンコトヲ力ムヘシ

講讀ニ於テハ語句ノ意義ヲ解釋シ文章ノ要旨ヲ明カニシ且其ノ形式ノ時代的特色ヲ說明シ場合ニ依リテハ作家
ノ個人的特徴ヲモ示シ尙思想ニ關シテ適切ナル批判ヲ下スヘシ

教授時數

文 科 第一學年 每週二時間

國語教授ヲ左ノ二部ニ分ツ

講 讀 作文

講 讀

教科書ハ文科ニ準シ講讀ト併セテ國民思想ノ發達文學ノ史的展開ヲ說述スヘシ
解釋ハ略文科ニ準スト雖語句ノ解釋ニ偏セス全文ノ理解ヲ重ンスヘシ
鑑賞批評ノ指導ハ適宜ニ之ヲ爲スヘシ

作 文

文科ニ準ス但シ適當ナル時期ニ於テ作文ニ必要ナル文法ノ知識ヲ授クヘシ
時間數ハ左ノ如シ

第一學年 每週二時間 講讀二時間

第二學年 每週二時間 講讀二時間

作文ノ時間ハ適宜ニ之ヲ定ムヘシ

漢 文

教授方針

高等學校規程第六條ノ要旨ニ基ツキ特ニ道義的觀念文學的趣味ヲ涵養スルニ足ルヘキ教材ニ依リ生徒ヲシテ讀
書作文力ヲ養ヒ兼テ東洋道徳思想ノ淵源ヲ知ラシメンコトヲ力ムヘシ

講讀ニ於テハ語句ノ意義ヲ解釋シ文章ノ要旨ヲ明カニシ且其ノ形式ノ時代的特色ヲ說明シ場合ニ依リテハ作家
ノ個人的特徴ヲモ示シ尙思想ニ關シテ適切ナル批判ヲ下スヘシ

教授時數

文 科 第一學年 每週二時間

理 科 第二學年 每週二時間

第三學年 每週二時間

第一學年 每週二時間

教 材 文 科

第一學年

四書 史記 漢書 資治通鑑等ノ類

支那歷代名家ノ詩文

第二學年

四書 春秋左氏傳 戰國策 荀子 韓非子等ノ類

支那歷代名家ノ詩文

第三學年

尚書 禮記 莊子 墨子 孫子等ノ類

哲學思想ニ關スル漢唐以後ノ主要ナル著作

支那歷代名家ノ詩文

理 科 第一學年

文科第一學年ニ準ス

第二學年 (配當時數アルトキ)

文科第二學年ニ準ス

備考

- 一 前記教材ノ撰擇排列ニ就キテハ多少ノ斟酌ヲ爲スコトヲ妨ケス
- 二 時文小説等ノ類ハ隨時之ヲ附課スルコトヲ得
- 三 文學史及文法ニ關スル事項ハ教材ニ就キテ隨時之ヲ教授スルモノトス
- 四 教材ニハ句讀ヲ施シ返點ヲ附セサルヲ原則トス

國語漢文ノ配當時數ハ教授上ノ都合ニ依リテ多少ノ斟酌ヲ加フルコトヲ得

圖書教授要目

(大正十三年文部省訓令第二號)

第一學年 (約六十時間)

自在畫

鉛筆畫、木炭畫、水彩畫等

幾何畫

一 概説

製圖ニ關スル一般ノ注意

製圖用器具ノ檢査、修理及使用方法

尺度(普通尺、斜線尺、遊尺等)

二 平面幾何畫

圓錐曲線

高等曲線

第二學年 (約六十時間)

三 立體幾何畫

正投影圖

點、線、平面、平面圖形、立體、曲面、切面、截斷、展開、相貫體

第三學年 (約六十時間)

正投影圖

陰影

附 等角投影圖、平面投影圖

斜投影圖

透視圖

備考

一 此ノ要目ノ外計算尺使用法、圖式計算法、工學製圖ヲ課スルコトヲ得

二 此ノ要目ニ準ケタル教材ノ取捨排列ニ就キテハ多少ノ斟酌ヲ加フルコトヲ得

三 第一學年ノ自在畫ト幾何畫トノ授業時數ハ略同一トス但シ事情ニ依リ増減スルコトヲ得

歷史教授要目

(大正十四年文部省訓令第二號)

日本史

第一學年 (約九十時間)

緒論

上世

歷史教授要目

- 一 日本民族ト其ノ國家ノ成立
 - 二 皇室中心ノ民族制度
 - 三 支那文化ノ傳來 歸化人
 - 四 佛教ノ傳來 敬神崇佛ト神佛混合
 - 五 國家思想ノ發達ト大化ノ改新 國史律令ノ撰修
 - 六 奈良朝ノ政治及佛教 文學及美術工藝
 - 七 平安朝初期ノ政治外交
 - 八 攝關政治 院政
 - 九 平安朝ノ佛教 假名國文ノ發達 美術工藝 淨土信仰ト庶民藝術
 - 一〇 莊園ト武士 源平二氏ノ興亡
- 中 世
- 一一 鎌倉幕府ノ成立 守護地頭 武士道 貞永式目
 - 一二 朝廷ト幕府トノ關係
 - 一三 元ノ來寇ト我逆襲計畫 國民自覺 幕府財政ノ破綻
 - 一四 佛教ノ新宗派
 - 一五 鎌倉時代ノ文學及美術工藝
 - 一六 建武中興ト公武ノ抗爭
 - 一七 室町幕府ノ組織政治上社會上ノ缺陷
 - 一八 支那及朝鮮トノ交通
 - 一九 室町時代ノ文學及美術工藝 能樂 茶道
 - 二〇 諸大名ノ分裂ト社會組織ノ解體

- 近 世
- 二一 西洋諸國人ノ渡來 天主教ノ弘通 西洋文化ノ傳播
 - 二二 都市ノ發達 國民ノ對外活動
 - 二三 皇室ト國民トノ接近
 - 二四 織田、豐臣二氏ノ統一事業 美術工藝

- 二五 江戸幕府ノ成立 社會組織ノ整頓
 - 二六 鎖國ノ由來ト其ノ影響
 - 二七 學問ノ勃興ト其ノ傾向
 - 二八 元祿時代ノ經濟及世相 町人文學 美術工藝
 - 二九 商工業ノ發達
 - 三〇 正徳ノ政治 享保ノ改革
 - 三一 寬政ノ改革 諸藩ノ治 天保ノ改革
 - 三二 國史ノ編纂 國學ノ獨立
 - 三三 尊皇思想ノ勃興
 - 三四 洋學ノ研究
 - 三五 文化、文政時代ノ文學 美術工藝
 - 三六 歐米、極東經路ト我對策
 - 三七 政局ノ變轉ト國論ノ沸騰 江戸幕府ノ瓦解
- 現 代
- 三八 明治維新 國是ノ確立 政治的社會的變革
 - 三九 立憲思想ノ發達 立憲政體ノ確立

- 四〇 條約改正 法典制定 國權ノ恢復
- 四一 東洋ノ平和ト我國策ノ實現 日清戰役 日露戰役
- 四二 日英同盟 日韓併合
- 四三 實業ノ發達
- 四四 政黨政治ノ進歩
- 四五 明治、大正時代ノ思想
- 四六 明治、大正時代ノ科學、文學及美術
- 四七 世界大戰後ノ帝國ノ地位

備考

- 一 教授ノ内容ハ古代ヨリ現代ニ進ムニ從ヒ漸次之ヲ詳細ニスヘク殊ニ現代ハ中學校ニ於テ修得ノ機ナカリシ生徒多數ヲ占ムヘキヲ以テ最モ詳説ニ力メンコトヲ要ス、然レトモ古代ヨリ現代ニ至ルマテ史的發展ノ連續的ナルコトヲ史實ニ依リテ證明スヘシ
- 二 本要目ハ多少其ノ順序ヲ變更シ又ハ分合ヲ行フコトヲ妨ケス
- 三 緒論ニ於テハ我國ノ地理的位置、時代別、資料等ニ就キテ説明スヘシ但シ教員ノ見込ニ依リ之ヲ省略スルコトヲ得
- 四 東洋史、西洋史ト交渉アル事跡ハ日本史ノ立場ヨリ説明スルハ勿論ナレトモ成ルヘク重複ヲ避ケヘシ
- 五 生徒ニハ成ルヘク漢メ講義内容ノ摘要ヲ授クヘシ但シ教科書ヲ用フル場合ハ此ノ限ニアラス

東洋史

第二學年（約九十時間）

緒論

上古

- 一 唐虞、夏、殷及西周
- 二 春秋戰國時代
- 三 周末ノ學術
- 中 古
- 四 秦ノ始皇帝ノ統一
- 五 西漢ノ初世 武帝ノ內治
- 六 西漢時代ノ外國經略
 - イ 南越トノ關係
 - ロ 匈奴トノ關係
 - ハ 朝鮮トノ關係
 - ニ 西域トノ關係
- 七 西漢ノ衰微 東漢ノ興起
- 八 東漢ノ塞外經略
 - イ 匈奴トノ關係
 - ロ 西域トノ關係
- 九 佛教ノ東漸
- 一〇 漢代ノ學術
- 一一 東漢ノ末世 三國ノ鼎立
- 一二 西晉ノ興亡 五胡
- 一三 晉ノ南渡 南方ノ開發
- 一四 南北朝ノ對立

- 一五 南北朝時代ノ宗教學藝
- 一六 隋ノ統一 唐ノ初世
- 一七 唐ノ外國經略
 - イ 高句麗、新羅、百濟及日本トノ關係
 - ロ 吐蕃、印度トノ關係
 - ハ 突厥、回鶻トノ關係
 - ニ 中央亞細亞經略
 - ホ 波斯、大食トノ關係
- 一八 武曠ノ内亂 玄宗ノ中興
- 一九 安史ノ亂
- 二〇 唐ノ衰微
- 二一 唐代ノ制度學藝宗教
- 近古
 - 二二 五代 契丹ノ興起 渤海ノ興亡
 - 二三 宋ノ統一
 - 二四 宋遼ノ交涉 西夏ノ興起
 - 二五 宋ノ神宗ノ改革 新舊兩黨ノ争
 - 二六 女眞ノ興起 遼ノ滅亡
 - 二七 宋ノ南渡 宋金ノ交涉
 - 二八 宋代ノ宗教學藝 南海ノ通商
 - 二九 蒙古ノ興起

- 三〇 成吉思汗ノ西征
- 三一 西夏及金ノ滅亡
- 三二 拔都及旭烈兀ノ西征 蒙古諸汗國ノ成立
- 三三 宋ノ滅亡 元ト高麗 日本及南滿洲國トノ關係
- 三四 元ノ極盛
- 三五 東西ノ交通 西域人ノ支那内地移住
- 三六 元ノ衰滅
- 三七 明ノ初世
- 三八 蒙古諸汗國ノ盛衰 帖木兒王朝ノ興亡
- 三九 明ノ中世
- 四〇 北虜南倭 朝鮮ノ役 明ノ衰微
- 四一 元明時代ノ學藝
- 近世
 - 四二 歐人ノ東漸、葡、西、蘭、英諸國ノ東洋通商
 - 四三 天主教徒ノ東亞布教
 - 四四 清ノ興起 清ト朝鮮トノ關係 明ノ滅亡
 - 四五 清ノ聖祖 高宗ノ武功及文治
 - 四六 清代ノ學藝 天主教徒ノ事業
 - 四七 莫臥兒帝國 英人ノ印度征服
 - 四八 阿片戰役 長髮賊ノ亂 英佛聯合軍ノ北京進擊
 - 四九 露西亞ノ亞細亞侵略 清露ノ關係 英露ノ關係

- 五〇 佛蘭西ノ印度支那侵略 清佛戰役
- 現代
- 五一 日清戰役 歐洲諸強國ノ清國壓迫 戊戌ノ變 義和團ノ亂
- 五二 日露戰役 日英同盟
- 五三 清ノ滅亡 中華民國ノ成立
- 五四 民國成立後ノ支那
- 五五 日本ト民國トノ關係
- 五六 東亞ノ現狀

備考

- 一 教授ノ内容ハ古代ヨリ現代ニ進ムニ從ヒ漸次之ヲ詳細ニスヘキモ古代ノ學說制度等ニシテ後世ニ深キ影響ヲ及ボシシモノハ特ニ詳説スルヲ要ス
- 二 本要目ハ多少其ノ順序ヲ變更シ又ハ分合ヲ行フコトヲ妨ケス
- 三 緒論ニ於テハ東洋史ノ定義及範圍、東洋史上ノ民族、東洋史ノ時代別等ノ如キ豫備知識ヲ授クヘシ但シ教員ノ見込ニ依リ之ヲ省略スルコトヲ得
- 四 支那以外ノ諸邦國諸民族ノ沿革興亡ニシテ教授ヲ要スルモノハ成ルヘク關係アル適宜ノ場所ニ附説シテ(例ヘハ印度古代ノ事蹟ハ佛教ノ東漸ノ章ニ古朝鮮ノ事蹟ハ西漢ノ外國經略ノ章ニ附説スルカ如ク)聯絡ヲ保ツニ注意スルコトヲ要ス
- 五 東西ノ交通彼此文化ノ影響ニ注意スルヲ要ス
- 六 外族カ支那ヲ支配セシ時代ニハ其ノ外族ノ對漢族政策ニ注意スルヲ要ス
- 七 日本史、西洋史ト交渉アル事蹟ハ東洋史ノ立場ヨリ説明ヲ要スルハ勿論ナレトモ成ルヘク重複ヲ避クヘシ

西洋史

第二學年 (約六十時間)

緒論

上古

- 八 生徒ニハ成ルヘク豫メ講義内容ノ摘要ヲ授クヘシ但シ教科書ヲ用フル場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 一 大古東方諸國ノ興亡及其ノ文化史的意義
- 二 希臘民族ノ興起 都市國家 スパルタトアテネ
- 三 波斯戰役 アテネノ民主政治
- 四 希臘文化ノ發展及其ノ後世ニ及ボセル影響
- 五 希臘諸國ノ爭覇 マケドニアノ勃興
- 六 アレクサンドル大王 ヘレニズム
- 七 羅馬ノ興起 其ノ共和政治 伊太利征服
- 八 羅馬ノ地中海沿岸征服 政治上及社會上ノ變動
- 九 武將ノ專權 帝政ノ成立
- 一〇 羅馬帝國内外ノ情勢
- 一一 羅馬ノ文化 其ノ希臘文化トノ關係 羅馬ノ世界史的使命
- 一二 基督教ノ起原 其ノ傳播 正教會ノ成立

中古

- 一三 ゲルマニヤ諸民族ノ大移動 上古文化ノ荒廢
- 一四 東羅馬帝國ノ盛衰 希臘、羅馬兩教會ノ分離 ビザンツ文化
- 一五 サラセンノ勃興 回教及其ノ文化 基督教世界ト回教世界トノ對抗

- 一六 フランク王国ノ興隆 羅馬法王トノ締託
 - 一七 チャールス大帝ノ事業 其ノ帝國ノ分裂
 - 一八 ノルマンノ活躍ト其ノ建設セル諸國 マジャールノ侵入
 - 一九 神聖羅馬帝國ノ成立 俗權ト教權トノ衝突
 - 二〇 封建制度ノ成立 封建時代ノ社會及經濟狀態
 - 二一 十字軍 都市ノ興起 人智ノ開發
 - 二二 皇帝及法皇ノ勢力失墜
 - 二三 近代國家ノ成立
 - 二四 蒙古ノ西侵 土耳其ノ勃興
 - 二五 ヒューマニズムノ發達 文藝ノ復興
 - 二六 地理上ノ發見 葡西兩國ノ活躍 歐洲經濟狀態ノ變化
- 第三學年 (約百二十時間)
- 二七 獨逸及其ノ他諸國ノ宗教 改革其ノ反動
 - 二八 西歐諸國ニ於ケル宗教及政治上ノ紛争 和蘭ノ獨立
 - 二九 三十年戰役及其ノ影響
 - 三〇 專制主義ノ勃興 インクランドノ革命ト民權ノ發達
 - 三一 佛蘭西ノ專制政治ト外國侵略 西班牙繼承戰役
 - 三二 佛蘭西文化ノ隆盛及其ノ影響
 - 三三 海上權ノ推移トマーカチリズム
 - 三四 露西亞ノ興隆 北方戰役 露西亞ノ東侵 波蘭ノ分割

近古

- 三五 普魯西ノ興起 其ノ軍國的政治 魏太利繼承戰役 七年戰役
- 三六 英佛ノ對抗ト植民地戰役
- 三七 萊吉利ノ對植民地政策 北米合衆國ノ獨立
- 三八 啓蒙思想ノ興隆 新學說ノ流行 科學ノ進步

近世

- 三九 佛蘭西大革命 革命政府ノ對外關係
- 四〇 ナポレオンノ偉業 解放戰役 ウイーン會議
- 四一 神聖同盟 反動政治ノ全盛
- 四二 民族主義及自由主義 ロマンチズム
- 四三 希臘及ラテン、アメリカ諸國ノ獨立 モンロー主義
- 四四 産業革命 フランスヨアノ優勢 社會主義ノ發生
- 四五 七月革命 白耳義ノ獨立 英吉利憲法政治ノ改革
- 四六 二月革命 佛蘭西ノ第二共和政治 歐洲諸國ノ民族の動亂
- 四七 佛蘭西ノ第二帝政 クリミア戰役
- 四八 伊太利ノ民族の統一 法皇ト伊太利政府
- 四九 普魯シノ爭鬪 獨逸ノ民族の統一
- 五〇 十九世紀ノ文化
- 唯物的傾向 化學ノ大進步 文藝ノ寫實的傾向 世界交通ノ擴大
- 五一 北米合衆國ノ内情 南北戰役 戰役後ノ發展
- 五二 統一後獨逸ノ内政
- 文化闘争獨逸社會民主黨 ビスマルクノ經濟政策、社會政策及植民政策

- 五三 佛爾西ノ復興
- 共產黨ノ亂 諸黨派ノ抗爭 第三共和政治ノ確立 植民政策 政教分離
- 五四 露西亞ノ内情
- 農奴解放 虛無黨 革命運動 議會開設
- 五五 英吉利ノ國情
- 自由貿易 愛蘭問題 帝國統合策
- 五六 北米合衆國ノ帝國主義
- 資本主義的飛躍 米西戰役 パナマ運河開鑿 米墨關係
- 五七 列強ノ世界政策
- イ 亞細亞ニ於ケル列國ノ經營
- ロ 阿弗利加ニ於ケル列國ノ經營
- 英吉利ノ埃及經營 南阿戰役 獨、佛、白等ノ經營
- ハ 太平洋ニ於ケル列國ノ經營
- 英吉利ノ太平洋拓殖 北米合衆國ノ布哇併合及フィリッピン獲得 獨佛ノ大洋洲諸島獲得
- 五八 バルカン諸民族ノ獨立運動 露土戰役 伯林會議
- 五九 獨佛戰役後ノ歐洲國際關係
- 獨佛同盟 三國同盟 露佛同盟 英佛協商 英露協商
- 現 代
- 六〇 世界大戰勃發前歐洲ノ形勢
- イ 三國同盟ト三國協商 英獨ノ對抗 モロッコ問題
- ロ 伯林會議後ノバルカン 希土戰役 土耳其ノ革命 バルカンニ於ケル露、獨、埃勢力ノ衝突 伊土

戰役 バルカン戰役

- 六一 世界大戰ノ勃發 其ノ經過 北米合衆國ノ參戰
 - 六二 露西亞ノ革命ト單獨講和 獨埃ノ革命ト休戰
 - 六三 巴里講和會議ダエルサイニ條約 其ノ他ノ諸條約
 - 六四 大戰後ノ世界
 - 歐洲形勢ノ激變 民族自決主義 諸新國ノ興起 國際聯盟 勞農政治 露西亞ト波蘭 英佛ノ對獨方針 上シレシヤ問題 華盛頓會議 希土戰役 近東處分ノ改定 獨逸賠償問題 英吉利憲法政治ノ變化 戰後諸國ノ國情
 - 六五 最近ノ文化及風潮
 - イ 最近ニ於ケル科學ノ應用 交通通信機關ノ進歩及普及
 - ロ 民主的傾向 勞働運動 婦人運動 平和主義 人類協調精神ト民族發展精神
- 備 考
- 一 教授ノ内容ハ古代ヨリ現代ニ進ムニ從ヒ漸次之ヲ詳細ニスヘキモ古代ヨリ現代ニ至ルマテ史的發展ノ連續的ナルコトヲ史實ニ依リテ證明スヘシ
 - 二 本要目ハ多少其ノ順序ヲ變更シ又ハ分合ヲ行フコトヲ妨ケス
 - 三 緒論ニ於テハ世界史上ニ於ケル西洋史ノ位置、先史時代及有史時代ノ意義、西洋史上ノ民族、西洋史ノ時代別等ニ就キテ説明スヘシ但シ教員ノ見込ニ依リ之ヲ省略スルコトヲ得
 - 四 日本史、東洋史ト交渉アル事項ハ西洋史ノ立場ヨリ説明スルハ勿論ナレトモ成ルヘク重覆ヲ避ケシ
 - 五 生徒ニハ成ルヘク豫メ講義内容ノ概要ヲ授クヘシ但シ教科書ヲ用フル場合ハ此ノ限ニ在ラス

法制及經濟教授要目

(大正十五年文部省訓令第四號)